

第十二章 補助艦保有量問題

第一節 序 説

補助艦保有量問題ハ本會議招集ノ主要目的タルト同時ニ最大難關タルヲ以テ各國全權ハ會議ノ初頭ニ於テ打合ヲナシ公式會合ニ於テハ極メテ概括的ナル聲明ヲナスニ止メタルカ本問題ハ其ノ後ノ總會第一委員會及其他ノ委員會ニ於テ討議ノ主題タリシ事ナクニ各國全權其他少數者間ノ内交渉ニ委セラレタリ

各國間ノ
内交渉

會議開會後ニ於ケル日英間ノ内交渉ハ一月二十二日日英首席全權ノ會談ニ初マリ其ノ結果一月二十四日日英專門委員ノ會談行ハレタルモ何等進展セス更ニ一月二十八日日英全權ノ會談ヲ經テ同月二十九日齋藤「クレイギー」間ニ會談アリタルモ双方ノ主張接近セサリキ日米間ニ於テハ何等ノ内協議行ハレサリシカ米國側ハ二月五日日英兩國ニ對シ其ノ試案ヲ提示シ翌六日夜其ノ要領ヲ發表セリ茲ニ於テ英國側ハ七日我方及佛國側ハ十三日伊國側ハ十九日各々其ノ態度ヲ聲明セリ

日米兩國
ノ試案提
示

五日提示ノ米國試案ニ對シテハ英米間及日米間ニ意見ノ交換行ハレ十二日ニ至リ帝國試案ノ提示ヲ見十七日日英米三國全權間ニ討議アリタルカ日米間ニ大ナル意見ノ間隔アリテ交渉全然行詰トナレリ

松平「リ
ード」私
的會談ノ
開始

右局面ヲ打開スル爲メ二月二十五日ヨリ松平全權「リード」全權間ニ私的會談開始セラレ同日提示セル「リード」試案ニ對シ我方ヨリモ試案ヲ提示シ「リード」試案ノ受諾不可能ナル旨ヲ述ヘタルニ二十八日「リード」ハ米國側ニ於テ我提案ニ反對ナル旨ヲ述ヘタリ越テ三月二日我方ヨリ第二次提案ヲ示シタルモ翌三日「リード」ハ米國側（及英國側）ノ受諾シ得サルコトヲ答ヘタリ

米國側最
終讓歩案

斯テ兩國ノ私的會談モ漸ク行詰ラントセル處三月七日若槻全權ト「スティムソン」トノ會談ノ結果之ヲ促進スルコトナリ同八日及十日「リード」ハ其ノ第一次試案ノ修正案ヲ提出セリ其後右案ヲ基礎トシテ三月十二日若槻全權「スティムソン」間及同月十三日若槻全權「リード」間ニ會商行ハレ米國側最終讓歩案ヲ得タリ

日英交渉

日米交渉ニ關聯シ英國側トハ齋藤「クレイギー」間ニ數次ノ會談アリ三月四日ニハ松平全權「マクドナルド」間又三月十三日ニハ若槻全權「マクドナルド」間ニ會談行ハレタルモ英國側ハ常ニ我方ニ對シ米國側ト同一ノ態度ヲ保持シタリ

全權請訓

我全權ハ三月十四日米國側最終讓歩案ニ關シ帝國政府ノ訓令ヲ請ヒ若槻全權ハ同月二十五日其ノ所見ヲ稟申シタル處帝國政府ハ四月一日右案ノ骨子ヲ條約案ノ基礎トナスコトヲ承認セリ

英佛内交
渉

英佛間ノ内交渉ハ二月中旬ヨリ行ハレタルモ同月十七日政變ノ結果頓挫シ二月二十六日首席全權會議ノ開催ヲ見内協議ノ進捗ヲ計ラントシタルモ結局佛國新全權ノ來英ヲ待ツコトナレリ、政變後即三月九日、十日、十二日ノ三回「ブリアン」ヲ首班トスル佛國側ト英米側トノ間ニ内協議アリ十五日ニハ「タルデュー」ト「マクドナルド」トノ間ニ會談アリタルモ依然問題ノ解決ヲ見ス（三月二十五日及二十七日ノ首席全權會議ハ本會議ノ不評ヲ改善スル爲メ總會開催ノ件ヲ審議セリ）越テ三月二十六日來倫セル「ブリアン」ト「マクドナルド」トノ間ニ更ニ會商行ハレタルモ纏ル所ナク四月一日我回訓以降モ數次會談アリタルモ遂ニ何等ノ協定ニ達スルコトヲ得サリキ（佛伊間ノ交渉ハ英佛會談ノ間ニ於テ時々行ハレタルモノノ如キモ双方共其ノ主張ヲ固持シテ動カス會談毫モ進捗セサリキ）斯ノ如ク補助艦保有量等ニ關シ五國間ノ協定成立ノ見込ナキニ至リタル結果英國側ノ希望ニ依リ所謂保障條項ヲ條約中ニ挿入スルコトナレリ

（尙本章記述ノ補助艦保有量問題ノ梗概ニ付テハ第一章總說參看）

第二節 日英内交渉

一月二十二日乃至二十九日ノ間行ハレタル前後四回ノ日英會談左ノ如シ（概要ニ付テハ第一章第一節參看）

（一）日英首席全權會談

一月二十
二日日英
首席全權
會談

一月二十二日米ニ依リ若槻全權ハ英首相ヲ官邸ニ往訪シタリ（「クレイギー」齋藤部長同席）首相ハ日英間ニ何等カノ諒解ニ達スルコトヲ是非共必要ナリト思考シ過去數次ノ會談ニ付熟考ヲ廻ラシタルカ日本主張ノ

英首相
歩

若槻全權
ノ

我態度
對首相
判並日
英提

比率ハ米國海軍ニ對スルモノニシテ英國海軍ト關係ナキハ最難點ニテ之ニ同意ヲ與フルコト絶對ニ不可能ナリ今日ハ全然
友誼的ニ又掛引ナク懸談ヲ遂ケ度キ次第ナルカ双方ニ受諾シ得ヘキ何等カノ方案ナキヤト問ヒタルニ付若槻全權ハ先般來
ノ御話ニテ首相ノ苦衷ハ充分諒解スルモ余亦非常ナル苦境ニ立テリ現ニ二十一日議會解散直前反對黨ハ政府ニ向テ政府ノ
軍縮ニ對スル要求ハ之ヲ動かスコトナキヤ如何ト肉迫シ政府ハ其態度ヲ動かササルヘキ固キ決心ヲ表明シテ國民ノ信賴
ヲ求メ居レリ此度余ハ外交事務ニ不慣レノ身ヲ以テ全權ノ任務ニ當レルコトナレハ總テヲ投出シテ御考慮ヲ仰キ居ルモノ
ナルニ付比率問題ニ付テハ全ク動キ得サル立場ニ在リ乍然我々兩人ニテ自由ニ將來ヲ拘束スルコトナク懸談スルハ望ム所
ニシテ何等カ解決ノ方策ニ付御案アラハ承リ度シト問ヒタルニ首相ハ別ニ新案アルニ非ス唯日本側ニ於テ既ニ申上ケタル
所ニ基キ何ノ邊迄「アコモデート」セラルヘキヤト問カンテ欲ス英國トシテハ英國海軍ニ關係ナキ比率ヲ基トスル日本ノ要
求ヲ基礎トシテハ到底調印ヲ爲スコト能ハス若シ日本ニシテ其ノ立場ヲ固持セラルレハ何事モ爲スコト能ハサルヘシト述
ヘタルニ依リ、若槻全權ハ英米均勢ナルニ付理論上ハ米國ニ比率ヲ取レハ英國ニ對シテモ同一ナリト國民ハ信シ居レルニ
不拘現實ノ數字ヨリ觀レハ然ラス英ヲ目當トシテ比率ヲ取レハ艦種ニ依リテハ米國ニ對シ著シク低率トナリ國民ノ到底滿
足シ得サル所ナリ日本ハ初メヨリ七割ナル劣勢ニ満足スルカ故ニ攻撃ノ意思ナキコト明白ナルニ不拘其ノ主張ノ認メラレ
サルハ國民ノ諒解ニ苦シム所ナルヘシ乍然斯ノ如キ説明ヲ繰返スモ益ナカルヘシト述ヘ二十三日の總會ニ於テハ概括的言
明ヲナスニ止メ我要求ノ委細ハ他ノ機會ニ讓ルヘキモ英首相ニ於テ我方カ如何ナル要求ヲナスヲ以テ至當トセラルヤト
述ヘタリ、茲ニ於テ英首相ハ日本側ノ執ラル態度ヲ思フ毎ニ當惑ヲ感ス余ノ最モ惱ミトスル所ハ日本カ八吋砲型ニ於テ
米國トノ關係ノミヲ考ヘ其ノ對英比率ヲ考慮セス十割十一割ニ及フモ已ムヲ得ストナスカ如キ點ニ在リ日本ノ主張ノ最大
缺點ハ其「リヂデイトー」ニアリ解決ノ途ヲ發見スルカ爲ニハ餘リニ伸縮性ヲ缺クモノト言ハサルヘカラス若シ日本カ或國
例ヘハ米國トノミ交渉スル如キ場合ニ於テハ斯ル態度モ諒解シ得ヘシ唯列國協調ヲ計ラントスル今日右様ノ態度ハ我方ノ
最困却スル所ナリ就テハ此際「クレイヤー」外一名位ト貴方一二名ノ代表者ト懸談セシムルコトトシテハ如何今日迄數次ノ

若槻全權
主我七割
由主我七
方發談明
同備

會議ニ於テ我方ヨリ「リीडナブル」ナル立場ヲ申述ヘタルニモ不拘日本側カ一步モ退カサルハ困却ノ至リニテ事ヲ斯ル
別途ノ方法ニ依リ調和點ノ發見ヲ試ミ度シト提言シタルニ付、若槻全權ハ我方ノ主張カ華府會議當時ヨリノ主張ニシテ當
時主力艦比率ニ付テハ國民ノ満足ヲ得ル能ハス華府條約ノ規定セサル艦種ニ付テハ七割ナラサルヘカラルサルコト國民ノ信
念トナリ居レリ余カ如何ニモ頑固ナルカ如キハ誠ニ不本意ナルモ國論ヲ代表スル立場ヨリ已ムヲ得サル次第ナル事ヲ諒承
セラレ度シト述ヘ更ニ貴我双方ニ成案無ク此ノ上正面ヨリ話ヲ進ムルモ詮ナカルヘキニ付別途解決ヲ計ルモ一策ナルヘシ
ト思考ス我方ハ何時ニテモ代表者ヲ出スノ用意アリト述ヘタリ

茲ニ於テ英首相ハ然ラハ右様決定スヘシ(尙稍氣色バミテ)予ノ取り得ル最惡ノ措置ハ此ノ際日本ニ對シ英國ハ華府比率
ノ増率ヲ認メ七割ヲ承認スヘシ但シ若シ一隻ニテモ之ニ超過シテ建造セラルレハ之ヲ條約違反トスト揚言スルニアルヘシ
(對米比率ハ英國ノ關知セサル所ナリトノ意ナラン)ト述ヘタルニ付キ若槻全權ハ論理難カシキ御言葉ニテ理解シ難キモ華
府會議ノ時ハ英米勢力カ同一ナリシヲ以テ事容易ナリシモ今同ハ英米間數字ノ同シカラサルコト困難ノ點ナリ日本國民ハ
必ス其ノ論理ヲ高唱スヘシ然シナカラ此ノ點幾度繰返スモ同様ナレハ此ノ上ハ「クレイヤー」氏ノ非公式會談ニ讓リタシ
ト述ヘタリ

一月二十
四日英
全權會
方英蘭
申出

尙同日會見ノ當初二十四日日英全權全員ノ會合(自治領代表一二名ヲ加フ)ヲ催シ度キ旨先方ヨリ申出アリ之ニ同意ヲ表
シ置キタル處以上ノ如ク會談行詰リトナリタル關係上首相ハ會談ヲ終ルニ先チ再ヒ本件ニ言及シ如何ナル問題ヲ上議スヘ
キヤト申出タルニ付若槻全權ハ右會合ハ寧ロ「クレイヤー」委員會ノ結果ヲ俟テ開催スル方然ルヘキニ非ラスヤト述ヘタ
ルニ首相ハ出來得ル丈ケ速ニ事務ヲ進ムルノ必要ニ鑑ミ二十四日比率問題ニ關係ナキ主力艦問題及若シ時間アラハ艦種間
ノ噸數融通問題ヲ討議スルコトトシテハ如何ト述ヘ右ニ決定セリ

右二十四
日會合
延期米
蘭側申
出

右二十四日ノ會合ニ關シ二十三日午後「リीड」ハ「スティムソン」ノ命ニ依ル趣ヲ以テ若槻全權ニ會見シ右會合ハ餘リニ
唐突ニシテ其ノ意ノ容邊ニ在ルヤヲ知ラス米國側ハ日本側ニ於テ希望スルニ於テハ「マクドナルド」ヨリ十一時二三國

ノ會合ヲ催シ度シト恰モ我方ニ於テ希望セルカ如ク申出タリト云フ）何時ニテモ會合スヘキモ此種會合ハ尙三四日延期スル方然ルヘシト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタルニ付若槻全權ハ我方ノ發案ニ非ル旨ヲ明ニシタル後二十三日午後四時首席全權會合ノ機會ニ於テ「スティムソン」ヨリ延期方提言アラハ喜ンテ之ニ同意スヘシト述ヘタリ

右二十四日會合ノ延期方決

二十四日首席全權會合後「スティムソン」ヨリ延期ノ提言アリ若槻全權ニ於テ之ニ同意セル處「マクドナルド」ハ必スシモ米國側ノ參加ヲ求メタルニ非ス幾分「スティムソン」ニ誤解アリタルモノト思考スト答ヘ尙所謂「クレイギー」委員會カ本日開催ノ暇ナク二十四日正午トナリタル以上之ヲ延期スルコト然ルヘシト主張シ結局次週迄延期スルコトナリタリ

(二) 日英專門委員會合

一月二十四日英專門委員會

日英首席全權會談ノ結果日英專門家ハ一月二十四日首相官邸ニ會合セリ（我方齋藤、豐田、中村先方「クレイギー」、「ベール」大佐「キング」大佐）

英國側主
張巡十
八條案
ノ再提
議

英國側ハ依然會議開會前ノ提案タル大型巡洋艦日、英、米夫々十二、十五、十八ノ案ニ對スル我方ノ考慮承認ヲ求メ

一、今次會議ノ協定ハ英國側ニテハ一九三六年迄ノ暫定協定トシ度キ意嚮ナルカ一方不戰條約ノ成立モアリ其間戰爭ノ危險ハ頗ル小ナルヘキヲ以テ日本モ右政治的安全率ヲ考慮シ該期間内ハ現有勢力ニテ満足セラレタシ右期間經過後ハ新タナル基礎ニテ條約ヲ改訂スルモ可然又今ヨリ古鷹級ノ代艦ヲ一萬噸トナスノ權利ヲ留保スルモ可ナラスヤ

二、大型ノ減小ヲ小型其他ノ噸數増加ニヨリ調和シ全體ノ噸數ニテ比較ヲ取ラハ如何

三、米國カ果シテ目下主張シ居ル噸數全部ヲ建造スルヤ疑問ニシテ從テ日本ノ踏ム危險率モ更ニ小ナルヘシ

四、日本ノ現有勢力ハ米ノ六割ニアラスヤ

五、世界ニ對スル責任、交通路ノ防禦責任範圍ノ相違

我方反駁

等ノ理由ヲ舉ケタルニ對シ我方ヨリ逐一反駁ヲ加ヘ英國側提案ノ數字ニテハ暫定協定ニテモ不可ニシテ對米七割ハ絕對必要ナリ又米國カ其ノ要求ノ噸數全部ヲ建造スルヤ疑問ナリトノ理由ニ對シテハ「一九三六年十二月三十一日迄日本ハ米ノ

現ニ保有スル噸數ノ七〇「パーセント」以上ヲ建造セサルヘシ」ト云フ程度ナラハ日本ニ於テモ差支ナカルヘシト述ヘタリ尙ホ前記二即大型ノ減少ヲ小型ニテ調節スルノ點ニ關聯シ日本ノ對米總括的七割保有ノ原則ニ對シテハ異議ナキヤトノ質問ニハ語ヲ濁シ寧ロ之ヲ認め難シトノ印象ヲ與ヘタリ

右ノ如ク本會議ハ何等進展ヲ見シテ散會シタルカ會談中「クレイギー」ハ斯ル「リジッド」ノ態度ヲ取ル國ハ日本ノミニシテ飽クマテ其ノ態度ヲ維持スルニ於テハ不得止英米間ノミニテ協定スルノ外ナシト激昂ノ面持ニテ語リタリ

(三) 日英全權會談

一月二十八日英全權會合

一月二十八日午後日英全權全員（我方四全權佐藤公使、齋藤部長同席、先方英本國全權ノ外「ウィルフオード」及「マルコム、マクドナルド」同席）下院首相室ニ於テ會見ス

若槻全權
對米七
割主張
ノ根據
說明

英首相カ「クレイギー」ヲシテ今日迄七割問題ヲ中心トシテ行詰リノ形トナリ居ル狀況ヲ概説セシメタルニ續イテ若槻全權ヨリ此ノ機會ニ於テ重複ヲ嫌ハス我方ノ立場ヲ簡説スヘシト前提シテ日本ハ唯其ノ國防ヲ念トシ他國ノ海軍力ト力ヲ爭ハントスルモノニアラス對米七割要求モ決シテ他國ノ海軍力ニ接近センカ爲主張スルモノニアラス退イテ守ランカ爲メニ

英首相英
米協定ノ
數字ニ對
サレテ
說明ス

スル必要ノ保有量ニシテ國民ノ信念タリト説キタルニ對シ英首相ハ我態度ハ充分同情ヲ寄スルモ其ノ苦痛トスルハ我主張カ不幸ナル結果ヲ招ク點ニシテ日本側ニ於テ充分之ヲ諒得セサルヲ遺憾トス一國カ其ノ防衛ノ必要勢力ヲ維持スルハ當然ナルモ其ノ結果トシテ第三國カ窮地ニ陥ルコトハ念頭ニ置カレンコトヲ希望ス對米關係ニ於テ如何ナル比率ニ立タルルトモ英國トシテハ日英間ノ比率ヲ第一ニ考量セサルヘカラスト述ヘタルニ付、若槻全權ヨリ英米間ノ協定ハ今日ニテハ決定的ノ數字トナリシヤヲ問ヒタル處英首相ハ之ヲ否定シタルモ只英國ハ十五以上上作ラサル決心ニシテ日本ニ振當テタル十二ハ英國ニ對シ七割ヲ超過シ居ルニ不拘之ヲ認メントスルモノニシテ十八ハ英國カ小型多數ヲ有セサルヘカラストノ見地ヨ

米國保有
量低下
我方要求

リ米國ノ紙上計畫ヲ縮少シ最少限度ノ建造ニ依リ平衡ヲ保タントスルノ趣旨ニ出ツル旨ヲ述ヘタリ

若槻全權ハ更ニ米國ノ保有量ヲ十八ヨリ低下スレハ我方モ十二ニ接近スヘク米國ノ數字ヲ低下シ得サルヘキヤト尋ネ（同

席ノ英外相ハ米國カ低下シタル場合日本モ七割ヨリ低下シ得ルヤヲ問ヒタルニ付若槻全權ハ比率ハ低下シ得サルモ保有量ハ比例的ニ低下スヘシト答ヘタリ。財部全權ハ一萬噸ヲ十三隻トシ他ヲ其レ以下ノ噸數トナシムル餘地ナキヤヲ尋ネタルニ英首相ハ英國トノ均勢ヲ欲スルモノニシテ海軍根據地ナキ關係上八吋砲艦ハ一萬噸以下ニテハ不可トシ六吋砲艦ニ付テモ七千噸以上ノモノヲ欲シ居レリ又假ニ米國カ十五ヲ承諾スルモ其ノ際ハ英國ニ對シ十二トナサンコトヲ求ムヘク日本ノ對英比率ハ依然高率トナルヘシ吾人ハ何處カニテ此論理ノ循環ヲ打切ラサルヘカラスト答ヘタリ

英首相ノ
日米直接
會談態度

我對米總
括的七割
主張ニ對
相ノ態度

次テ首相ハ日米ノ直接會談ヲ德通シ八吋砲艦ニ付協定成立セハ全體ノ比率問題ニ付協定ヲ見ルコト左程困難ニアラスト考フル旨述ヘタルニ對シ若槻全權ハ米國側ヨリ話アラハ欣シテ會談スヘキコトヲ答ヘ一昨日來首席全權會議ノ席上比率ノ問題ヲ云爲スルヲ避ケタルハ右ハ英米ト日本トノ間ニ相談ヲナスヲ然ルヘシト思考シ居リタルカ爲ナル旨及補助艦全體ニ付テモ話ヲ進メ度キ意向ナル旨ヲ述ヘタリ英首相ハ全體ニ付テノ協定ヲ作ラントセハ八吋砲艦六吋砲艦等ニ付協定ヲ必要トスト述ヘタルニ續イテ、若槻全權ハ本日會合ノ全然非公式ナル性質ニ鑑ミ双方共全然拘束セラルルコトナク假定的立場ニ於テ申述フルモノナルコトヲ斷リタル上總括的ニ見テ日本ノ對米七割ハ差支ナシトノ考ナリヤ單ニ考量ノ基礎トシテ伺ヒ度シト質シタルニ首相ハ（右ハ英國ニ對シ如何ナル比率トナルヤト言ヒカケテ「クレイギー」ニ注意セラレ）英國ノ重要視スルハ比率ニ非スシテ其ノ實際的結果ナリ若シ隻數及噸數ヲ基礎トシテ「プログラム」ヲ作り英帝國全部カ受諾シ得ヘキモノナルニ於テハ比率ノ如何ヲ問フモノニ非スト答ヘタルニ付若槻全權ハ日本ノ對米總括七割ハ對英七割ヨリ相當低率トナルヘシ右ハ何等双方ヲ拘束スルモノニ非ストノ前提ニテ申述フル次第ナルヲ以テ數字ニ付研究センコトヲ希望スト述ヘタル處首相ハ本日ハ一二新ラシキ點モ出テタルニ付今少シク會談ヲ續ケタク「クレイギー」齋藤部長間ニ更ニ非公式談合ヲ行ハシメ度シト述ヘ右ニ決シタリ

(四) 齋藤「クレイギー」會談

一月二十
九日會談

日英全權會談（二十八日）ニ基キ二十九日午前十一時齋藤部長ハ首相官邸ニ於テ「クレイギー」ト會談セリ

總括的七
割問題ニ
關スル
「クレイ
ギー」ノ
提案

右提案ニ
對シ我
方ノ態度

先ツ「クレイギー」ヨリ八吋砲型ニ付テハ差當リ全權間ニ交渉行詰リトナリ居ルニ付暫ク之ヲ措キ日本側ノ主張ノ他ノ一點タル總括的七割問題ニ付數字ヲ擧ケテ考究シタシト述ヘ米ノ保有量ヲ大型十八萬噸小型十二萬噸驅逐艦十五萬噸潛水艦六萬噸（假リニ「バリチー」ヲ認ムルコトトシ）總計五十一萬噸トセハ日本ノ持分タル七割ハ即三十五萬七千噸トナルヘキ處今假ニ日本ノ保有量ヲ大型十萬八千四百噸（齋藤部長ハ斯ル數字カ到底日本側ノ承認セサル所ナル旨ヲ注意シ「クレイギー」ハ之ヲ了承シ居レリ）小型九萬八千四百噸驅逐艦十一萬六千噸（小型及驅逐艦ノ數字ハ「クレイギー」ノ有セル現有勢力表ニ依レリ）潛水艦六萬噸トセハ其總計三十八萬二千八百噸トナリ對米七割ヨリモ約三萬噸超過トナリ多少「スクラップ」ノ必要ヲ生ス更ニ英國側ノ保有量ヲ假リニ大型十四萬六千八百噸小型十九萬二千二百噸驅逐艦十五萬噸潛水艦五萬噸（英國ハ假令「バリチー」トシテモ之以上ヲ建造セサルヘシト想定）計五十三萬九千噸トスレハ右日本ノ對米七割ハ對英六割六分餘トナルヘク何レノ關係ニ於テモ日本ノ要求ニ近キ比率ニ落着クコト左程困難ニアラサルヘシト述ヘタリ

齋藤部長ハ海軍専門委員ノ希望ニ基キ日本側ヨリ數字ヲ提出スルコトハ成ルヘク之ヲ控ユル所存ニテ專ラ「クレイギー」ヲシテ數字ヲ擧ケシムルコトトシ隨時質問又ハ批評ヲ爲スノ態度ヲ採リタルカ米國側保有量トシテ計上シタル小型巡洋艦十二萬噸ハ其處迄引下ケシメ得ル見込アル次第ナリヤトノ齋藤部長ノ質問ニ對シ「クレイギー」ハ大體其邊ニテ落付ケ度キ希望ナリト答ヘ又潛水艦ハ如何ナル場合ニ於テモ英國トシテハ五萬噸以上ヲ建造セサル積リナリヤトノ問ニ對シテハ「クレイギー」ハ大體其ノ見込ナリ尤モ他國カ其保有量ヲ増加スルニ於テハ英國ハ驅逐艦保有量ヲ十七萬五千噸位ニ増加スルノ必要アルヘシト説明シ又我方潛水艦保有量ヲ六萬噸トシアルモ右ハ日本ノ主張ト相當間隔アル旨ヲ指摘セルニ對シテハ一九二七年七月二十八日石井大使カ六萬噸「バリチー」ニテ可ナリト云ハレタル事實ヲ引用シタルニ付齋藤部長ハ之ニ對シ右ハ確定ノモノニアラスト政府ノ正式承認ナク又事情ヲ異ニセル今日過去ノ事實ヲ援用スルハ不當ナリト反駁セリ「クレイギー」ハ大型巡洋艦ニ就テハ日本側ニ於テ右艦級代換ノ際對米七割ヲ確保スルノ權利ヲ留保スルモ一案ナルヘシト云ヘリ

要之(イ)英國側ハ米國ノ小型保有量ヲ十二萬噸程度ニ止ムルノ希望ヲ有スルモノ如ク(ロ)潜水艦ニ付テハ可成少量ニテ「バリエー」ノ原則ヲ認ムルノ意嚮ヲ有スルカ如シ又(ハ)日本ノ總括的七割要求ニ對スル「クレイギー」ノ態度ハ稍々緩和シ來リタルノ感アリ

其後ノ會
談ハ米國
側大巡起
工延期
案)

其ノ後齊藤部長ハ「クレイギー」ト隨時會談ノ機會ヲ有シタルカ八吋砲型巡洋艦ニ關シ「クレイギー」カ度々米國ハ假令十八隻保有ノ權利ヲ得ルトスルモ實際ニハ之ヲ建造セサル見込アリト言ヘルニ關聯シ齋藤部長ハ然ラハ米國ヲシテ右起工ヲ延期セシメ例ヘハ一、二隻ヲ一九三五年後ニ至リ起工スル樣計畫ヲ立テシムルコトトセハ事實問題トシテ日本ノ七割保有ヲ可能ナラシメ且一九三五年ノ次回會議ニ於テ更ニ本件ニ考慮ヲ加フルノ餘地ヲ生スヘク右ハ米國ノ工業力ニモ顧ミ無理ナキ提案タラサルヤト述ヘタル處「クレイギー」ハ之ヲ「マクドナルド」ニ内話シタルニ同氏ハ面白キ案ナルモ要スルニ米側ノ承諾カ問題ナルニ付米側ト内談シ差支ナシト云ヘル趣ニテ「クレイギー」ハ米側ニ本案ヲ仄カシタル處米側ニテモ即座ニ贊成ハセサリシモ別ニ異論モ唱ヘサリシト云フ

二月七日
若槻英首
相會談

二月七日若槻全權英首相ト會談ノ際英首相ヨリ日英内交渉再開ノ方法ニ言及セルニ付若槻全權ハ「クレイギー」齋藤會談ヲ今少シク繼續セシメ度キ旨並米試案ニ對シ一應回答ノ要アルヘク其ノ後ニテ英首相ト會談ノ機會ヲ得度又日米會談ノ内容ハ通報ヲ怠ラサルヘシト答ヘタリ

第三節 米國試案要領ノ發表

二月六日
米國全權
聲明書發

米國全權部ハ二月六日午後八時米國ノ立場ヲ記述セル聲明書ヲ發表セリ(右ハ五日我方ニ手交ノ米國全權部試案ノ梗概ナリ)

「リード」
若槻全權
來訪

右發表ニ先チ(同日午後六時)「米國全權」「リード」若槻全權ヲ來訪シ右ハ全ク米國ノ立場ヨリ書キ上ケタルモノニシテ何等日英ノ立場ヲ「コンミット」シ居ラス又問題ノ焦點カ英米問題ナルニ顧ミ日本關係ノ點ハ簡單ニ述ヘ置ケリ尙米國側ト

シテハ右聲明書以外ニハ一言モ語ラサル積リナリトテ右發表ニ付我方ノ了解ヲ求メタルニ付若槻全權ハ右ハ米國側ノ聲明書ノコトニモアリ日本ニ言及セル點ハ不得要領ナルモ差支ナシト認メ強テ反對スルコトヲ差控ヘタリ

發表理由
「ニ關スル」
「リード」
ノ說明

英國側ニ對シテハ「ステイムソン」ヨリ英首相ニ說明シ同様了解ヲ取付ケタリ

右發表ノ理由トシテ「リード」ノ述フル所ニ依レハ六日晝頃「シカゴ、トリビューン」記者ハ出所ヲ明言セサリシモ米國ノ日英側ニ對スル提案ニハ大型巡洋艦二十一隻ノ要求ヲ抛チテ十八隻ニ讓步セリトノ情報ヲ得タルニ付之ヲ電報スル積リナリト申出テ來リタルカ右新聞及華盛頓「ポスト」ハ軍縮反對ノ新聞ニテ自然右報道ヲ基トシテ政府ノ對英軟弱ヲ詰ルコトト察セラレ從テ此儘拋擲スルハ面白カラスト考ヘ七日米國ノ朝刊ニ間ニ合フ様急速發表スルニ至レルモノナリト云フ

米國全權部發表聲明書ハ左ノ如シ

聲明書

「會議開會ニ當リ米國全權部ハ歴史的事實タル英米間ノ均勢ニ關スル主義上ノ協定ニ付述ヘタル外米國ノ所要ニ關シ全權部ノ立場ヲ聲明セサリキ吾人ハ今ヤ更ニ一步ヲ進ムルヲ得ルノ地位ニ在リ部内ノ討議及成立シ得ヘキ協定ノ限界ヲ明瞭ナラシメタル英、日トノ交渉ノ結果我全權部ハ左ノ提議ヲナシタリ

第一、英國ト各艦種ノ即時均勢、兩國艦隊ノ總噸數ハ實質上各百二十萬噸ナリ「フーヴァー」大統領ト「マクドナルド」首相トノ客年夏ノ交渉ノ結果兩國均勢ニ關スル討議ハ實際上兩國巡洋艦級ニ於ケル二萬四千噸ナル比較的小ナル差異ニ減縮セラレタリ吾人ハ右ノ差異ヲ左ノ如ク解決セント欲ス吾人ノ提案ニ依レハ兩國巡洋艦隊ノ現實ノ噸數ノ差ハ僅ニ一萬二千噸トナルヘシ八吋砲搭載大型巡洋艦ニ付テハ英國ハ十五隻米國ハ十八隻ヲ有スルコトトス是レ米國ニ取リ三萬噸ノ優勢ナリ六吋砲搭載小型巡洋艦ニ付テハ英國ハ四萬二千噸ノ優勢ヲ持スルコトトナル加之米國ハ嚴密ナル均等ノ機會ヲ保障センカ爲メ一方ハ他方ノ巡洋艦隊ト全然同一ノモノヲ作ルノ選擇權ヲ有スヘキコトヲ提議ス然ルトキハ英國ハ小型巡洋艦ノ隻數ヲ減少スルコトニ依リテ其ノ大型巡洋艦ヲ十五ヨリ十八ニ増加シ以テ現ニ米國ノ要求スルト全然同一ノ噸數タル合計三十二萬七千噸ヲ保有スルノ選擇權ヲ有スヘシ他方米國ハ大型巡洋艦ノ隻數ヲ十八ヨリ十

五ニ減少シ以テ現ニ英國ノ要求スルト全然同一ノ噸數タル巡洋艦合計噸數三十三萬九千噸ヲ保有スルノ選擇權ヲ有スヘシ

主力艦ニ於テハ雙方共隻數ヲ減少スルコトニ依リ一九四二年ヲ待タスシテ一九三一年ニ於テ兩國艦隊ヲ均勢トナスコトヲ提議ス目下英國主力艦隊ハ吾人ヨリ二隻多數ナリ驅逐艦及航空母艦ニ於テハ噸數ノ均勢ヲ又潛水艦ニ於テハ能フ限リノ小噸數ヲ提議ス五國全權部ノ同意ヲ得ルコト可能ナルニ於テハ吾人ハ欣シテ潛水艦ノ全廢ニ贊スルモノナルコト世ノ熟知スル所ナリ且何レニスルモ吾人ハ商船ニ對シ行動スル場合其ノ乘客及乘組員ノ安全ニ備フルコトナクシテ之ヲ攻撃シ得サラシムル爲潛水艦ノ行動ヲ水上艦艇ト同一ノ國際法規ニ服セシムヘキコトヲ提議ス

第二、日本ニ對スル吾人ノ提議ハ吾人ニ執リテ満足ナル且恐ラク日本ニ執リテモ満足ナル全般的ノ關係ヲ招致スヘシト思量ス過去ニ於ケル兩國ノ關係ニ顧ミ右提議ハ各艦種ニ付同一比率ヲ基礎トスルモノニアラス

吾人ハ佛國及伊國ニ對シテハ提議ヲナササリキ右二國ノ問題ハ吾人カ今提議ヲナスニ適スト考フルニ足ル程度ニ吾人ノ問題ト直接關係ヲ有セサルナリ伊佛問題ノ解決ハ吾人ノ目的トスル協定ニ緊要ナルコト勿論ナリ米國全權ハ茲ニ數字ニ付一層詳細ニ論議スルヲ欲セス而シテ他ニ假想的數字ヲ發表スルモノアラハ右ハ徒ラニ議論ヲ惹起スルニ過キサ

ルコト明ナリ
我全權部ハ我案ノ各事項ニ付意見一致ス而シテ吾等ハ會議ノ主要目的即海軍軍備競争ノ終熄乃至豫防及國家ノ安全ト兩立スル軍備ノ縮少カ他國全權部ト協同達成セラ

ルヘキヲ最モ樂觀シ居ルモノナリ
以上ハ吾人ノ提議カ對手國ノ全權部ニ依リ考慮セラルルニ至ル迄ノ間ニ於テ吾人ノ聲明スルヲ可ナリト考フル全部ナリ

第四節 英、日、佛、伊ノ態度聲明

(一) 英國政府聲明

(イ) 聲明書發表ノ經緯

二月七日午後「マクドナルド」ヨリ至急會見ヲ求メ來リタルヲ以テ若槻全權往訪セリ首相ハ六日發表ノ米國聲明ハ困難ナル事態ヲ醸シ當惑ノ至リナリ英國側ハ右聲明ニ付テハ全ク與リ知ラス米國側自身ノ都合上發表スルニ至レルモノナルカ昨夕「ステイムソン」來訪シ既ニ決定セル案文ヲ示シ余ハ之ニ異議ヲ挾ム餘地無カリシ次第ナリ事態此處ニ至レル以上英國側トシテモ立場ヲ明瞭ナラシムルヲ要スル次第ニテ覺書ヲ作成シ十日之ヲ下院ニ提示スル心算ナリト語リタルニ付若槻全權ハ如何ナル程度迄發表セラルルヤ英米ノ聲明書發表セラレ提案ノ内容ヲ報道スル新聞記事等表ハルルニ於テハ我方ニ於テモ或ハ幾分細目ニ互リ發表ノ必要アルニ至ルヘキカト思考スル旨ヲ述ヘタルニ首相ハ英國覺書案ノ内容ヲ略述シ要スルニ右ハ英國獨自ノ立場ヲ説明セルモノニシテ交渉ノ内容ニ互ルモノニアラスト説明セリ仍テ若槻全權ハ右覺書ヲ見タル上ニテ我方發表如何ヲ決定スヘク公表ヲナス場合ニハ必ス通報スヘシト述ヘ首相ハ目下米國並佛伊側ニモ申入中ナルカ日本ニ於テモ右事態カ會議進捗ノ妨トナラサル様御配慮ヲ乞ハサルヲ得スト懇請シ晴天霹靂ノ如キ米國聲明ノ爲メ折角溫和ナリシ會議ノ空氣ヲ攪亂セルハ誠ニ遺憾ノ極ナリト繰返シタリ

(ロ) 聲明書要綱

二月七日
英國政府
聲明書要綱

英國政府聲明書ハ十日下午院ニ提出セラレタルモ其ノ要綱ハ七日發表セラレタリ七日英首相ヨリ若槻全權宛送付越シタル聲明書ハ下院提出ノモノト略同一ナリ

右英國政府ノ聲明(議會ニ提出ノモノ)ハ第一部ニ於テ軍縮ノ一般原則ニ關スル主張ヲ述ヘ第二部ニ於テ其具體的主張ヲ掲ケタリ

直接保有量ニ觸ル部分少キモ第一部末尾七及第二部全部ノ要綱ヲ左ニ掲グルコトトセリ

英國政府
聲明書要綱

英國政府ノ覺書

第一部

七、英國政府ハ海軍協定ハ一九三六年迄存續スヘク一九三五年ニ世界ノ情勢ニ應シテ事態ヲ再考センカ爲更ニ他ノ會議ヲ招集センコトヲ提議ス各國政府ハ本會議ニ於テ其建造計畫及現有勢力ニ對シ一九三六年末以前ノ一定期日迄ニ必要ナル一切ノ變更ヲ加フルコトニ同意スルヲ要ス而シテ一九三五年ノ會議ハ一九三六年以後ノ事態ヲ處理スヘキモノタルヘシ

第二部

前記諸項及目的ニ稽ヘ英國政府ハ會議ノ考究ニ供センカ爲左ノ如ク提議ス

- (1) 英國政府ハ協定ハ單ニ總噸數ニ付テノミナラス各艦種ノ單艦艦型並ニ各國カ各艦種ニ充ツヘキ噸數ニ付爲サレサルヘカラサルヲ信ス右艦種ハ現今各海軍國間ニ一般ニ使用セラルルモノ即チ主力艦、航空母艦、巡洋艦、驅逐艦及潛水艦タルヘシ
- 艦種別ニヨル協定ハ造艦競争ノ終止及各國海軍間ノ均衡維持ト云フカ如キ安全保障ノ條件ヲ確保スルニ必要缺クヘカラサルモノナリ要ハ單ニ艦隊ノ總噸數ノミニアラスシテ噸數ノ使途ニアリ之ニ關シ協定スルヲ必要ナリトス
- (2) 艦種別總計ニ付テノ協定カ安全感樹立上必要缺クヘカラサルト同時ニ他方若シ一艦種ニ割當テラレタル噸數ノ或步合ヲ他ノ一艦種ニ融通スルヲ許サルルニ於テハ好都合ナルヘキモ英國政府ハ一般の融通ニハ贊成セス主力艦、航空母艦及潛水艦ニ付テハ融通ヲ認メス巡洋艦艦種内ニ於テハ八吋砲艦ヨリ六吋砲艦ニ合意ニ依リ定メラルヘキ步合ノ融通ヲ認メスル融通ニハ合意ニ依ル勢力測定ノ尺度ヲ使用センコトヲ提案ス右ハ小型巡洋艦ニ於テ大ナル割合ヲ必要トスル諸國ノ特殊所要ヲ考量ニ入レントスルノ目的ニ出ツルモノナリ
- (3) 小型巡洋艦及驅逐艦ニ關シ此等諸艦種ノ嚴重ナル區分ハ小海軍ヲ有スル諸國ニ對シ運用ノ餘地ヲ與ヘサルモノナルコトアルヘク英國政府ハ之等諸國ノ特殊所要ヲ考慮センカ爲前記艦種間ノ噸數融通ヲ考慮スルノ用意アリ
- (4) 主力艦ノ艦型及隻數問題ニ付テハ英國政府ハ華府條約規定ノ隻數ハ一九三六年ヲ待タス倫敦海軍會議ニ於テ締結セ

ラルル條約ノ批准後十八ヶ月以内ニ到達セラルヘク一九三五年ノ次回會議以前ニハ現有艦ノ代換ヲ行ハス且其レ迄ノ間ニ主力艦ヲ建造セル各國間ニ於テ主力艦問題全部即チ其ノ隻數、艦型及備砲口徑ニ付交渉センコトヲ提議ス英國政府ハ華府條約ニ依ル均衡從テ安全ヲ覆スコトナクシテ縮少ノ實ヲ舉グルニカムヘシ英國海軍省ハ政府ニ對シ艦型ヲ三萬五千噸ヨリ二萬五千噸ニ、備砲ヲ十六吋ヨリ十二吋ニ減小シ同時ニ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長スルニ贊成ナル旨ヲ通報シ來レリ政府ハ會議散會前本件ニ關スル意見ノ交換ヲ歡迎ス他ノ如何ナル艦種ニ付テ見ルモ是以上平和ノ要求ニ合致シ經費ノ節減ヲ實現スル好機ナカルヘシ

英國政府ノ所見ニ依レハ主力艦ハ其巨大ナル艦型及經費(△並ニ空中及水中ニ於ケル攻撃力ノ發達)ニ鑑ミ效力疑ハシク政府ハ主力艦カ相當期間内ニ世界ノ艦隊ヨリ全部消滅スルカ如キ協定成立ヲ見ントコトヲ希望ス

△註

七日英首相ヨリ若槻全權宛送付越ノモノノ中ニノミアル部分

- (5) 英國政府ハ航空母艦ノ艦型及備砲ノ増大ヲ制限シ一萬噸以下ノ艦船ヲモ本艦種割當噸數中ニ加フヘキモノナリト思考ス政府ハ例ヘハ華府條約ニヨル總噸數十三萬五千噸ニ比シテ英米兩海軍ニ對シテハ總噸數十萬噸トシ各々諸國ニ對スル割當量ヲモ華府條約比率ニ基キ調整スヘキコト及最大艦型ハ二萬五千噸ヲ超エス艦齡ハ二十年ヨリ二十六年ニ延長スヘキコトヲ提議ス

- (6) 昨夏英米兩國政府間ノ談合ハ殆ト專ラ巡洋艦ニ關シ且右談合ハ巡洋艦ハ八吋砲搭載ノモノト六吋砲以下ヲ搭載ノモノトソニ再分セラレタル一艦種ニ纏ムヘシトノ假定ヲ根柢トシテ行ハレ且右交渉ハ英帝國ノ所要ハ巡洋艦五十隻其總噸數三十三萬九千噸ヨリ成ルトノ假定ニ基キ行ハレタリ

最終決定ハ固ヨリ單艦々型制限ニ關スル本會議ノ決定如何ニ係ル政府ハ華府條約規定ノ八吋砲巡洋艦ノ單艦噸數ハ今次ノ海軍協定ニ依リ之ヲ變更スヘキモノニアラサルモ輕巡洋艦ノ單艦噸數ヲ約六千噸又ハ七千噸ト定ムヘク且該艦種

中一定割合ノミ右最大限ノモノヲ建造スルヲ得ヘシトノ協定ヲ作成センコトヲ提議ス政府ハ又巡洋艦々齡ヲ二十年ト定メシコトヲ提議ス

(7) 驅逐艦々種ノ艦型及總噸數ハ主トシテ潛水艦々種ノ艦型及總噸數如何ニ係ラサルヲ得ス政府ハ艦型制限ハ嚮導驅逐艦ニ付テハ千八百五十噸備砲(最大)五吋トシ驅逐艦ニ付テハ千五百噸備砲(最大)同シク五吋トナシコトヲ提議ス政府ノ現建造計畫ハ究極ニ於テ二十萬噸ヲ要スヘキモ他國ノ潛水艦建造計畫ニシテ同様縮少セラルルニ於テハ之ヲ縮少シ得ヘシ

(8) 英國政府ハ潛水艦ノ廢止ヲ提議ス本武器ハ全然防禦ヲ目的トストノ理由ハ世界大戰ノ經驗ニヨリ覆ヘサレタリ戰時狀態ニ於テハ潛水艦ハ攻撃ノ武器ニシテ攻撃ニ新分野ヲ開キ戰線ヲ擴大ス若シ之カ協定ニシテ不可能ナリトセハ政府ハ潛水艦ヲ隻數ニ於テモ艦型ニ於テモ防禦上必要ナル程度ニ嚴重制限スルノ案ヲ提議スヘシ本武器ニ關スル交渉中ニ於ケル政府ノ態度ハ最低限度ノ制限ヲ獲得セントスルニアリ

政府ハ又一九二二年二月六日華府ニ於テ調印セラレタルモ未タ締約各國全部ノ批准ヲ得ルニ至ラサル協定ヲ復活シテ該協定中ニ規定セラレタル法則及慣行ニ從ヒ潛水艦ニ依ル商船ノ攻撃ヲ規律センコトヲ提議ス

(9) 敘上ノ外艦隊ノ附隨任務ニ使用セラレ嚴格ニ云ヘハ艦隊勢力中ニ入ラサル諸補助艦船アリ英國政府ハ之等ヲ特定シ且各國政府カ毎年服役又ハ建造中ノ之等艦船ノ單艦噸數ヲ舉ケタル艦船表ノ公表ニ同意センコトヲ提議ス

(二) 帝國全權聲明

二月十三日
帝國全權
聲明書

米國發表ノ聲明ニ關シテハ全權ニ於テ暫ク形勢ノ推移ヲ觀望シ居タル處帝國試案ヲ米國側ニ交付セルヲ機會トシ我方ノ大體ノ態度ヲ一般公衆ニ了解セシメ置クコトヲ有利ト信シ左ノ如キ聲明書ヲ公表セリ(十四日倫敦朝刊ニ掲載)

本聲明書ハ帝國試案手交ノ際松平全權ヨリ米國側ニ内示シ英佛伊側ニ對シテモ同様取計ヒタリ

尙右聲明書ハ十三日午後四時内外新聞通信員ニ手交シ其際若槻全權ヨリ「日本全權ハ從來繰返シ述ヘタル通り他關係國ノ

保有力ニ對シ適當ナル比例ノ海軍力ヲ保有スルコトヲ必要ナリト考フルモノナリ」トノ章句及「國防ニ充分ナル最小限度ノ海軍力」ナル章句ニ關シ通信員ノ質問ニ對シ右ハ最大保有國ニ對スル七割比率ヲ意味スルモノナルコトヲ説明セリ

倫敦海軍會議ニ於ケル帝國全權ノ態度ニ關スル聲明書

日本全權ハ倫敦海軍會議ハ恒久平和ノ確立ニ對スル人類一般ノ切望ニ基キ招請セラレタルモノト信ス帝國ハ人類ノ幸福ヲ増進シ且諸國民ノ財政的負擔ヲ輕減スル爲海軍軍備ノ全般的縮少ノ實現ニ對シ全幅ノ協力ヲ爲サントスルノ決意ヲ有ス然レ共海軍力ノ相對性ニ鑑ミ日本ハ國ノ安全ヲ確保スルニ足ル海軍力即チ極東方面海洋ノ安寧ハ日本ノ最モ重ヲ置ク所ナルニ依リ同方面ニ於ケル其ノ國防ニ必要ナル勢力ヲ保持セムコトヲ欲ス日本全權ノ態度ハ右方針ニ基クモノニシテ概言スレハ左ノ如シ

制限方式

總噸數主義又ハ艦種別主義ノ適用ハ嚴ニ過クル時ハ關係各國間ノ協定ニ達スルニ適セサルヲ以テ日本全權ハ或ル艦種間ニ融通ヲ認メ以テ兩者ヲ調和スル方式ニ贊成ス

主力艦

日本全權ハ一九三六年迄主力艦ヲ起工セサルコトニ同意スルノ用意アリ又華府條約ニ規定サレタル主力艦ノ艦型ヲ三萬五千噸ヨリ二萬五千噸ニ縮少スルタメ協定ノ成立センコトヲ希望ス備砲ノ最大口徑ヲ十四吋ニ減シ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長センコトヲ慫慂ス

航空母艦

航空母艦ノ制限ニ關スル華府條約ノ規定ハ一萬噸以下ノ航空母艦ニモ擴張適用スルコトトシ艦齡ハ一萬噸ヲ超ユルモノニ付テハ二十年ヲ二十六年ニ又一萬噸以下ノモノハ二十年ニ延長スルコトトスヘシ

補助艦

日本全權ハ從來繰返シ述ヘタル通り他關係國ノ保有力ニ對シ適當ナル比例ノ海軍力ヲ保有スルコト必要ナリト考フルモノナリ

從テ若シ關係國ニ於テ其海軍力ヲ縮少スルニ於テハ日本モ亦右ニ比例シ減縮ヲ行フノ用意アリ

(一) 巡洋艦、驅逐艦

日本ハ八吋砲巡洋艦ニ特ニ重キヲ置クヲ以テ他國ノ保有スル勢力ヲ考量スルト共ニ其ノ國防ニ充分ナル最少限度ノ海軍力ヲ保有セムコトヲ欲ス

六吋砲巡洋艦ノ單艦最大噸數ハ七千噸又ハ七千五百噸トシ又嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ單艦最大噸數ハ適當ニ之ヲ制限スヘシ尙嚮導驅逐艦ノ隻數モ亦之ヲ制限スルコトヲ要ス艦齡ハ巡洋艦ニ付テハ二十年トシ驅逐艦ニ付テハ十六年トスヘシ

(二) 潛水艦

潛水艦ノ防禦的特性ト廣ク散在スル多島ノ島嶼ヨリ成ル我國特殊ノ地理的事情ニ鑑ミ日本全權ハ此種艦艇ヲ保有スルノ必要ナルコトヲ確信ス尤モ日本ハ潛水艦ノ商船ニ對スル使用ヲ嚴重ニ律セムカ爲他ノ諸國ト協力セムトスルモノナリ其ノ噸數ニ付テハ日本ハ其ノ現有勢力ノ維持ヲ提議ス潛水艦ノ最大型ヲ制限シ又其ノ艦齡ヲ十三年ト定ムヘシ

帝國全權
聲明英文

Statement setting forth the attitude of the Japanese Delegation in the London Naval Conference.

It is the belief of the Japanese Delegation that the London Naval Conference has been convened in response to the universal yearning of mankind for the establishment of an enduring peace. Japan is determined to contribute her full share in bringing about an all-round reduction in the naval weapons of war to the end that human happiness may be increased and the financial burden of the peoples may be lightened.

In view, however, of the relativity of naval strengths against one another, Japan desires to maintain such force as will ensure safety and security of the nation—a force necessary for her national defence in the Far Eastern waters, whose tranquillity constitutes her primary concern.

The attitude of the Japanese Delegation, predicated upon these considerations, may be outlined as follows:
Method of Limitation.

Too strict an application of either of the principles of global tonnage or of division into categories would not be suitable for arriving at an agreement among the Powers concerned. The Japanese Delegation is in favour of a formula which would harmonise the two extremes, allowing transfers in certain categories.

Capital Ships.

The Japanese Delegation is ready to agree not to lay down any capital ships until 1936.

It also deems it desirable that an agreement should be reached so as to reduce the size of capital ships to 25,000 tons from 35,000 tons stipulated in the Washington Treaty. The maximum gun calibre should be reduced to 14 inches. Japan advocates the lengthening of the age limit from 20 to 26 years.

Aircraft Carriers.

The provisions for the limitation of aircraft carriers in the Washington Treaty should be extended to those of less than 10,000 tons. The age limit for aircraft carriers of more than 10,000 tons should be lengthened from 20 to 26 years and for those of lesser types shall be set at 20 years.

Auxiliary Craft.

The Japanese Delegation considers it necessary to hold, as has been repeatedly intimated, a strength in adequate proportion to that of the other Powers concerned. If, therefore, those Powers will see their way to reducing their strength, Japan is prepared to effect reduction to a proportionate degree.

(1) *Cruisers, Destroyers.*

Japan attaches special importance to 8-inch gun cruisers, and desires to maintain a minimum strength sufficient for national defence, taking into consideration the strengths held by other Powers.

The Maximum individual tonnage for 6-inch gun cruisers should be 7,000 or 7,500 tons, and that for flotilla leaders and destroyers be adequately limited. It is necessary that the number of flotilla leaders be also limited. The age limit for cruisers should be set at 20 years and that for destroyers at 16 years.

(2) *Submarines.*

In view of the character of submarines, eminently adapted to defensive uses, and in view of peculiar geographical condition of Japan, consisting of many widely scattered islands, the Japanese Delegation is convinced of the necessity to retain this category of warcraft.

At the same time, Japan is willing to co-operate with the other Powers to regulate strictly the use of submarines against merchant marine.

As to the tonnage, Japan proposes to maintain her existing strength. The maximum size of submarines shall be limited and their age limit set at 13 years.

(三) 佛國全權聲明

二月十三日
佛國全權聲明

十三日午前永井全權ヨリ「タルデー」代理「マシグリー」ニ我聲明書ヲ手交シタル際「マシグリー」ハ當時「タルデー」ヨリ「マクドナルド」ニ話シ居ル所ヲ記載セルモノナリトテ一ノ文書ヲ手交シ新聞ニモ同夕發表ヲナス事トナリ居レルカ右内容ヲ如何ナル程度迄聲明文中ニ取入ルヘキヤハ未定ナリト語レリ右聲明文ハ前顯文書記載ノ順序形式ヲ幾分變更シタル外大體内容ヲ同フス其ノ重要部分ヲ摘録スルニ左ノ如シ

佛國全權部聲明文

聲明文摘録

佛國全權部ハ米國及英國全權部カ協調ノ希望ヨリ頃日聲明ヲナセルト同シ趣旨ニヨリ此際左ノ如ク其ノ立場ヲ明確ナラシムルヲ以テ其ノ義務ト信スルモノナリ

本文中ニ掲ケアル噸數ハ總テ英噸ニヨレリ

一、(戰前ニ比較シ佛國カ海軍力海軍豫算及海軍計畫ヲ縮少シタルコトヲ述フ)

二、(一九三〇年一月一日現在佛國海軍勢力(就役中、建造中、協賛濟ノ三者ヲ含ム)ヲ表示ス)

三、英米全權部發表ニ係ル「コムニケ」提示ノ如ク本會議參加國カ一九三〇年乃至一九三六年ノ建造計畫作成ヲ以テ協定ノ基礎トナスヘキニ於テハ佛國全權部ハ他四ヶ國ノ同様ノ決定並佛國議會ノ協賛ヲ條件トシテ右手續ヲ受諾ス

ヘシ

一九三六年十二月三十一日現在佛海軍勢力ヲ示スコト左ノ如シ

華府代換規定ニヨル主力艦

一五六、四六六

華府代換規定ニヨラサル主力艦

五二、七九一

一萬噸巡洋艦

一〇〇、〇〇〇

備砲口徑一五五耗ヲ超ユル舊巡洋艦

二四、八五〇

輕艦艇(備砲口徑一五五耗以下ノ巡洋艦驅逐艦水雷艇等)

二五八、五九七

航空母艦

三二、一四六

潛水艦

九九、六二九

總計

七二四、四七九英噸

右三ニ關シ注意スヘキ點左ノ如シ

(1) 一九三〇年乃至一九三六年ニ佛國ハ二十四萬噸ヲ建造スヘク右二十四萬噸中四萬三千二百噸ハ補足的噸數ニシテ一九六、八〇〇噸ハ代換噸數ナリ換言スレハ佛國ハ一九三〇年乃至一九三六年ニ自國勢力ノ八割二分ヲ老齡艦ノ代換ニ一割八分ヲ補足的建造ニ充テムトスルモノナリ

(2) 一九三六年前ノ建造ニ係リ一九三六年十二月三十一日以後ニ非スムハ就役セサル噸數ハ艦齡超過艦ノ同噸數ノ噸對噸ヲ以テスル廢棄ニヨリ補正セラルヘシ

(3) 主力艦ニ關シテハ排水量ヲ二萬噸乃至二萬五千噸ト假定セリ

(4) ……特殊艦艇ハ表中ノ他ノ「クラス」中ニ配分スルモノトセリ

四、右特種注意事項ノ外ニ左ノ一般の注意事項ヲ記述セムトス

(1) 主力艦ニ關シ佛國ハ一九二二年ニ亡失セル「フランス」及一九二七年ニ其ノ代換噸數ヲ起工シ得タル「クールベ」
「ジャン・バール」ニ相當セル七萬噸ヲ本會議前ニ起工スル華府條約處定ノ權利ヲ今日迄行使セザリシモ戰艦新型出
現ノ爲今ヤ右七萬噸ニ對スル經費ノ一部使用ヲ餘儀ナクセラルルニ至リタリ同型ノ新艦カ更ニ建造セラルルカ如キ
コトアラハ一九三六年ノ末以前ニ右經費ノ全部ヲ使用セサルヘカラサルニ至ルコトアルヘシ
因テ一九三六年迄戰艦建造休止方提案セラルル場合ニハ佛國ハ一〇五、〇〇〇噸マテ右休止ヲ受諾スルノ用意ヲ有
ス

(2) 佛國政府ハ軍縮ノ相關性ヲ重視スルモノナルニ因リ一九二九年十二月二十日覺書ニ基キ海軍軍備ニ關シ倫敦會議
ノ爲スヘキ一切ノ決定ハ陸軍及空軍軍備制限ト關聯シテ行ハルヘキモノナルコトヲ玆ニ更メテ強調セムトス
佛國ハ英米兩國カ其ノ政治的關係ヲ慎重考量シ以テ其ノ海軍軍備縮減ノ前程ヲ作ラムトセル努力ヲ深キ好意ヲ以テ
注視シ來レルカ英米兩國政府カ右考量ノ後右二國民間ニ戰爭ヲ想像シ得スト聲明シ得タルト同様ニ佛國ハ自國民ト
合衆國及英帝國國民間ニモ等シク何等武力の紛爭ヲ想像シ得ストノ深キ確信ヲ確言スルヲ欣幸トス佛國海軍計畫ハ
右二國ノ夫レト同様佛國カ署名國タル國際約定殊ニ「ブリアン、ケログ」協定ノ範圍内ニ於テ全ク防禦的ナル政策
ニ應シ居ルモノナリ

然ルカ故ニ佛國ハ英國及米國カ兩國間ノ協定妥結ノ爲各自ノ海軍軍備ヲ増加スルトモ減少スルトモ不安ヲ感シタル
コトナシ右同時ニ佛國カ本會議第一回會合ニ於テ披露シタル自國所要ヲ單ニ表示スルモノトシテ掲ケタル右數字
モ亦右兩國國民ニ不安ヲ與フルコトナキヲ期待ス

又終始聲明ノ通り佛國ハ各國ノ絕對的所要ヲ相對的所要ニ變更セシムルコト可能ナルカ如キ相互的安全保障ニ付テ
ハソノ何タルヲ問ハス之ニ好意的審議ヲ加フルノ用意ヲ有スルモノナリ

(四) 伊國全權聲明

二月十九日
伊國全權
聲明書

二月十九日夕伊國全權部ハ同國軍縮政策ニ關スル聲明書ヲ我方及英米佛全權部ニ送付シタル後新聞ニ對スル説明書ト共ニ
之ヲ發表セリ右説明書ハ聲明書ノ内容ヲ摘要シタルモノナルカ翌二十日ノ新聞紙ハ聲明書ノミヲ掲載セリ右聲明書ノ要旨
左ノ如シ

伊國全權聲明書

聲明書要
旨

一、(軍備ノ基準及比率ノ重要性ヲ説キ他ノ歐洲大陸國ヨリモ低カラサル限り如何ニ低キ數字ト雖モ之ヲ其ノ軍備ノ限度
トシテ一應受諾スルノ用意アルコトヲ主張ス)

二、伊國全權部ハ敍上ノ主義ヲ交渉ノ結果到達シタル現狀ニ適用シ之ヲ左ニ概説ス先ツ華府條約ノ規定スル艦船ヲ論シ次
テ他ノ艦船ヲ論スヘシ、左記ノ提議ハ一般の協定(成立ノ場合)其ノ規定ニ從フヘキコト勿論ナリトス

(イ) 華府條約ノ規定スル艦船

(1) 主力艦

華府條約ハ主力艦ニ對シ左ノ比率及總噸數ヲ定ム

比 率	米 國	英 國	日 本	佛 國	伊 國
總 數	五二五、〇〇〇	五二五、〇〇〇	三二五、〇〇〇	一七五、〇〇〇	一七五、〇〇〇
	五	五	三	一、六七	一、六七

右條約ノ下ニ於テ伊國ハ一九二二年ニ所有セル主力艦十隻保有ノ權利ヲ有シタリ伊國ハ進ンテ六隻ヲ廢棄シ代換セス殘
餘四隻トナレリ加之一九二八年十月伊國ハ署名國カ一九三一年乃至一九三六年ノ期間ニ於テ起工ノ權利アル主力艦ヲ一
九三六年迄建造ノ延期ヲナスヘキコトヲ提議セリ

伊國政府ハ華府ノ取極ヲ害スルコトナク右提議ヲ維持ス右提議ニ依ルトキハ伊國ハ一定期間其ノ割當十七萬五千噸中十
萬五千噸ヲ起工セサルコトトナルヘシ但シ他ノ署名國カ右提議ヨリ生スル義務ヲ受諾スルノ條件ニ服スヘキコト勿論ナ

加之伊國ハ他國カ同意スルニ於テハ主力艦ノ廢止ニ對シ好意的ナル審議ヲナスノ用意ヲ有ス

(2) 航空母艦

比 率	米 國	英 國	日 本	佛 國	伊 國
噸 數	一三五、〇〇〇	一三五、〇〇〇	八、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇

華府條約ノ下ニ於テ伊國ハ目下右六萬噸ノ數字迄建造スルノ權利ヲ有ス然レトモ伊國全權ハ歐洲大陸ノ最強國カ一定時ニ於テ現實ニ所有スル航空母艦噸數ヲ超ユサルコトヲ約スルノ用意ヲ有ス

(ロ) 華府條約ノ規定セサル艦船

伊國全權部ハ華府條約ノ規定セサル艦船ニ付一定時ニ於テ最強歐洲大陸國ノ現實ニ所有スル總噸數ヲ超ユサルコトヲ約スルノ用意ヲ有ス(中略)

特ニ潛水艦ニ關シ伊國全權部ハ伊太利ハ主力艦ノ廢止ヲ含ム海軍軍備ノ實質的縮少ヲ確保セラルルニ於テハ潛水艦ノ廢止ニ異議ナシトノ趣旨ノ聲明ヲ想起ス伊國全權ハ何レニスルモ潛水艦噸數ノ縮少セラレンコトヲ切望ス(以下華府條約ノ規定セサル艦船ニ於ケル歐洲三國ノ現在海軍力ノ表ヲ掲ケタルモ之ヲ略ス)

第五節 米 國 試 案

(一) 試案提示前米國側ノ對英及對日交渉

一、英 米 會 談

二月三日
英米會談

英米全權(英側首相及外相米側「スティムソン」、「リード」、「モロー」及「アダムス」)間ノ二月三日ノ會談ニ關シ「右ハ

何等協定ヲ遂ケタルニ非ス細目ニ互ラス一般政策ノ問題トシテ談合シタル次第ニシテ個々別々ニ取扱ハス一體トシテ考ヘタシ」ト前提シ「リード」ノ語ル所(二月四日我三全權ト會談ノ際ノ同氏ノ談)左ノ如シ

條約ノ有
効期間
問題

(イ) 條約ノ有効期間ニ付テハ米國ハ最初華府條約ノ代換「プログラム」完了ノ年即チ一九四二年迄ノ條約ヲ希望セシモ英國側ヨリ長期ニ過クレハ不安ノ念ヲ醸ス虞アルヲ以テ次ノ會議(一九三五年)迄ノ短期ノモノヲ可トストノ反對アリ右ハ尤ノ次第ニテ米國側ニ於テモ長期トセハ其ノ間ニ事情ノ變化モアルヘク却テ短期ヲ可トスヘシト思考スルニ至レリ(「スティムソン」亦軍縮ノ「プロセス」ハ漸進的ナラサルヘカラス且屢々會議ヲ開キ接觸ノ機會ヲ作ルハ相互ノ信頼ヲ増シ協定ヲ容易ナラシムヘキニ付短期ヲ可トスト信スル旨ヲ述フ)

主力艦廢
棄問題及
海軍休日
問題

(ロ) 主力艦廢棄問題、海軍休日問題ニ付テハ英米意見一致セリ米國側ニ於テ新艦一隻建造ノ問題ニ付テハ英國ニ異議ナキモ米國側ニテ決定シ兼ネ居レリ(第十章第五節參照)

潛水艦問
題

(ハ) 英米ハ潛水艦ノ全廢乃至保有量極度ノ制限ヲ希望ス米國ノ現保有量ハ英國ニ比シ多量ナルヲ以テ結局廢棄ヲ要スヘシ米國ハ潛水艦使用ニ關スル華府條約ト同趣旨ノ條約締結ヲ希望ス(第九章第一節參照)

驅逐艦問
題

(ニ) 驅逐艦ニ付テモ米國側ハ二十九萬噸ヲ保有シ過大ナルニ付廢棄スルモ差支ナシト考フ

二、日 米 會 談

(イ) 「リード」ノ内話

一月二十八日
「リード」
内話

一月二十八日「リード」ハ松平全權ニ對シ左ノ通内話セリ

「昨今會議ノ情況ヲ見ルニ英國側ニ於テハ何等具體案ヲ有セス斯ノ如キ狀態ニ於テハ何時ニナリテモ會議ノ進展ヲ見サルヘシ、米國全權ニ於テハ目下日英米三國ニ於ケル具體的解決案ヲ攻究中ニテ月末頃ニハ完成スヘク然ル上ハ提示スヘシ過日「マクドナルド」首相ハ三國會合ヲ勸メタルコトアルモ斯ノ如キハ徒ラニ他ヲ刺戟スルニ止マリ實效少シト思ハルルニ付寧ロ各別ニ内交渉ヲナシ問題ノ解決ヲ計ルコト然ルヘシ何レニセヨ具體案ハ日本側ニ提示セスシテ英國側ニ提

示スルカ如キハ全然爲ササルニ付右ノ點ハ含ミ置カレ度シ尙日本側ニ於テ七割要求ニ對シ何等緩和ノ態度ナキト同様米國側ニ於テモ政府並上院方面ニ於テ從來ノ態度ヲ枉クヘキ模様ナキニ付具體的解決ヲ圖ル必要アリ何等比率等ニ觸レシテ日英米三國ノ要求ニ好都合ナル解決方法ヲ講シ度ク其ノ方針ニテ具體案ヲ提出スル積リナリ

(ロ) 日米全權會談

二月四日午後三時米國側ヨリ會見ヲ求メ來レルニ付若槻、財部、松平三全權ハ米國全權宿舍ニ於テ「スティムソン」「リード」「モロー」ト會談ス

「リード」ヨリ三日ノ英米會談（前項ノ通り）ノ模様ヲ通報シ先條約有效期間ヲ一九三五年迄トナスノ問題ニ關シ我意見ヲ問ヘルニ付若槻全權ハ長期ニ亙ル協定ヲ最良トスルモ困難アルニ於テハ短期トナスモ異議ナシト答ヘタリ

「リード」ハ進ンテ巡洋艦ニ付テハ一兩日中ニ米國案ヲ提示シ得ヘシト思考スル處米國ノ欲スルハ「モデレート」ノ兵力ニシテ從ツテ日本モ現勢力ノ儘ニテ差支ナキコトナルヘキカト思考ス尙比率問題ハ提起セサルコトトスヘシト述ヘタリ

次ニ主力艦我方一隻廢棄ノ問題ニ付テハ若槻全權ヨリ我方ニ於テ反對ナル旨及米國ニ於ケル新艦一隻建造ニ付テハ財部全權ヨリ右ハ我方ニ危惧ノ念ヲ與フヘキ旨ヲ述ヘタリ（第十章第五節參照）

潛水艦全廢問題ニ付テハ我方ニ於テ反對ナルコト及ヒ使用制限ニ關スル條約締結ニハ贊成ナル旨若槻全權ヨリ申述ヘタリ（第九章第一節參照）

「リード」ヨリ英米會談ノ諸點説明終リタル後「スティムソン」ハ過日來ノ日英會談ニ於テ前述ノ點ニ觸ルル所アリタリヤト質問セルニ付若槻全權ハ會談ノ概要トシテ主力艦ノ艦型、備砲、隻數及潛水艦ニ關スル點ヲ簡單ニ說述シ三日夜・英米會談トハ筋合ヲ異ニシ居リ只一九三六年迄海軍休日設定ノ點ノミハ同様ナリト答ヘ、次テ若槻全權ハ英米間ニ巡洋艦問題ニ付何等談合アリタリヤヲ突止ムル意味合ヲ以テ「英米間ノ御話ハ其レ丈ケナリヤ」ト質問シタルニ對シ「リード」

日英會談
ノ内容
英米會談
ニ於テ米
國ハ八時
一會主張

我主力艦
新主力艦
建造問題
潛水艦問
題

巡洋艦問
題

二月四日
日米全權
會談

條約有效
期間問題

英米協定
未確定

二月五日
米國試案
提示

ハ米國海軍側ハ八時砲艦二十一隻ヲ主張スルカ故ニ其ノ通「マクドナルド」ニ申入レタル處「マクドナルド」ハ右ハ自己ノ立場ヲ甚シク困難ナラシムル旨ヲ繰返シ述ヘタリ、此ノ點ニ關シ「スティムソン」ハ米國トシテハ日英米ノ何レニモ都合善キ協定ニ達スルノ希望ヲ以テ考慮ヲ續ケツツアリト述ヘタルニ依リ若槻全權ハ日本トシテモ常ニ英米關係ヲ念頭ニ置クヲ要スルモノニシテ從テ今日迄ハ所謂英米假協定ヲ基礎トシテ案ヲ立テ居タル處何等確定的ニ談合進ミタル點アラハ隨時承知致シ度シト述ヘタルニ「リード」及「モロー」ハ口ヲ揃ヘテ英米間ニハ未タ何等協定無ク今後其日英米三國相集マリテ初メテ協定成立スヘキモノナルカ故ニ其ノ目的ヲ以テ昨夜ハ英國側今日ハ貴方ト談合ヲ開始セル次第ナリ實ハ日英及英佛間ハ內協議進行中ナルコトヲ承知シ居タルヲ以テ其ノ成行ヲ待ツ爲メ暫ク差控ヘ居タルモ愈々茲ニ三國間ニ相談ヲ開始スルノ時機ニ立至レルモノト考ヘタル義ナリ尙日英同席ニテ御話致シ度シトモ考ヘタルモ今日ニテハ尙別々ニ會見スル方可然ト考ヘタル次第ナルモ如何ナル場合ニ於テモ日本ニ申上ケス英國ノミニ申入ルルカ如キコト無キニ付其ノ點ハ充分ニ御諒承願ヒ度シト語レリ

若槻全權ハ日本ハ米國トノ協調ヲ重要視スルコト申ス迄モ無ク最後ノ結論ハ之ヲ待テ始メテ到達シ得ルモノナルニ付今後トモ屢々會談ノ機ヲ得度ク特ニ曩ニ華府ニテ申上ケタル我主張ニ付篤ト好意的考慮ヲ煩ハシ度シト述ヘ最後ニ今日ノ會談ニハ種々新ラシキ點モアリ専門家ニ非ル自分トシテハ即答シ兼ヌルニ付篤ト考究ノ上出來得ル限り速ニ我意見ヲ開陳スヘシト述ヘ會談ヲ終レリ

(二) 試案ノ提示

二月五日午後六時米國全權「リード」若槻全權ヲ「ホテル」ニ來訪シ米國「デレグーション」ノ試案ヲ手交シタリ其ノ際「リード」ハ右試案ハ米國側ノ記錄ニ一部ヲ保存スル以外ハ日英各全權ノミニ配布シタルモノニシテ絕對秘密ニ取扱度キ希望ヲ以テ使者ニ依ラス態々自身持參セルモノナリト述ヘタリ

右ハ英國側ニ於テ何等具體案ヲ有セス會議ノ進展思ハシカラサルヲ觀全ク米國側ノミニテ約一ヶ月ヲ費シ部内ノ意見ノ相

米國試案

違ヲ調和シテ作成シタルモノノ如ク英國側トハ何等事前ノ協定ヲ遂ケサリシ由ナリ、提示ノ試案左ノ如シ

巡洋艦

總 計 總噸數 隻數

艦 型

一八〇、〇〇〇

一八

八吋砲搭載一萬噸巡洋艦

七〇、五〇〇

一〇

現有「オマハ」型

七六、五〇〇

六吋ヲ超エサル砲ヲ搭載スル新巡洋艦

總 計 三二七、〇〇〇

米國ハ左ノ「オブション」ヲ有ス

一五〇、〇〇〇

一五

八吋砲ヲ搭載スル一萬噸巡洋艦

七〇、五〇〇

一〇

現有「オマハ」型

一一八、五〇〇

六吋ヲ超エサル砲ヲ搭載スル新巡洋艦

三三九、〇〇〇

總 計 英國

總噸數

隻數

艦 型

一一〇、〇〇〇

一一

既成八吋砲搭載一萬噸巡洋艦

二〇、〇〇〇

二

建造中ノ八吋砲搭載一萬噸巡洋艦

一六、八〇〇

二

建造中ノ八吋砲搭載八千四百噸型巡洋艦

九一、〇〇〇

一四

六吋砲ヲ搭載スル新巡洋艦

總 計 一〇一、二〇〇
三三九、〇〇〇

二一
五〇

六吋砲ヲ搭載スル現有巡洋艦

(イ) 英國ハ六吋砲巡洋艦ニ依テ代換セラルルニ至ル迄七時半砲ヲ搭載スル「ホーキンス」型四隻ノ巡洋艦ヲ保有スルコ

トヲ得、一九三四年乃至五年迄ニ代換ノコト

(ロ) 英國ハ左ノ「オブション」ヲ有ス

一七六、八〇〇

一八

八吋砲ヲ搭載スル一萬噸(又ハ一萬噸未滿ノ)巡洋艦

七五、〇〇〇

六吋砲ヲ搭載スル新巡洋艦

七五、二〇〇

六吋砲ヲ搭載スル現有巡洋艦

三二七、〇〇〇

總 計 日本

總噸數

隻數

艦 型

二八、四〇〇

四

八吋砲搭載七千噸巡洋艦

四〇、〇〇〇

四

現ニ竣工ノ八吋砲搭載一萬噸巡洋艦

四〇、〇〇〇

四

建造中ノ八吋砲搭載一萬噸巡洋艦

八一、四五五

一七

六吋ヲ超エサル砲ヲ搭載スル巡洋艦

八、八〇〇

六吋ヲ超エサル砲ヲ搭載スル現有若クハ新巡洋艦

總 計 一九八、六五五

代 換

一、巡洋艦ハ竣工ノ日ヨリ二十年ノ艦齡ニ達スル迄代換スルコトヲ得ス但シ事故ニ依リ亡失セル場合ハ此限リニ在ラス

二、噸數ハ華府基準噸ニ依ル
三、代換セサル場合ニハ艦齡超過ノ舊噸數ヲ保有スルコトヲ得但シ代換ノ權利ハ艦齡滿限後廢棄遲延ノ爲喪失スルコトナシ

驅逐艦

驅逐艦及嚮導驅逐艦ノ總噸數左ノ如シ

米	國	110,000
英	國	110,000
日	本	110,000

一、前記許容噸數ニ達スル迄現存驅逐艦及嚮導驅逐艦ヲ保有シ及建造中ノモノハ之ヲ完成スルヲ得
二、許容噸數ニ一致セシムル場合ヲ除クノ外現有艦艇ハ艦齡十六年ニ達スル迄之ヲ廢棄セサルヘシ
三、代換セサル場合ニハ艦齡超過ノ舊噸數ヲ保有スルコトヲ得但シ代換ノ權利ハ艦齡滿限後ノ廢棄遲延ノ爲喪失スルコトナシ

四、艦齡滿限又ハ事故ノ爲亡失セル艦艇ヲ代換スル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルヘシ

五、單艦ノ最大排水量ハ會議ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

吾人ハ米英日ニ付テハ一、八五〇噸佛伊ニ付テハ三、〇〇〇噸ヲ提議ス

潛水艦 (存置ノ場合)

潛水艦ノ總噸數ハ左ノ如シ

米	國	60,000
---	---	--------

英	國	60,000
日	本	40,000

一、前記許容噸數ニ達スル迄現有潛水艦ヲ保有シ及建造中ノモノハ之ヲ完成スルコトヲ得
二、許容噸數ニ一致セシムル場合ヲ除クノ外現有艦艇ハ艦齡十三年ニ達スル迄之ヲ廢棄セサルヘシ
三、艦齡滿限又ハ事故ノ爲亡失セル艦艇ヲ代換スル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルヘシ

四、潛水艦ノ噸數ハ壽府基準噸 (Surface Condition) ニ依ル

五、單艦ノ最大排水量ハ會議ノ協定ニ依リ之ヲ定ム

六、代換セサル場合ニハ艦齡超過ノ舊噸數ヲ保有スルコトヲ得但シ代換ノ權利ハ艦齡滿限後ノ廢棄遲延ノ爲喪失スルコトナシ

七、潛水艦ハ商船ニ對スル行動ニ付水上艦ト同一ノ國際法規ニ從フヘキモノトス

主力艦

一、華府條約代換表ハ次ノ原則ニ依リ左ノ通り修正ス

(イ) 一五、一五、九ノ總計ニ達スル迄舊艦ヲ直チニ廢棄スルコト

(ロ) 左記第四項ニ掲クル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルコト

(ハ) 各國ハ練習又ハ標的用トシテ二隻ノ舊艦ヲ保有シ得ルコト但シ右舊艦ハ華府條約ノ規定ニ從ヒ戰闘用ニ供シ得サル

狀態ニ置クコトヲ要ス

二、噸數ハ華府基準噸ニ依ル「アイダホ」「ミシシピ」及「ニュー・メキシコ」ノ各艦ニハ將來ノ改裝ヲ可能ナラシムル爲三千基準噸ヲ加ヘタリ

三、主力艦代換ノ爲何等規定ヲ設クルニ於テハ各國ハ代換セサル場合ニハ舊噸數ヲ保有シ得ヘク該噸數代換ノ權利ハ右延期ニ依リ喪失スルコトナシ

四、「ロドニー」及「ネルソン」トノ均衡ヲ圖ルコトニ依リ華府條約ノ考慮スル主力艦噸數ノ究極ノ均勢ヲ今日實現セムカ爲米國ハ三萬五千噸戰艦一隻ヲ千九百三十三年ニ起工シ千九百三十六年ニ之ヲ竣工スルヲ得ヘク右竣工ノ上ハ「ワイオミング」ヲ廢棄ス米國カ右「オブション」ヲ行使スル場合ニハ日本ハ主力艦一隻代換ニ關シ同様ノ「オブション」ヲ有スヘシ

五、現有艦改装ニハ仰角増大ヲ含ムモノトス

六、以上ノ原則ハ實質上左ノ結果ヲ生ス

米 國

一、廢 棄

基 準 噸

「フロリダ」

二一、九〇〇

「ユタ」

二一、〇〇〇

「アーカンソー」

二六、一〇〇

計

七〇、〇〇〇

二、現有總噸數

五三二、四〇〇

一九三〇年乃至三一年廢棄

七〇、〇〇〇

一九三六年一月一日現存勢力

四六二、四〇〇

一九三六年ニ「ワイオミング」廢棄

二六、〇〇〇

差 引

四三六、四〇〇

新 艦 一 隻

計

三五、〇〇〇

四七一、四〇〇

英 國

一、廢 棄

「アイアン、デューク」

二六、二五〇

「マーバラ」

二六、二五〇

「エムペラ、オブ、インディア」

二六、二五〇

「ベンボー」

二六、二五〇

「タイガー」

二八、九〇〇

計

一三三、九〇〇

二、現有總噸數

六〇六、四五〇

一九三〇年乃至三一年廢棄

一三三、九〇〇

一九三六年十二月三十一日迄ノ殘存勢力

四七二、五五〇

日 本

一、廢 棄

金 剛

二六、三三〇

二、現有總噸數

二九二、四〇〇

一九三〇年乃至三一年廢棄

二六、三三〇

一九三六年十二月三十一日迄ノ殘存勢力

二六六、〇七〇

航空母艦

華府條約航空母艦定義ヨリ最小制限一萬噸ヲ削除シ以テ此種艦艇ハ總テ該許容噸數中ニ算入スヘシ

制限外艦艇

一、基準排水量五百噸未満ノ戰闘用水上艦艇ハ總テ之ヲ制限外トス

二、單艦基準排水量五百噸以上三千噸以下ノ戰闘用水上艦艇ニシテ左記性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限り總テ之ヲ制限外トス

- (イ) 口徑五吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト
- (ロ) 口徑三吋ヲ超ユル砲二門ヲ超ヘ搭載スルコト
- (ハ) 魚雷發射ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト
- (ニ) 計畫速力十六節半ヲ超ユルコト
- 三、特ニ戰闘用艦艇トシテ建造セラレタルニ非ス又ハ戰闘用ノ目的ノ爲平時政府ノ管理下ニアラサル一切ノ艦船ニシテ艦隊任務ニ服シ若クハ軍隊輸送船トシテ使用セラレ又ハ戰闘用以外ノ他ノ用途ニ使用セラルルモノハ左ノ性能ノ何レヲモ有セサルモノニ限り之ヲ制限外トスヘキコト
- (イ) 口徑六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルコト
- (ロ) 口徑三吋ヲ超ユル砲四門ヲ超ヘ搭載スルコト
- (ハ) 魚雷發射ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト
- (ニ) 計畫速力十六節半ヲ超ユルコト
- (ホ) 裝甲ヲ有スルコト
- (ヘ) 機雷投下ノ計畫又ハ裝置ヲ有スルコト

- (ト) 飛行機着艦裝置ヲ有スルコト
- (チ) 飛行機發進裝置ハ中央線ナラハ一基、舷側ナラハ各一基宛即チ合計二基ヲ超ユルコト
- 四、特別「タイプ」ノ現有艦艇ノ或モノハ相互ノ協定ニ依リ之ヲ制限外トスルコト
- 米國試案原文左ノ如シ

米國試案
原文

SECRET

TENTATIVE PLAN OF THE AMERICAN DELEGATION, 5 FEBRUARY, 1930.

CRUISERS.

FOR UNITED STATES.

Total Tons	Type
180,000	— 18—10,000-ton cruisers carrying guns of 8" caliber.
70,500	— 10 existing OMAHA's.
76,500	— New cruisers carrying guns not exceeding 6" caliber.
327,000	
(a) The United States shall have the option of the following:—	
150,000	— 15—10,000 ton cruisers carrying guns of 8" caliber.
70,500	— 10 existing OMAHA's.
118,500	— New cruisers carrying guns not exceeding 6" caliber.
339,000	

FOR GREAT BRITAIN.

11—110,000 — 11—10,000-ton cruisers now completed carrying 8" guns.
 2—20,000 — 2—10,000-ton cruisers now building carrying 8" guns.
 2—16,800 — 2—8,400-ton cruisers now building carrying 8" guns.
 14—91,000 — New cruisers mounting 6" guns.
 21—101,200 — Existing cruisers mounting 6" guns.
 50—339,000

(a) Great Britain may retain four cruisers of HAWKINS class carrying 7.5" guns until replacement by 6" cruisers. To be replaced by 1934-5.

(b) Great Britain shall have the option of the following:—

176,800 — 18—10,000-ton (or smaller) cruisers carrying guns of 8" caliber.

75,000 new } Cruisers carrying guns of 6" caliber.
 75,200 existing }

327,000

FOR JAPAN.

Total Tons

Type

4—28,400 — 4—7,100-ton cruisers carrying 8" guns.

4—40,000 — 4—10,000-ton cruisers now building carrying 8" guns.

4—40,000 — 4—10,000-ton cruisers now building carrying 8" guns.

17—81,455 — cruisers carrying guns not exceeding 6" caliber.

8,800 — Existing or new cruisers carrying guns not exceeding 6".

198,655

REPLACEMENTS.

1. No cruiser may be replaced until it shall have reached a life of twenty years from date of completion, unless

it shall have been lost through an accident.

2. Tonnages are given in Washington standard tons.

3. Old tonnage may be retained over the age limit if not replaced, but the right of replacement is not lost by delay in scrapping after reaching the age limit.

DESTROYERS.

Total tonnage of destroyers and destroyer leaders shall be:—

For United States 200,000

For Great Britain 200,000

For Japan 120,000

1. Existing destroyers and leaders may be retained and vessels building may be completed up to the above total allowed tonnages.

2. Existing vessels shall not be scrapped except to comply with the allowed tonnage until the vessel has reached an age limit of 16 years.

3. Old tonnage may be retained over the age limit if not replaced, but the right of replacement is not lost by delay in scrapping after reaching the age limit.

4. No new vessels shall be laid down prior to 31 December, 1936, except to replace vessels reaching the age limit or lost through accident.

5. Maximum unit displacements shall be limited as may be agreed upon in Conference. We suggest 1,850 tons for United States, Great Britain, and Japan, and 3,000 tons for France and Italy.

SUBMARINES. (if retained)

Total tonnage of submarines shall be:—

For United States 60,000

For Great Britain 60,000

For Japan 40,000

- Existing submarines may be retained and vessels building may be completed up to the above total allowed tonnage.
- Existing vessels shall not be scrapped except to comply with the allowed tonnage until the vessel has reached an age limit of 13 years.
- No new vessels shall be laid down prior to 31 December 1936, except to replace vessels reaching the age limit or lost through accident.
- Submarine tonnages are given in Geneva standard tons, surface condition.
- Maximum unit displacement shall be limited as may be agreed upon in Conference.
- Old tonnage may be retained over the age limit if not replaced, but the right of replacement is not lost by delay in scrapping after reaching the age limit.
- Submarines to be limited to the same rules of international law as surface craft, in operations against merchant ships.

BATTLESHIPS.

- The replacement tables of the Washington Treaty are modified as follows to comply with these principles:—
 - Immediate scrapping of old ships down to a total of 15-15-9.
 - No new ships to be laid down prior to 31 December 1936, except as provided below in paragraph 4.
 - Each nation may retain two old battleships for training purposes or for use as targets provided these vessels shall be rendered incapable of further warlike service as prescribed in the Washington Treaty.
 - Tonnages are in Washington standard tons. Three thousand standard tons have been added to each of the IDAHO, MISSISSIPPI, and NEW MEXICO to allow for future modernization.
 - Should any provision be made for replacements of battleships, each nation may retain old tonnage if not replaced, and the right of replacement of that tonnage is not lost by such postponement.
 - In order to realize now the parity of battleship tonnage which was ultimately contemplated by the Washing-

ton treaty by balancing the RODNEY and NELSON, the United States may lay down one 35,000-ton battleship in 1933, complete it in 1936, and on completion scrap the WYOMING. If the United States shall exercise this option, then a similar option as to replacing one capital ship shall be granted to Japan.

- "Modernizing" existing ships includes increase in gun elevation.
- The foregoing principles will result in a schedule substantially as follows:—

FOR UNITED STATES.

1. Scrap FLORIDA	<i>Standard</i>
UTAH	21,900
ARKANSAS	22,000
	26,100
Total	70,000
2. Total tons now on hand	532,400
Scrap in 1930-31	70,000
Remaining 1 January 1936	462,400
Scrap WYOMING in 1936	26,000
1 new ship	436,400
	35,000
	471,400

FOR GREAT BRITAIN.

1. Scrap IRON DUKE	26,250
MARLBOROUGH	26,250
EMPEROR OF INDIA	26,250

BENBOW
TIGAR

26,250
28,900

2. Total tons now on hand	133,900
Scrap 1930-31	606,450
Scrap 1930-31	133,900
Remaining until 31st December 1936	472,550

FOR JAPAN.

1. Scrap KONGO	26,330
2. Total tons now on hand	292,400
Scrap in 1930-31	26,330
Remaining until 31 December 1936	266,070

AIRCRAFT CARRIERS.

The minimum limitation of 10,000 tons shall be stricken from the definition of aircraft carriers in the Washington Treaty, so that all such vessels shall be charged against the permitted tonnage.

EXEMPT CLASS.

- (a) That all naval surface combatant vessels of less than 500 tons standard displacement be exempt.
- (b) That all naval surface combatant vessels of 500 to 3,000 tons individual standard displacement should be exempt from limitation, provided they have none of the following characteristics:—
- (1) Mount a gun greater than 5-inch caliber.
 - (2) Mount more than two guns above 3-inch caliber.
 - (3) Are designed or fitted to launch torpedoes.
 - (4) Are designed for a speed greater than 16.5 knots.

(c) That all naval vessels not specifically built as fighting ships nor taken in time of peace under Government control for fighting purposes, which are employed in fleet duties or as troop transports or in some other way other than as fighting ships, should be exempt from limitation provided they have none of the following characteristics:—

- (1) Mount a gun greater than 6-inch caliber.
- (2) Mount more than four guns above 3-inch caliber.
- (3) Are designed or fitted to launch torpedoes.
- (4) Are designed for a speed greater than 16.5 knots.
- (5) Are armoured.
- (6) Are designed or fitted to launch mines.
- (7) Are fitted to receive planes on board from the air.
- (8) Mount more than one aeroplane-launching apparatus on the center line; or two, one on each broadside.
- (d) Certain existing vessels of special type to be exempted by mutual agreement.

(三) 試案ニ關スル英米及日米討議

一、英 米 討 議

二月十一
日英米討
議

二月十一日午後米全權(「スティムソン」「アダムス」「リード」)ハ首相官邸ヲ往訪英國全權(首相、外相、海相)ト會見シ米國試案ニ基キ討議セリ其概要左ノ如シ

- (イ) 米國側カ八吋砲艦ヲ二十一隻ヨリ十八隻ニ引下方確定セルコトニ付テハ英國側ハ大ニ満足ノ意ヲ表シタリ
- (ロ) 三萬噸ヲ小型艦ニ繰入ルル爲メ換算セル噸數過大ナリトテ英國側ハ苦情ヲ述ヘタルニ對シ米國側ハ自說ヲ固持シ何等意見纏ラス

- (ハ) 米國側ニ於テ「ロドニー」型一隻代換新造ノ件ニ付英國側ハ強硬ニ反對セリ
- (ニ) 驅逐艦潛水艦ニ付テハ雜談ヲ交ヘタルノミニテ何等進捗スル所ナシ

二、ロ 米 討 議

二月七日
米試案ニ
對スル
ノ說明

二月七日松平全權「リード」往訪ノ際同氏カ座談ナリトテ語ル所ニ依レハ米國側ニ於テハ米國試案ハ相當日本側ノ立場ヲ考量シタルモノニシテ大型巡洋艦ニ於テハ隻數ニ於テ日本ハ米國ノ六割六分三分ノ二ニ當リ八吋砲ニ於テハ米國側ノ一六二ニ對スル一〇四即チ六割四分二厘ニ當リ噸數ニ於テハ十八萬噸ニ對スル十萬八千噸即チ六割ヨリ六割一分ニ當リ居レリ尤モ米國ハ多分十八隻ハ建造セサルヘク十五隻ニテ止ムルヤモ知レサレトモ此ノ點ハ今日約言スルコトヲ得ス小型巡洋艦ニ於テハ數ニ於テ米二十ニ對スル十九即チ九割五分ニ當リ居レリ表ニハ明記ナキモ「オマハ」以外ノ新造艦ハ大體「オマハ」級ノ艦型トナルヘク又六吋砲ノ比較及噸數ニ於テハ全體ニ就キ隻數、備砲數、噸數ノ三要素ヲ考量シ六割ヨリ餘程以上ト成リ居ル筈ナリ驅逐艦ニ就テハ最初百五十二隻ノ所要額ヲ書入レ置キタル所專門家カ之ヲ噸ニ換算シテ二十萬噸トナシタルモノニテ自分モ其ノ噸數ノ多キニ驚キタル次第ナルカ右ハ英國側ニ於テ下リ得ル程下ル餘地アルモノナリト言ヘリ「リード」ハ二月十二日松平全權カ帝國試案手交ノ際ニモ（第六節參照）砲數、隻數、噸數等ニ關スル詳細ナル數字ヲ示シ米國案ノ辯明ヲナシタルヲ以テ松平全權ハ砲數ヲ以テスル勢力比較ハ完全ヲ期シ得サル理由ヲ詳説シ且華府會議ノ際ハ凡テ噸數ヲ標準トシタル例ヲモ指摘シタルニ「リード」ハ之ヲ諒解セル旨ヲ述ヘタリ

二月十二日
松平全
權說明

二月十三日
日安保
會議
「リード」
會

習十三日安保顧問及樺山伯ハ先方ノ兵力比較ノ謬見ヲ匡サンカ爲「リード」ト會見シ（一）金剛級一隻ト「フロリダ」級三隻トハ威力ニ多大ノ差アルニ依リ右廢棄ハ日本側ニ不利ナリト説明セル處「リード」ハ主力艦建造休止延期ト舊艦廢棄トハ勢力均衡實現上不可分ノモノト考ヘ居ル旨並金剛ノ代リニ山城級戰艦一隻ヲ廢棄スルモ苦シカラスト思考スル旨ヲ述ヘ次テ（二）米國ハ主力艦制限ト補助艦制限トハ不可分ノモノニシテ一方ノミヲ成立セシムルコトニハ絕對ノ同意シ能ハサル旨ヲ述ヘタリ（三）八吋砲巡洋艦問題ニ關シ「リード」ハ八吋砲巡洋艦ト六吋砲巡洋艦トノ價值ニ付テハ各國將官ノ意見區々ニシテ米國將官中ニモ八吋砲巡洋艦ハ防禦力充分ナラス六吋砲彈ニヨリ相當ノ損害ヲ與ヘ得ヘク八吋砲巡洋艦ハ外見ホト有效ナルモノニ非ス六吋砲艦多數ヲ有スル方却テ有效ナリトノ說ヲナスモノ相當ニアリト述ヘタリ（四）「リード」ハ今同

ノ米國案ト日本案トニ基キ隻數、噸數、砲數ノ各方面ヨリセル勢力比較表ヲ示シ米國案ニヨルモノ日本ノ考フル如ク日本ニ不利ナラス又日本案ニヨレハ日本ノ勢力ハ英國ニ著シク接近スル困難アリト云ヘルニ對シ安保顧問ハ砲數、隻數ノミニテ勢力比較ヲナスハ謂レナク噸數ヲ以テスヘキモノナリト強調シタリ

第六節 帝國試案

(一) 帝國試案ノ提示

二月十二日
日帝國試
案米國側
ヘ提示

二月十二日夕松平全權ハ「リード」ヲ往訪シ左記帝國試案ヲ手交セリ右手交ニ際シ松平全權ハ米國提案ハ腹藏ナク言ヘハ帝國ノ到底承諾シ得サル所ナルニ依リ帝國試案ハ米國案對案ノ形式ヲ採ラス日本獨自ノ立場ヨリ立案セラレタルモノナルコト從テ米國案記載ノ事項中全ク觸レサル部分モアルコト及英米ハ均勢ノ立前ナルニ付日本案ニテハ應ト英國ニ對スル數字ノ記入ヲ控ヘタル旨ヲ説明シ同時ニ今後ハ之ニ基キ兩國全權又ハ首席全權間ニ論議スルコトモ可然又ハ場合ニ依リ望マシキニ於テハ同全權ト「リード」トノ間ニ全ク非公式ニ種々談合スルコトモ辭セスト述ヘタリ

我試案英
國側ヘ傳
達

英國首相ニ對シテモ同時ニ手交ノ筈ナリシ處（十一）日午後來訪ノ際「リード」ハ若槻全權ニ對シ我案提示ノ際ハ英首相ニモ送付方希望シ若槻全權應諾セリ（首相ノ都合付カサリシニ依リ齋藤部長ヨリ同様ノ説明ヲ加ヘ「クレイギー」ニ手交シ同首相ニ傳達方依頼シタリ右帝國試案ノ提示ヲ機トシ全權ハ帝國ノ主張ヲ概説セル聲明（本章第四節參看）ヲ發表セリ

記

帝國試案

一、主 力 艦

- (イ) 一九三五年末前ニハ主力艦ヲ起工セサルコトトス（一九三五年トナシタルコトニ付テハ第十章第七節參照）
(ロ) 主力艦艦型、備砲及艦齡等ニ關スル制限ノ協定ヲ遂クルコト

- (1) 艦型ハ二萬五千噸迄備砲口徑ハ十四吋迄ノ範圍内トス
- (2) 代換艦齡ハ將來舊艦ノ代換トシテ建造セラルヘキ新艦ニ對シテハ二十六年迄ノ範圍ニ於テ延長シ既成艦ニ付テハ代換開始期代換期間ニ關聯シテ之ヲ協定ス

二、航空母艦

- (3) 華府條約ニ規定スル現代換表ハ代換開始期ノ延期及代換期間ノ伸長ニ伴ヒ改訂セラルヘキモノトス
- (4) 華府條約ニ規定セラレタル隻數ハ變更セサルモノトス

(イ) 艦制限量中ニ含マシムルコトトス

一萬噸ヲ超ユルモノ 艦齡二十六年
一萬噸以下ノモノ 艦齡二十年

三、補助艦

次ノ表ハ米國假提案中ノ數字ヲ參照シ作製セリ

- (イ) 八吋砲巡洋艦米、英共二十五隻ヲ保有スル場合

艦種	米	英	日
八吋砲巡洋艦	既成建造中及計畫 一五—一五〇、〇〇〇	既成及建造中 一二—一〇八、四〇〇	
輕巡洋艦 (六吋砲以下)	「オマハ」級 一〇—七〇、五〇〇	現有輕巡ノ内 一七—八一、四五五	
新巡洋艦	一一八、五〇〇	新巡洋艦 二六、三〇〇	

艦種	米	英	日
驅逐艦	三三九、〇〇〇	二一六、一五五	
潛水艦	一五〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	
補助艦總計	八一、〇〇〇	七七、九〇〇	
計	五七〇、〇〇〇	三九九、〇五五	

註(1)但シ米國力潜水艦ヲ六〇、〇〇〇トスルトキハ驅逐艦ヲ一七一、〇〇〇トナスコトヲ得

(2)補助艦ノ代換方法艦型制限等ハ後日協議セラルヘシ

- (ロ) 八吋砲巡洋艦米十八隻(或ハ英十八隻)ヲ保有スル場合

艦種	米	英	日
八吋砲巡洋艦	既成建造中及計畫 一八—一八〇、〇〇〇	既成及建造中 一二—一〇八、四〇〇	
輕巡洋艦 (六吋砲以下)	「オマハ」級 一〇—七〇、五〇〇	新巡洋艦 二—一七、六〇〇	
驅逐艦	七六、五〇〇	八一、七〇〇	
潛水艦	三二七、〇〇〇	二〇七、七〇〇	
補助艦總計	一五〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	
計	八一、〇〇〇	七七、九〇〇	
補助艦總計	五五八、〇〇〇	三九〇、六〇〇	

註(1)但シ米國力潜水艦ヲ六〇、〇〇〇トスルトキハ驅逐艦ヲ一七一、〇〇〇トナスコトヲ得

(2)補助艦ノ代換方法、艦型制限等ハ後日協議セラルヘシ

四、五國會議招請ノ主旨ニ艦ミ數量ヲ協定スルニ當リテハ五國全部ノ立場ニ關シ充分考慮セラルルヲ要ス

帝國海軍
艦隊

Japanese Proposal in regard to the limitation of naval armaments.

I. Capital Ships.

- 1) No capital ships shall be laid down before the end of 1935.
- 2) Agreement shall be reached as to the limitation of the type and gun calibre of capital ships.
 - a) The maximum displacement to be not less than 25,000 tons and the maximum gun calibre not less than 14".
 - b) The replacement age to be extended to no longer than 26 years in case of the new ships to be built in replacement of the old ships; agreement to be reached as to the time when replacement shall begin and the period in which replacement shall be completed in case of ships already existing.
 - c) The existing schedule for replacement shall be revised with a view to postponing by some years the time when replacement shall commence and further, to prolonging by some years the period in which replacement shall be completed.
 - d) There shall be no change in the numbers of vessels stipulated in the Washington Treaty.

II. Aircraft carriers.

- 1) The 10,000 ton limit shall be deleted from the definition of the aircraft carriers in the Washington Treaty, so as to include within the allocated tonnage all ships in that category irrespective of their displacements.
- 2) Age limit:

Ships of more than 10,000 tons 26 years,
ships of less than 10,000 tons 20 years.

III. Auxiliary Craft.

Taking into consideration the figures contained in the American tentative proposal, the following table has been prepared:

(1) IN CASE BOTH AMERICA AND GREAT BRITAIN HOLD 16 8-inch GUN CRUISERS.

TYPE OF VESSEL	AMERICA	GREAT BRITAIN	JAPAN
8-inch Gun Cruisers	Built, building and projected 15.....150,000		built and building 12.....108,400
Light cruisers (6-inch gun or smaller)	OMAHA Class 10.....70,500 New Cruisers118,500		From among those now possessed 17.....81,455 New Cruisers26,300
TOTAL	339,000		216,155
Destroyers	150,000		105,000
Submarines	81,000		77,900
AUXILIARY CRAFT TOTAL	570,000		399,055

N.B. (a) If the United States of America fix the amount of submarines at 60,000, her amount of destroyers may be changed to 171,000.

(b) The method of replacement of auxiliary craft, limitation of type, etc., shall be discussed later.

(a) If the United States of America fixes the amount of submarines at 60,000, her amount of destroyers may be changed to 171,000.

(b) The method of replacement of auxili-

(b) The method of replacement of auxiliary craft, limitation of type, etc., shall be discussed later.

IV. In view of the spirit in which the Five Power Conference has been convened, it is considered essential that, in the final settlement of figures, the positions of all Powers concerned should be borne in mind.

(二) 帝國試案ニ關スル日英米全權會議

二月十七日
三國全權
會議

帝國試案ニ接シタル米國全權ハ右試案ニ關スル説明ヲ聽取シ且之ニ關シ意見ノ交換ヲナサンカ爲メ三國全權會議ヲ發議シタルモノノ如ク其ノ結果二月十七日「セント、ジェームス」宮ニ於テ三國全權會議ヲ開クコトトナレリ（我方若槻財部松平三全權英國側首相外相海相米國側「スティムソン」「リード」「ロビンソン」出席ス）

一、主力艦及航空母艦

「リード」ハ先ツ主力艦殊ニ戰艦一隻廢棄ノ問題ニ付米國側ノ意見ヲ開陳シ若槻全權ヨリ我立場ヲ陳述シ次テ航空母艦問題ニ付意見ノ交換行ハレタリ（右二問題ニ付テハ第十章及第十一章參照）

二、補助艦問題

帝國試案
ニ對スル
批難

「リットド」ヨリ日本案ヲ驗スルニ米國側カ大型二十一隻ノ主張ヲ低下シテ十八隻ト爲シタルニ拘ラス何等之ニ對應スル低下ヲ考慮セサルカ如キニ失望セリ日本カ新艦二隻ヲ建造セムコトヲ提唱スルハ増勢ヲ意味スルモノト考ヘサルヲ得ス英國側ニ於テ斯ル日本ノ増勢ニヨリ其兵力調節ニ非常ナル困難ヲ感シ居ルモノト想像セサルヲ得ス八吋砲ノ數ヨリ見レハ日本ハ英ノ十割以上ヲ有スルコトナルヘシト述ヘタルニ付

若槻全權
七割主張
ノ理由ヲ
説述ス

若槻全權ハ今回會議ノ當初伊太利側ヨリ一般問題トシテ比率問題ヲ提起シタル際我方カ之ニ賛意ヲ表セサリシハ方式ノ問題ヲ論スル際ニハ必スシモ比率ヲ定ムルニ及ハストシタルモノニシテ今日ノ如ク現實ニ數字ヲ論スル際ニ之ヲ定ムレハ可ナリト考ヘタルニ因ルモノナリ、數字ノ討議ニ當リテハ比例ヲ考量ノ基礎トナスヘキハ海軍力ノ相對性ニ鑑ミ已ムヲ得サル處ナリ、日米間ニ戰爭アルヘキコトハ吾人ノ全然想像タモセサル處ナルモ太平洋ニ於テ大海軍力ヲ有スルモノハ日本ト米國ナルヲ以テ日本側ニ於テ其ノ海軍力ヲ定ムムカ爲ニハ勢ヒ米國トノ釣合ヲ考量セサルヲ得ス若シ不戰條約

ヲ出發點トセハ忌憚ナク云ヘハ平等ヲ主張シ得ヘキカトモ考フルモ日本ハ只退イテ守ルニ足ル勢力ニテ甘ンセントスルモノニテ専門技術上ノ研究及過去實戰上ノ經驗ニ照シ七割式ケハ必ス之ヲ有セサルヘカラスト思考スルモノナリ曾テ英ハ獨ノ海軍力ニ六割ノ優勢ヲ期シタル歴史アリ十一十六ノ比率ニテハ六割保有國ハ實力ニ於テ六割七分ノ劣勢ニ立ツ事トナリ此ノ如キハ退イテ守ルニモ足ラサルモノトシテ日本國民ハ不安ノ感ヲ懷クニ至ルヘシ米國カ大型ニ於テ十五、十八、若シクハ二十一隻ヲ保有スルニ當リ日本カ其七割ヲ保有スル爲ニハ輕巡洋艦及驅逐艦ニテ之カ調節ヲナス覺悟ナルヲ以テ二十一隻カ十八隻ニ減シタルニモセヨ總體ノ比率ニ關係ナシ日本ハ條約ニ比率ノ明記ヲ主張セサルモ實際數字ノ決定ニ際シテハ之ヲ考量スルノ已ムヲ得サルコトヲ諒得セラレ度シ尙砲ノ數ニ付テハ華府條約ニ於テハ全然考量セス加之最近八吋砲九門ノ艦出現シタル由ナルカ其ノ勢力カ八吋砲十門ヲ有スル舊艦ヨリ劣勢ナリトハ受取り難ク速力、居住性裝甲等ノ點ヨリ備砲一門ヲ減スルモ全體ノ勢力ハ増加スルモノトシテ計畫セラレタルモノト考ヘサル可カラス日本ハ華府會議當時ニ於テ然リシ如ク砲ノ數ニ依ラス噸數ヲ以テ比較ノ基礎トスルコトヲ正當ト考フルモノナリト答ヘタルニ

「マクドナルド」ハ日本全權カ英國ノ立場ニ立チテ考慮ヲ廻ラサントヲ希望ス若槻全權ハ太平洋ニハ二大海軍國アリト述ヘラレタルモ尙南方ニモ濠洲「ニュージーランド」等アリ英ノ八吋砲型十五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振當テサルヲ得ス若シ日本ニシテ其ノ主張ノ比率ヲ保有スルニ於テハ英ハ十五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク然カモ日本ハ砲一十二門ヲ有シ英ハ一〇四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安ラカナルヲ得サルヘシト述ヘタルヲ以テ

若槻全權ハ日本全權カ英國ノ立場ニ立チテ考慮ヲ廻ラサントヲ希望ス若槻全權ハ太平洋ニハ二大海軍國アリト述ヘラレタルモ尙南方ニモ濠洲「ニュージーランド」等アリ英ノ八吋砲型十五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振當テサルヲ得ス若シ日本ニシテ其ノ主張ノ比率ヲ保有スルニ於テハ英ハ十五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク然カモ日本ハ砲一十二門ヲ有シ英ハ一〇四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安ラカナルヲ得サルヘシト述ヘタルヲ以テ

若槻全權ハ日英ヲ比較スルトキハ數ニ於テ接近スルモ日本ハ時代遅レノ四隻ヲ有シ又輕巡洋艦ニ於テ著シク劣勢ナリ此點ハ充分ニ御考量ヲ仰キ度シ尙英米カ八吋砲型ニ於テ同勢力ヲ保有セラルレハ事容易ナルモ其ノ相違アルコト難問ヲ招ク原因ナリ日本ハ決シテ英米ニ對抗スルカ如キ意思ヲ有スルモノニアラスト應シタルニ「スティムソン」ハ二ヶ月前華府

「スティムソン」ハ二ヶ月前華府會議ニ於テ日本全權カ英國ノ立場ニ立チテ考慮ヲ廻ラサントヲ希望ス若槻全權ハ太平洋ニハ二大海軍國アリト述ヘラレタルモ尙南方ニモ濠洲「ニュージーランド」等アリ英ノ八吋砲型十五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振當テサルヲ得ス若シ日本ニシテ其ノ主張ノ比率ヲ保有スルニ於テハ英ハ十五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク然カモ日本ハ砲一十二門ヲ有シ英ハ一〇四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安ラカナルヲ得サルヘシト述ヘタルヲ以テ

ニテ申上ケタル事ハ其後ノ事實ニ依リ益確實トナレリ米國ハ華府會議ニ於テモ日本ノ立場ニ副フコトニ常ニ努力シ來レリ華府會議ニ於テ米國ハ日本ニ對シ二重ノ保障ヲ提供シテ日本ノ國防上ノ必要ニ満足ヲ與ヘタリ即一ハ比率ヲ五、五、三トシ日本カ其近海ニ於テ防禦ヲ全フシ得ルニ充分ナラシメ二ハ防備ノ現狀維持ヲ約シテ日本ニ安心ヲ與ヘタルコト之ナリ今ヤ更ニ一步ヲ進メ日本側ノ主張ニ副フ爲其提案中ニ於テ大型巡洋艦ニ關シ其ノ隻數ヲ減少セリ巡洋艦ハ主力艦ノ附屬ナルヲ以テ通常ノ狀態ニ於テハ後者ノ比率ハ前者ニモ適用セラルルコト然ルヘシ日米間ニ戰爭ヲ考ヘ得サルハ若槻全權ノ言ハレタル通ニシテ日米間ノ此ノ親善關係ヲ立證スル爲ニモ華府會議ニ於テ決定セラレタル比率ヲ再ヒ提出セサルヲ得サル次第ナリ余ハ數々日本カ極東ニ於ケル「スタビライジング、フォース」ナルコトヲ公言シ居リ日本ノ存在ハ此意味ニ於テ米國ニ取リテモ利益ナリト考ヘ居レルモノナルヲ以テ華府會議以來増進セラレタル親善關係ニ顧ミルモ米案ヲ顧ミラレサリシコトニ付「リード」氏同様大ナル失望ヲ感セサルヲ得ス日本カ米國ニ對シ九年前協定セル比率ノ變更方ヲ提案セラルルハ米國民ノ心裡ニ頗ル惡影響ヲ與フヘキコトヲ虞ルルモノナリ吾人ハ日本側海軍ノ都合ヲモ考慮シ海軍専門家ノ意見ニ反シ大型巡洋艦ヲ二十一隻ヨリ十八隻ニ減少方ヲ斷行セル次第ニシテ日本側ニ於テモ同様ノ犧牲ヲ拂ハレサルニ於テハ米國民ハ理解ニ若シムヘシ（此ノ時英首相ハ參内ノ爲退席ス）ト述ヘタルニ付

若槻全權ハ日本全權カ英國ノ立場ニ立チテ考慮ヲ廻ラサントヲ希望ス若槻全權ハ太平洋ニハ二大海軍國アリト述ヘラレタルモ尙南方ニモ濠洲「ニュージーランド」等アリ英ノ八吋砲型十五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振當テサルヲ得ス若シ日本ニシテ其ノ主張ノ比率ヲ保有スルニ於テハ英ハ十五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク然カモ日本ハ砲一十二門ヲ有シ英ハ一〇四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安ラカナルヲ得サルヘシト述ヘタルヲ以テ

若槻全權ハ日英ヲ比較スルトキハ數ニ於テ接近スルモ日本ハ時代遅レノ四隻ヲ有シ又輕巡洋艦ニ於テ著シク劣勢ナリ此點ハ充分ニ御考量ヲ仰キ度シ尙英米カ八吋砲型ニ於テ同勢力ヲ保有セラルレハ事容易ナルモ其ノ相違アルコト難問ヲ招ク原因ナリ日本ハ決シテ英米ニ對抗スルカ如キ意思ヲ有スルモノニアラスト應シタルニ「スティムソン」ハ二ヶ月前華府會議ニ於テ日本全權カ英國ノ立場ニ立チテ考慮ヲ廻ラサントヲ希望ス若槻全權ハ太平洋ニハ二大海軍國アリト述ヘラレタルモ尙南方ニモ濠洲「ニュージーランド」等アリ英ノ八吋砲型十五隻中二隻ハ南太平洋ニ五隻ハ支那方面ニ振當テサルヲ得ス若シ日本ニシテ其ノ主張ノ比率ヲ保有スルニ於テハ英ハ十五隻全部ヲ東洋ニ振向クルノ外ナク然カモ日本ハ砲一十二門ヲ有シ英ハ一〇四門ヲ有スルノミトナリ到底我太平洋方面ニ於ケル人心ノ安ラカナルヲ得サルヘシト述ヘタルヲ以テ

モ鑑ミ主力艦ニ限リ六割ヲ承認シタル次第ナルカ國民ハ右ニ付頗ル不滿ノ意ヲ表セリ日本ノ七割要求ハ國民ノ信念ニシテ余ノ私見ニアラス故ニ之ヲ無視シテ七割以下ノ條約ニ署名シ得サル余ノ困難ナル立場モ亦充分御諒察ヲ乞フト述ヘタルニ

「リード」ハ米國ニ於テハ日米間相互ニ攻撃スルカ如キ場合ヲ全ク想像シ得ス一定ノ海軍力ヲ有スル日本カ極東ニ於ケル平和ノ保護者タルコト米國カ西半球ニ於ケルト同一ナルコト充分諒解シ居レリ米海軍ハ大西洋「カリビアン」海等各處ニ膠着ヲ餘儀ナクセラルル部分ヲ包含スルヲ以テ米國民ハ日本カ此際比率ノ増加ヲ要求セラルル動機ヲ理解スルニ苦シムヘシ日本提案實行ノ場合ハ米側カ廢棄ヲ要スルニ反シ日本側カ現狀ヲ維持スルノミナラス更ニ増加ヲサヘ爲シ得ル理由ハ到底國民ニ説明シ得サルヘク斯ル案ヲ基礎トスル約定ニ署名スルモ上院ノ批准ヲ得ル望絶無ナリト述タルヲ以テ之ニ對シ

若槻全權ハ日本案採用ノ場合ニモ日本側ハ輕巡洋艦、驅逐艦ニ於テ廢棄ノ要アルコトハ御留意願度シ尙「リード」氏ノ卒直ナル所言ニハ謝意ヲ表スルモノナルカ此種ノ談合ニテハ虛心坦懷ノ必要ヲ信スルヲ以テ我方ヨリモ最卒直ニ申上ケンカ日本國民ハ日本ハ七割ノ兵力ニテハ米國ヲ攻撃シ得サルコト明白ナルニ反シ眞ノ假定ナルカ米國ハ理論上日本ヲ攻撃シ得ヘク從テ米カ七割ヲ拒ミ六割ヲ主張スルハ其ノ場合攻撃ニ便ナラシメムトスルカ爲ニ外ナラストノ結論ニ到達スルノ外ナク此ノ感想ヲ覆スコトハ絶對不可能ニシテ從テ吾々ハ七割以下ノ比率ニ依ル條約ニハ到底調印シ能ハサル困難ナル立場ニ在ルコトヲ充分諒得セラレ度シト應酬シ

若槻全權七割以下ノ條約ニ調印シ得サルヲ明言ス

英外相再會ヲ提言

（話ノ之以上進マサルヘキ形勢ヲ見テ）「ヘンダーソン」ハ英國側ハ本日ハ「インテレステッド、スペクテーター」トシテ參列シタルカ日米双方ニテ更ニ慎重考慮ノ上再會セラルルコト可然乎ト提言シ「スティムソン」ハ日本案通ニテハ到底上院ノ協賛ヲ得難キ旨ヲ切言シ右ニテ會談ヲ終リ次回會合期日ニ關シテハ追テ決定スルコトトシテ散會セリ

第七節 松平「リード」會談

序説

（自由會談ノ必）

（松平「リード」會談開始）

（會談止メ防衛）

日英米三國交渉ニ於ケル英米ノ連絡ハ頗ル密接ニシテ英國側ニ申入レタル所ハ米國側ニ於テ善ク了知シ居ルヲ常トセリ、而シテ日英間ニ於テハ一月二十九日以来齋藤部長ト「クレイギー」トノ間ニ私的會談行ハレ居リタルヲ以テ我方ノ態度ハ米國側ニ於テモ知悉スル所ナルヘシト雖モ會談行詰ノ狀勢ヲ打開シ三國間ノ内協議ヲ成ルヘク速ニ進行セシムル爲ニハ日米交渉ニ重點ヲ置カサルヘカラサルカ故ニ日米ノ直接開談ハ我方ノ最緊切ト認メ且希望シ居リタル所ナリ、而シテ其ノ方法トシテハ從來ノ如ク双方唯固クナリテ相對スルヨリモ如何ナル談話モ之ニ依リテ相互ニ束縛ヲ受ケサルノ了解ノ下ニ自由勝手ニ意見ヲ交換シ其ノ間ニ双方ノ同意シ得ル案ヲ發見スルノ外良策ナキモ我方ヨリ進ンテ會見ヲ求ムルハ面白カラス先方ヨリ何等カ申出アラハ松平全權ニ於テ之ニ當ル心組ニテ事態ノ推移ヲ待チ居リタル處（二月十二日帝國試案手交ノ際松平全權ヨリ全然非公式ニ種々談合スルモ辭セサル旨「リード」ニ申入レタリ）二月二十五日「リード」ハ松平全權ヲ來訪シ英米間ノ妥協略ホ成立シタルカ日英米三國ノ協定成ラハ伊太利ハ之ニ參加スヘク然ル時ハ結局佛國モ參加スルニ至ルヘク日米間ノ交渉現狀ヲ打開スル爲ニ相互ニ何等「コミット」スルコト無ク意見ノ交換ヲ試ミ度シト申出テタルニ付之ニ應スルコトナレリ

我全權ニ於テハ右會議カ自由不羈ナル性質ヲ有スルニ鑑ミ一一之ヲ報告セス相當難ル可能性アル階梯ニ達シタル時初メテ之ヲ報告スルコトトナスト同時ニ會談ノ成功ノ爲ニハ嚴密ニ外間ヘノ漏洩ヲ防止スルコト緊要ト認メ之ヲ勵行シタルカ米國側ニ於テモ我方ト同様ノ態度ヲ採リ殊ニ「リード」案米案ト云フカ如キ用語ハ同全權部ノ立場ヲ弱ムルモノナリトテ絶對ニ之ヲ避クルコトヲ重視セリ三月二十日在本邦米國大使ヨリ外務次官ニ内示セル「スティムソン」ヨリノ電報ニ日本新聞カ絶ヘス「米提案」ナル文句ヲ使用スルハ寒心ニ不堪右ハ三國間ニ六週間ニ互ル交渉ハ未到達シタル協定ナリトテ此點ニ注意ヲ喚起シ又三月二十一日若槻全權「マクドナルド」ト會談ノ際同氏カ米國側ニテハ新聞紙ノ右用語ニ不滿ヲ漏ラシ居

リタル旨ヲ語レルカ如キ其ノ適例ナリ、此間新聞紙ハ凡ユル想像ヲ加ヘ極メテ區々ナル數字カ外間ニ漏レルニ至レルモ(三月十四日「リード」ハ松平全權ヲ來訪シ「スティムソン」ノ希望ナリトテ詳細ナル數字ヲ示シ之ヲ各政府ニ請訓セル旨ノ聲明書案ヲ示シタルモ我方ハ交渉未タ纏ラサルモノヲ過早ニ發表スルハ交渉ノ前途ニ不測ノ障害ヲ及ホスモノナリトテ發表見合セ方ヲ申入レタリ)遂ニ何等發表スルコトナカリキ

今右松平「リード」會談ノ經過ヲ詳述スルニ左ノ如シ(概要ハ第一章第一節一參照)

松平「リード」會談詳説

(一) 二月二十五日會談

一、「リード」試案

二月二十五日會談

二十五日會談ニ於テ「リード」ハ全然思ヒ付キノ案ニテ米國案ト稱スヘキモノニアラス且「リード」自身サヘ之ニ拘束サルルコトナキ全クノ一試案ナリトテ左ノ案ヲ提示セリ

「リード」試案

(イ) 八吋砲艦 日本ハ現ニ建造中ノ四隻ヲ完成スルコト米國ハ差當リ十五隻建造シ第十六、第十七、第十八ノ三隻ハ次回會議前ニハ竣工セシメサルコト第十六ヲ一九三三年ニ第十七ヲ三十四年ニ又第十八ヲ三十五年ニ夫レ々々起工スル事トスヘク而シテ日本ハ次回會議ニ於テ全然 *de hand* ニテ其所要ノ數量ヲ主張スルコト

(ロ) 輕巡 米國「オマハ」級十隻七萬五百噸ノ外新造七萬三千噸日本現有二十一隻九萬八千噸ノ外艦齡(二十年)超過艦

一萬噸(但シ右一萬噸ハ代換セサル事)合計十萬八千噸即チ對米七割五分

(ハ) 驅逐艦 米國十五萬噸日本九萬噸即チ六割

(ニ) 潛水艦 米國六萬噸日本五萬二千噸前回米國提案ノ日本保有量四萬噸ヲ改メ日本カ今日以上新タニ建造セサル場合一九三六年ニ有スヘキ數量五萬二千噸即チ對米八割六分トナルコト

「リード」案ニ關スル「リード」ノ説明左ノ如シ

「リード」案ニ關スル説明

「自分ハ米國カ十六隻以上ヲ建造セサル方ニ贊スルモ假令建造スルトスルモ次回會議迄ノ實勢力トシテハ日本ハ米國ニ對

シ七割二分ヲ有スルコトナルヘク米國側ニ於テハ權利トシテ十八隻ヲ得居ル譯ナルニ付日米双方共國民ヲ納得セシメ得可キカ如シ即八吋砲艦ニ付テハ見様次第ニテ六割トモ七割トモ見ユルコトナルヘシ又之ヲ全體トシテ考フル時ハ八吋砲艦ヲ假ニ七割二分ト見做セハ日米間ノ比率ハ七割一分トナリ若シ八吋砲艦ヲ六割ト見レハ全體ニ於テ六割七分強トナル

二、第一次日本側試案

右二十五日ノ會談ニ於テ松平全權ハ八吋砲艦ニ付テハ米國カ十八萬噸ノ權利ヲ有スルニ對シ日本ハ十萬八千四百噸以上ノ權利無キニ付結局六割トナリ日本側ノ満足ヲ得難シトテ大巡ニツキ米國カ終リノ三隻ヲ建造セサル場合ニハ日本ハ現在噸數ニテ満足シ米國カ之ヲ建造スル場合ニハ日本モ亦米國ノ七割ヲ保持シ得ル如ク建造スルコトヲ得ヘシトノ趣旨ノ左記日本側一試案ヲ示シノ案ノ特色ヲ説明シ米國側ノ考量ヲ求メ更ニ驅逐艦ニ付松平全權ハ米國側ハ十五萬噸ニ減シタリト云フモ艦齡ノ關係上現在保有ノ大部分ハ自然ニ廢棄サルヘキモノニシテ一九三六年ニ十五萬噸迄達スルカ爲ニハ多數新造スルコトナルヘキモ日本側ニテハ艦齡ニ達スルモノ少ク新造サルヘキモノ殆ントナキ爲メ比率ノ表面以外實際上著シク劣勢トナルヘシトテ海軍専門家作成ノ表ヲ示シテ説明シタルニ「リード」ハ右ハ一理アレトモ右ノ中ニハ優秀ナルモノモアリ保存ニモ注意サレ居ルニ付三十萬噸ノ大部分カ廢棄サル譯ニハアラスト辯明セリ

(第一次日本側試案)

第一次日本側試案

「一九三六年末ニ於ケル日英米三國ノ保有量ヲ次ノ如ク定ム

八吋砲巡洋艦

米	國	一五隻	一五〇、〇〇〇噸
英	國	一五隻	一四六、八〇〇噸
日	本	一二隻	一〇八、四〇〇噸

米國ノ大
巡艦數低
下ノ能否

ル處同氏ニ於テモ右ハ充分ニ考量スヘシト申居リタル趣ヲ語レリ、尙松平全權ヨリ米國側ニ於テ大巡ヲ確定的ニ二十五隻ト
ナスコトヲ約サルルヤト問ヘルニ對シ「リード」ハ大巡ニ關スル米國側最初ノ計畫ハ三十三隻ナリシ處「フリーバー」ノ盡
力ニ依リ二十三隻トナリ更ニ「ゼネラル、ボード」ニテ二十一トナシタルモノヲ漸ク十八迄下ケタル譯ニテ之以上ノ削減
ハ目下ノ處到底不可能ナリト述ヘタリ

二、二十八日會談

二月二十
八日會談
（我試案
米國側不
同意）

二月二十八日米國側提案ニ對シ我方ノ「コメント」未タ成ラサリシニ付キ斷ハリ旁々松平全權ヨリ「リード」ヲ往訪シ
タル際「リード」ハ日本側試案ハ米國側ニ於テ到底同意シ難キ旨ヲ述ヘ結論大ケテ簡單ニ書キ認メタル覺ヘヲ手交シ且英
國側ニ於テモ到底承認シ得サルヘキ旨ヲ述ヘタリ

(三) 三月三日會談（日本側第二次提案）

三月二日
帝國第二
次案提示

三月二日松平全權「リード」ヲ往訪シ左記我方第二次提案ヲ提示セリ
「八吋砲巡洋艦」

米國、十八隻計畫ヲ實行スルコト但第十六、第十七、第十八ハ夫々一九三三年三四年三五年ニ起工スルコト

日本、現ニ建造中ノ四隻ヲ完成スルノ外新艦二隻（各八、八〇〇噸）ヲ一九三三年ヨリ三五年迄ノ間ニ起工スルコト

六吋砲巡洋艦

米國、「オマハ」十隻ヲ保有スル外七三、〇〇〇噸ノ新艦ヲ建造スルコト

日本、現有中ヨリ利根以下八隻三三、六二〇噸ヲ「エリミネート」シ十三隻六四、八〇〇噸ヲ保有ス但シ内三隻一五、三

〇〇噸ニ對シ一五、一〇〇噸ノ代換ヲ行フコト

六吋砲艦ノ艦型ヲ縮少スルコトハ極メテ緊要ト認ム

驅逐艦

米國	日本	噸
一五〇、〇〇〇噸		
一〇五、〇〇〇噸		
六〇、〇〇〇噸		
七七、九〇〇噸		
合計		
米國	日本	噸
五三三、五〇〇噸		
三七三、五〇〇噸		

三月三日
會談

翌三月三日午後「リード」ハ松平全權ヲ來訪シ右ニ關シ三日朝米全權全員會合ノ上審議シタルモ同意ヲ得ス英國側ニ於テ
モ右ニ反對ノ意向ナル趣ナルカ

我第二次
案ニ對ス
ル米國側
ノ反對

(イ) 先ツ八吋砲艦ニ付テ見ルニ米國カ最後ノ三隻ヲ一九三三、三四、三五年ニ起工ヲ延期セシハ米國側ニ取リ讓歩ニシテ
是ニ由リ日本ハ次回會議ニ至ルマテ所要ノ實勢力ヲ保持シ得ルノミナラス次回會議ニ於テ更ニ全然「フリー、ハンド」
ニテ必要トスル所ヲ主張シ得ル譯ナルニ拘ハラス日本側カ更ニ同期間内ニ大型二隻ノ建造ヲ求ムルハ米國側ノ到底同意
シ得サル處ナリ

(ロ) 輕巡ノ保有量ヲ低下シタルハ可ナルモ

(ハ) 潛水艦ノ日本側保有量ハ如何ニモ多キニ過ク米國カ現有九萬噸ヲ六萬噸ニ引下クルコトニハ軍人連特ニ「ブラット」
等ニ於テ非常ニ反對シ居リタルモ軍縮ノ目的ヲ達スル爲押シテ切リ下ケテ斷行シタル次第ナルカ米ノ六萬噸ニ對シ日本
カ七萬八千噸ヲ要求スルカ如キハ米國側ノ諒解ニ苦シム處ナル旨ヲ述ヘタルニ付松平全權ハ

(イ) 大型三隻ノ起工カ若干繰延トナルモ建造ノ權利カ留保サルル限リ日本側ヨリ見レハ依然十八隻六割ト數フルノ外ナク

米國側意
見ニ對ス
ル松平全
權ノ反對

又次回會議ニ於テ日本側ハ再ヒ其ノ所要量ヲ要求スル「フリー、ハンド」ヲ有スト稱スルモ次回ニ我主張ヲ貫徹シ得ル保證ヲ有スル次第ニモアラス假ニ之ヲ獲得シ得ルトスルモ起工迄ハ相當年月ノ遅延ヲ免レス之ニテハ到底日本側ニテ同意スルコト能ハス

(ロ) 輕巡ノ保有量比較の少キモ右ハ決シテ之ヲ充分ナリト云フ意味ニアラス日本側ニ於テ大型巡洋艦ト潜水艦ノ所要量ニ重要性ヲ置ク結果全體ニ於ケル比率ヲ高メサル爲メ已ム無ク切下ケタル迄ノコトナルニ付他ノ「カチゴリー」ノ數カ變化スル場合ニハ又此ノ數モ變化スルコトアルヘク

(ハ) 潜水艦ニ關シテハ日本カ劣勢海軍國タル事實竝ニ日本カ南北ニ互ル特殊ノ地理的形狀ニ在ル事實等ヲ考量ニ入ルレハ決シテ其ノ所要量大ニ過クトハ云ヒ難ク米ヲ六萬噸トシ日本ヲ七萬七千八百噸トセシハ米案ニ於テ米國六萬噸トアリシヲ以テ其ノ儘トシ單ニ我所要ノ數量ヲ示シタル丈ニテ米側ニテ更ニ増額セラルルモ異存ナシ又潜水艦ヲ以テ商船攻撃ノ用ニ供スルノ意圖ナキコトニ付テハ從來屢々聲明セシ通りナリト告ケ

尙驅逐艦ニ關シテ二月二十五日會談ノ際陳述ノ趣旨ヲ繰返シ述ヘタルカ「リード」ハ日本ハ太平洋ノミノ防備ニテ足レルモ米國海軍ハ大西、太平ノ兩洋ニ分割セラルル不便アリト述ヘタルニ付松平全權ハ海軍力ヲ廣汎ナル海面ニ分散セシムルコトハ平時ノ狀態ナレトモ海軍専門家トシテハ戰時此等ノ海軍力ヲ太平、大西一洋ニ集中シ得ル可能性ヲ見テ比較考量セサルヘカサル立場ニアル旨ヲ述ヘタリ

松平全權ヨリ要スルニ「リード」案ニテハ日本側ニ於テ同意ヲ表シ兼スル處何カ他ニ名案モ無キヤト申出タルニ對シ「リード」ハ該案ハ米國側ニ於テ能フ限り妥協ヲナシタル結果漸ク得ラレタル一案ニテ之以上更ニ好キ案ヲ「サゼスト」スルコトハ困難ナリト思考ストテ此上トモ同案ニ付キ考究ヲ加ヘンコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ

(四) 三月八日及十日會談(「リード」修正案)

一、若槻全權ト英米首席全權トノ會談

三月四日
若槻全權
ト
英米首席全權
トノ
會談

若槻全權ハ事態ノ硬化ヲ憂ヒ三月四日首席全權會議直後「セント、ジュームス」宮別室ニテ立話ノ積リニテ「マクドナルド」ニ對シ會議成立ヲ切望スル其ノ衷情ヲ披瀝シ此ノ目的ヲ以テ心膽ヲ碎キ居ル誠意ヲ述ヘ今日迄ノ提案ニテハ如何セン協定ノ見込ナキニ付此上トモ英國側ニ於テ我立場ニ充分ノ考慮ヲ拂ハレ度シト希望シタルカ「マクドナルド」ハ若槻全權ノ真情ヲ喜ヒ能フ限リノ努力ヲナスヘキヲ約スルト同時ニ英國側ノ苦衷ヲ縷述シ會談計ヲスモ三十分以上ニ亙レリ其ノ日同シク「スティムソン」ニモ一言シ難局打開ノ一助タラシムル考ナリシカ同全權生憎微恙ニテ不參ナリシヲ以テ三月七日首席全權會議席上雜談ノ末同氏ヲ往訪スルコトナリ「マクドナルド」ニ對スルト同様ノ趣旨ヲ繰返シ「スティムソン」亦其ノ困難ナル立場及和衷協同ノ精神ヲ高調スルト共ニ協定ニ努力スヘキ事ヲ確言シ約二時間ニ亙ル意見交換後早速松平「リード」會談ノ促進方ヲ圖ルヘキ事トナレリ

二、「リード」第一次及第二次修正案

三月八日
松平全權
ト
英米首席全權
トノ
會談

三月七日若槻「スティムソン」會見後引續キ松平「リード」間ニ自由會談ヲナスコトナリ三月八日及十日ノ兩日會談セリ八日ノ會見ニ於テ「リード」ハ幣原外務大臣カ「キヤツスル」大使ト會見ノ際「リード」案ヲ受諾シ得サル理由ヲ述ヘラレタル情報ニモ接シ居ルニ付(註)何トカ日本側七割ノ要求ヲ満足セシムル爲本日迄ノ數字ヲ調整シ度キ考ニテ種々考量シタルカ艦船外巡洋艦ヲ二萬噸ニ増シ驅逐艦ニ於テ更ニ五千噸ヲ増シテ九萬五千噸トセハ全體トシテ米ノ五十三萬三千五百噸ニ對シ日本ハ大巡ニ於テ十萬八千四百噸、小巡九萬八千四百十五噸ノ外潜水艦五萬二千七百噸總計三十七萬四千五百十五噸對米七割餘トナルヘキニ付之ニテ折合ハサルヤト申出アリタリ松平全權ハ古艦ヲ加フル考ハ糊塗的ニシテ日本國民ヲシテ了解セシメ得サルノミナラス却テ國民ニ疑惑ヲ起サシムル危險ヲ有スル考案ナリ又潜水艦ニ關スル日本ノ必要量ニ對シ五萬二千七百噸ナル數字ハ日本側ニ於テ如何ニモ同意困難ナル點ナリト種々論議ヲナシタルカ、十日ノ會見ニ至リ「リード」ハ大體同様ノコトヲ繰返シタルモ只驅逐艦ニ於テ二千五百噸ヲ増シ九萬七千五百噸トスルコトニ何トカ内輪ヲ納得セシメ得ヘタ從テ古艦ヲ一萬七千五百噸トシ前同様總計三十七萬四千五百十五噸對米七割餘トナシテハ如何ト申出タル

三月十日
松平全權
ト
英米首席全權
トノ
會談

二五六

幣原大臣ハ米國ハ一萬噸級十八隻建造スル權利ヲ確保シ其第十六隻チ一九二三年ニ起工スルモノトセハ假ニ建造ニ三年ヲ要スルモノトスルモ一九三
 六年ニハ既ニ竣工ヲ見ルヘク他ノ二隻モ次同會議ノ際ニハ建造ノ工程可成進捗シ居ル事ナルヘシ而モ米國ノ此制艦計畫ハ列國ノ承認ヲ經タルモノナル
 ニ反シ日本ノ七割要求ニ付テハ列國ヨリ何等承認ノ言實ヲ取付クル事無ク只一九三五年ノ會議ニ於テ之ヲ提出スルヲ妨ケスト云フノ過キス斯クテハ其
 會議ニ於テ本件要求ニ關スル日米兩國ノ地位ハ對等ト稱シ難シ即チ米國カ十五隻ヲ超ヘテ一萬噸級建造ヲ行フ場合ニハ日本ニ於テモ之ニ相當スル
 新艦建造ノ權利ヲ有スルコトトセサレハ公平ナラスト答ヘタルニ大使ハ右地位ノ兩國對等ナラサル事ヲ首肯シタルカ米國カ大型巡洋艦チ十八隻ニ迄低
 減スルニ付テハ大統領並政府部内ニ於テ海軍當局ヲ説得スルニ如何ナル苦心ヲ費シタルカヲ諒察セラル度シト述ヘ

次テ大臣ヨリ大使カ潜水艦問題ノ解決ヲ困難ト考フル理由ヲ質問シタルニ對シ米國ニ於テハ潜水艦ハ戰國用トシテ有效ナルモノニ非ザルモノ之ヲ多數保有スル事ヲ認ムルニ於テハ通商ノ妨害ニ用ヒラルヘキ事必然ノ勢ナリトノ見解行ハレ從テ七八、〇〇〇噸ニ上ル潜水艦ノ保有ヲ日本ニ許ス事ハ到底上院承認セサル所ナリヘシ「ブラツト」提督ノ意見ニ依ルモ飛行機ノ發達セル今日潜水艦ノ活動ニ依リテ米國艦隊ノ行動ヲ阻止セラルルカ如キハ左邊恐ルニ足ラサル由ナリト説明セルニ付大臣ハ全クノ思付トシテ然ラハ潜水艦ニ關スル華盛頓會議ノ約定ニ一歩ヲ進メ其活動ニ付テハ水上艦ト同一ノ法規ニ服セシムルニ止マラス更ニ潜水艦ヲシテ商船ノ臨檢、搜索ヲモ行ハシメサル旨ノ最モ勝算ナル約束ヲ結ブ事トセハ米國カ日本ノ潜水艦保有量ニ反對スル理由ハ全ク消滅スル筈ナラヌヤ佛國等ニ於テ之ニ異議アリトモハ日米兩國間ノミニテ之ヲ約束スルモ可ナルニ非サヤト述ヘタルニ大使ハ興味ヲ以テ聽キ取りタリ尙ホ辭去スルニ臨ミ大使ヨリ全然一個ノ考トシテ日本側ニ於テ大型巡洋艦七割比率ノ主張ヲ固持スル事無ク米國十八萬噸ニ對シ十二萬噸保有スル權利ヲ留保シ現存ノ七千噸ハ八吋砲艦ノ代換チ一萬噸級ニシテ行フ事トシテハ如何トノ意見ヲ述ヘタルニ付大臣ハ古艦級ハ小型ニシテ劣

勢ナルカ故ニ今後十數年其艦齡ノ到ルヲ俟チ之ヲ一萬噸級ニ代換スルコトニ依リテ満足スヘシト云フカ如キハ承認スル事雖キ所ナル旨答ヘタリ

(一) 若槻「ステイムソン」會談

日何レモ五二、七〇〇合計米五二六、二〇〇日三六七、〇一五即總括的六割九分七厘余ヲ計上セリ

一五七

輕巡ニ關
スル我主
張領水

然ルヘシ實際問題トシテハ右會議迄ハ日本ハ七割以上ヲ保有スルコト明カナル以上是非トモ此儘ニテ承認セラレムコトヲ切望スト述ヘ若槻全權カ難色ヲ示タルニ對シ兩人トモ不滿此ノ上モ無キ色ヲ見セタリ

輕巡ニ就テハ「リード」ハ日本ニ一〇八、四一五噸ヲ認ムルトキハ多量ノ新造ヲ爲スコトナルニ非サヤト非難セルニ付若槻全權ハ工業力維持ノ點ヨリ艦齡未だノ艦ヲ代換スルノ必要アルヘキコトニ付テハ既ニ了解アルコトニモアリ右ノ點ハ左迄介意ノ必要ナカルヘシト述ヘ「リード」ハ遂ニ領承ノ意ヲ示セリ但此點ニ就テハ英國側ノ意向如何ナルヘキカ結局其ノ同意ヲ取付クルニ一段ノ努力ヲ必要トスヘシト語レリ

潜水艦日
米均勢

潛水艦ニ付テハ若槻全權ハ日本ノ主張ヲ反覆シテ考量ヲ求メタルモ五萬二千七百噸以上トナスコトヲ肯セス

若槻全權
承諾ヲ留
保ス

應酬ノ結果彼モ亦五萬二千七百噸迄下リ結局日米共ニ五萬二千七百噸トシテ均勢ヲ取ルコトニ落付キタリ「スティムソン」ハ實ハ英米間ニハ既ニ協定進ミ何時ニテモ條約ヲ締結シ得ル狀態トナリタルカ是非共日本側ニテモ此邊ニテ折合ハレ少クトモ三國間ノ協定ヲ成立セシメムコト希望ニ堪ヘスト切言シ若槻全權ハ右ノ數字ハ尙ホ責任ヲ以テ政府ニ呈示シ兼ヌルヲ遺憾トス特ニ古鷹級ノ代艦ヲ一萬噸トスルコトスラ同意ヲ得サル様ニテハ今日ノ話ハ一應此ノ邊ニテ止メ置クコト致シ度シト述ヘ頗ル白ラケ切リタル狀態ニテ引取リタリ

今後ノ交
渉ニ關ス
ル印象

尙ホ同日ノ交渉經過ヲ政府ニ報告シタル全權ノ電報中左ノ一句附記シアリタリ
今日會談ノ模様ヨリ得タル印象ニヨレハ此儘ノ押問答ニテハ日米間ニハ差當リ之以上日本ヲ有利ニスル見込立タス不取敢申進ス

(二) 若槻「リード」會談

三月十三
日若槻
會談

三月十三日午後「リード」若槻全權ヲ來訪シ十二日米國代表ノ間ニ種々協議ヲ凝シタル處十二日「スティムソン」ノ提示セル小型巡洋艦ニ於テ米國十四萬三千五百噸ニ對シ日本十萬八千四百十五噸ナル數字ハ日本ノ對米比率七割五分五厘トナリ如何ニモ高率ニ過クトテ海軍側ノ反對モ激シク切メテハ七割ニ相當スル十萬四百五十噸ニ改メ度シトノ希望ナリト申出テ

我輕巡噸
數低下方
希望

タルニ付若槻全權ハ實ハ十二日來日本側ニ於テモ十二日ノ提案ニ付キ種々考究シ居ル處何分ニモ八吋砲艦ニ關スル保證十分ナラス又潛水艦ノ數量モ少ク彼レ之レ苦慮シ居ル次第ナルカ更ニ小型巡洋艦ノ噸數ヲ減シ自然總體ノ比率ヲモ低下セシムルコトハ自分ヲ益々困難ナル立場ニ置クモノナリト述ヘタリ

日米保有
量ニ關ス
ル「リード」
案ノ提

「リード」ハ然ラハ小型巡洋艦ヲ七割ニ止メ別ニ若干ノ古艦ヲ加ヘ總體ノ比率ヲ七割ヲ多少超ユルカ如ク按排スルコトモ一案ナリト申出タルモ古艦ヲ加フルハ前回ニモ述ヘタル通國民ニ誤解ヲ與フル面白カラスト若槻全權ヨリ反對シ夫レヨリ種々ノ應答アリタル結果結局「リード」ハ米國ノ保有量ヲ昨日ノ通りトシ日本大型巡洋艦十萬八千四百噸小型巡洋艦十萬四百五十噸驅逐艦十萬五千五百噸（小型巡洋艦ノ代リニ驅逐艦ヲ増スコトハ若槻全權ヨリ強キ主張アリテ十二日會談ノ際ノ九萬七千五百噸ヨリ本數字ニ増加セルモノナリ）潛水艦五萬二千七百噸合計三十六萬七千五百噸即チ米國ノ五十二萬六千二百噸ニ對シ六割九分七厘五毛餘ノ數字ヲ提示シ之ニテ日本側ヲ纏メラル様考量アリ度ク尙八吋砲艦ニ關スル

「リード」
我方ノ交
渉ヲ切望

日本ノ立場ヲ留保スル方式ニ付キ假リニ一案ヲ立ツレハトテ即座ニ左記ノ案ヲ示スト共ニ米國側ニ於テハ出來得ル限リ協調シテ日本ノ要求ニ應スル様努力シ居ル次第ニテ過日來日本側ノ提案ニ保ル潛水艦最大噸數ヲ二千噸トスル問題、敷設艦二隻新造問題、練習用トシテ日本ノミ若干ノ老齡艦保有ノ問題等ノ審議ニ關シテモ特ニ專門家ニ訓令シテ日本側ノ希望ニ副フ様取計ラハシムル等出來得ル限リヲ盡シ居ル次第ニ付キ右等ノ事情ヲモ篤ト諒察ノ上此邊ニテ折合ハレ佛伊ノ參加困難ナル場合ニハ日英米三國ノミノ協定ナリトモ速ニ成立セシメ得ルニ至ル様考量ヲ希望ニ堪ヘスト申述ヘタリ若槻全權ハ右ニ對シ本提案中ニハ困難ト認メラル所モアレト兎ニ角申出ノ八吋砲艦ニ關スル留保案ニ付テモ又新タニ提示サレタル數字ニ付テモ充分ニ協議ヲ遂ク置クヘシト約シ置キタリ、尙潛水艦ニ關シ若槻全權ヨリ日本ノ所要量ト五萬二千七百噸トハ其間ノ開キ餘リ大ナリ此數字ヲ増シタル「バリタイ」トナスコトヲ望ム旨繰返シ述ヘタルニ「リード」ハ右ハ米國側ニ於テ到底考量シ得スト強ク反對シタリ

(八吋砲艦ニ對スル留保案)

米英共
「リード
案ヲ承認
ス

「十三日日本側ニ申出タル數字ニ付米國全權顧問等ノ會議ヲ開キ相談ヲナシタル處反對スル者モアリタルモ大體ニ於テ承認ヲ得タリ又英國側ニ對シテモ「ステイムソン」及自分ヨリ首相、海相及「クレイギー」等ニ右ノ數字ヲ示シ相談シタルニ英國海軍側ノ主ナル人々モ之ニ加ハリ種々ノ論議アリタルモ結局右ノ數字ナラハ承諾差支ナカルヘシトノ事ナリ但シ日本カ八吋砲巡洋艦ニ關シ留保ヲ附スル場合ニハ英國亦之ニ對抗スル留保ヲ附スヘキ旨述ヘタルニ付若シ英國側ニ於テ右様ノ留保ヲナスニ於テハ米國ニ於テモ亦日英ノ留保ニ對抗スル留保ヲ爲スヘシト申置キタリ」ト語レリ

三月二十五日
席全權會
議二於之
ル論議)

權部カ政府ニ「リコンメンド」スルコトヲ「アグリ」シタル「妥協案」ト改ムヘシト云ヘリ此語モ尙正確ナラサル所アルモ大體我方ノ意見貫徹シタルヲ以テ其儘ト爲シ置ケリ

本會議ニ於ケル英米ノ提携ハ相當緊密ニテ交渉ニ於テモ公式ノ會合ニ於テモ之ヲ認ムルコトヲ得タルカ右提携ハ英米間ノ懸案解決ヲ見タル二月末即日米會談ノ際ニ於テ最モ顯著ナリキ、左ニ先ツ英米交渉ノ經過ヲ述ヘ次テ日米會談ニ關聯シ行ハレタル我方ト英國側トノ會談ヲ敘述スヘシ

二月三日
迄ノ形勢
三萬噸
問題未解
決

二月十一日迄三萬形勢問題解決

二月五日提示ノ米國試案ハ決定的ニ米國ノ大型保有量ヲ十八隻ニ低下シタルヲ以テ英米間ノ一難問ハ解決セラレタルモ二月五日提示ノ米國試案ハ決定的ニ米國ノ大型保有量ヲ十八隻ニ低下シタルヲ以テ英米間ノ一難問ハ解決セラレタルモ二隻ト十八隻トノ差三萬噸ヲ小型巡洋艦ニ振替ヘ所謂「ラビダン」假協定ノ際十萬五千五百噸タリシモノヲ十四萬七千噸ニ増加シ、ニ對シ二月十一日會談ノ際英國側ハ之ヲ過大ナリトシテ反對シ且米國試案中ニ提議セラレアル主力艦一隻建造シ、ニモ反對セリ尙驅逐艦潛水艦保有量ニ付テハ何等ノ進展ヲ示サザリキ（第五節三參照）

二月末英米協定成立

然ルニ其後米國側ハ主力艦一隻建造ノ件ハ各方面ノ反對ニ鑑ミ取止ムルニ至リ(二月二十五日「リード」談)英米間ニ於ケル懸案ハ略ホ協定成立シ残り居ル重要問題ハ英國側ニ於テ米國側六吋巡洋艦ノ噸數ヲ約七千噸減少方ヲ主張シ居ル點ノミトナレルカ(二月二十六日「リード」談)二十七日ニ至リ「リード」ハ米國側ニ於テ十四萬六千五百噸ヲ十四萬三千噸ニ減少スルコトニ纏リタル旨松平全權へ通知シ來レリ(右數字ハ十四萬七千噸及十四萬三千五百噸ノ誤ナリシコト後ニ明瞭トナレリ)

斯ノ如ク英米間ノ懸案ハ二月二十七日頃解決シタルモノノ如ク三月十二日「スティムソン」ハ若槻全權ニ對シ英米間ノ協定ハ進捗シ何時ニモ條約ヲ締結シ得ル狀態ニ在リト述ヘタリ

(二) 齋藤「クレイギー」會談

(イ) 二月二十八日會談

二月十日齋藤情報部長ハ「クレイギー」ヲ首相官邸ニ往訪シ米國試案カ我方ノ立場ニ考慮ヲ加ヘ居ラサルコトヲ指摘シ八吋砲巡洋艦問題打開策ニ付意見交換ヲ爲シタルカ帝國試案提示ニ次テ日英米三國全權會談アリシ翌日(二月十八日)「クレイギー」ハ齋藤部長ニ對シ十七日表明セル我方ノ態度ハ英首相ノ甚タ當惑スル所ニシテ我方カ其ノ態度ヲ固持スルニ於テハ英國側ハ凡テ從來ノ考ヘ方ヲ改變セサルヘカラサル旨ヲ切言シ八吋砲型問題打開策トシテ齋藤部長ト共ニ考究ヲ重ネタル米國側起工延期案ヲ根幹トシテ一案ヲ作成セリトテ(全クノ假案ニテ政府へ報告セサランコトヲ希望シタリ)左ノ案ヲ示シ

	米		英		日		比率
	米	英	米	英	米	英	
八吋砲型	一八〇,〇〇〇	一四六,八〇〇	一〇八,四〇〇				
六吋砲型	一四七,〇〇〇	一九二,二〇〇	九八,〇〇〇				
驅逐艦	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	九七,五〇〇				
潛水艦	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五二,七二九				對米 六六%

「クレイギー」
大案(米國側)
延期案

計

五三七,〇〇〇

五四九,〇〇〇

三五六,六二九

對英 六四%

米國ヲシテ八吋砲型最後ノ三隻ヲ逐次一九三三、三四、三五年ニ起工セシムルコトセハ其竣工ニ先立チ一九三五年會議開催ノ運トナルヘク日本ハ現實七割以上ノ勢力ヲ保有シテ同會議席上其主張ヲ再說スルヲ得ヘシト說明セリ之ニ對シ齋藤部長ハ右ニテハ八吋型ニ關スル我立場ノ保障ノ不十分ナルコト及總括的比率對米六割六分對英六割四分ニテハ到底考量ノ餘地ナキコト等ヲ指摘シタリ

(ロ) 其後ノ會談

爾來隨時會談ノ機會ニ於テ齋藤部長ハ日本ノ總括的七割要求ハ是非共十分ノ考量ヲ加ヘラレ度キコト及若シ六割六分乃至四分ト云フカ如キ低率ヲ飽ク迄主張セラルルニ於テハ實ニ會議ノ前途ヲ悲觀セサルヲ得スト述ヘ英米側ニ於テ我立場ヲ善解シ之ニ深思熟慮ヲ加ヘムコトヲ求メタルカ「クレイギー」ハ日本ノ主張モ去ルコトナカラ從來海上ノ覇ヲ唱ヘタル英國ノ海軍力ト日本ノ海軍力トカ餘リニ接近スルハ英國國民ノ到底了解シ能ハサル所ナルヘク又米國ハ財政上租税ノ輕減ヲ延期スル丈ケニテ充分建艦ヲ爲シ得ル立場ニ在リ相當ノ保有量ヲ主張スルハ人情已ムヲ得サル所ナリ尙英國カ海上ノ覇ヲ唱ヘタル時代ニ於テスラ一度モ自制シテ海軍制限ヲ提唱セシコトナキニ拘ラス今日容易ニ第一海軍國タル財政力ヲ有スル米國カ軍縮ヲ提唱スルハ之ヲ德トセサルヘカラス萬一今回ノ會議不調ニ了ラハ米國民ノ神經刺戟セラレ大建造ヲ決行スヘキヤ火ヲ賭ルヨリモ明カナリ斯ル成行トモナラハ英國モ日本モ非常ノ苦境ニ陷ルヘシ此點深甚ノ考慮ヲ必要トスル次第ナリト云ヘルヲ以テ齋藤部長ハ全然攻撃力ナキ日本ノ海軍力ヲ強テ或ル比率以下ニ置カムカ爲ニ大建艦案ヲ樹ツルト云フカ如キハ不戰條約ノ精神ニ背馳シ軍縮事業ノ真諦ヲ沒却スルモノニシテ平和ヲ好愛スル米國民ノ支援ヲ得ヘシトモ思ハレス此上尙米國側トモ熱議ノ上我立場ニ十分考慮ヲ加ヘムコトヲ希望スト續述シ「クレイギー」ハ何トカ「種ノ「ヤード」ステイタ」ニ依リ日本側ヨリ見レハ七割ニ近ク英國側ヨリ見レハ低率ナルカ如キ案ヲ工夫スルノ外ナカルヘシト繰返シタリ(前記二月十日會議ノ際齋藤部長ハ「クレイギー」ニ對シ米國側カ其試案ヲ強硬ニ主張スルカ如キコトアラハ我全權部内ノ強硬論

齋藤部長
七割主張
ニ對スル
「クレイギー」
觀察的態度

ヲ激發シ收拾シ得ヘカラサル事態ニ立到ラシム可キ點ヲ強調セルニ對シ「クレイギー」ハ斯クノ如キ事無キ様同部長ノ盡力方ヲ希望セリ

三月三日
會議
「クレイギー」
「リード」
案辯

三月三日「クレイギー」ハ松平「リード」會議ニ牽聯シ「リード」試案中八吋砲型ニ關スル起工延期ノ部ハ自分カ米國側ヲ說得シテ承諾セシメタル所ニシテ實際上日本ノ立場ヲ十分擁護シタルモノナルニ付深甚ノ考慮ヲ拂ハレンコトヲ希望スト述ヘ尙ホ潛水艦ニ就テハ日本ノ主張ニ顧ミ五萬二千餘噸マテ讓歩シタルカ右ハ追テ四萬噸位ニ引下ケ貫ヒ度キ希望ナリ兎ニ角「リード」試案ニ現レタル數字ハ英米側ノ是以上讓歩ヲ難シトスルモノナルニ付其積ニテ考究ヲ請ハサルヲ得スト語リ齋藤部長ハ其ノ日本提案ト距離多ク其儘ニテハ考究ノ基礎ト爲シ難キコトヲ切言セリ

(ハ) 三月五日會議

三月五日
會議
「クレイギー」
「リード」
案辯

三月五日齋藤部長ハ「クレイギー」ト會見シ四日若槻松平兩全權ヨリ首相ニ申入レノ次第(本節(三)及(四)參看)ニ言及シ其後何等カ案出スル所アリタリヤト尋ネタルニ「クレイギー」ハ先日ノ案以上工夫ノ餘地ナシ英國海軍當局ハ六割ヲ以テ最均衡ヲ得タル勢力ト確信シ居レリ日本ハ一方ニ大陸ヲ擁シ他方ニ太平洋ヲ控ヘ軍略的ニ誠ニ有利ノ地位ニ在リ六割ニテ充分國防ノ目的ヲ達シ得ヘシトノ意見ナリ今日ニ於テモ其ノ根本意見ニ何等變更ナキニ不拘和衷ノ精神ニ依リ讓歩案ヲ提供シ居レリ然ルニ日本側ニテハ滯英二ヶ月半ニ互リ種々提案アリタルモ何レモ同シ主張ヲ別ノ形ニテ言ヒ表シタルモノニ過キス一步ノ讓歩ヲモナサレサルハ失望ノ至リナリ英國側ハ六割、日本側ハ七割ノ主張ヲ出發點トスル以上日本側ヨリモ讓歩ヲ求メ何レカ中間ニテ落着クノ外ナキニアラスヤ我方今日迄ノ提案スラ實ハ海軍側其ノ他ヨリ大ナル非難アルヘキコトヲ覺悟シ居レリト述ヘタルニ付

齋藤部長
實數ヲ主
張ス

齋藤部長ハ出發點ヲ六割七割ト云フハ當ヲ得ス出發點ハ之ヲ國防ノ平等ニ求メサルヘカラス日本ハ平等ヨリ七割ニ低下シ劣勢ヲ以テ防守ノ備ヲナサントスルモノナルニ拘ラス更ニ之カ低下ヲ求メラルルハ我領得ニ苦シム所ナリ然レトモ議論ヲ重ヌルモ詮ナキコトナレハ數字ニアタリテ具體的協定ニ至ルノ途ヲ探クルコトトスル方然ルヘシ試ミニ今日迄提出セラレ

タル英米案中ヨリ我ニ有利ナル數字ヲ摘出セハ

大型巡洋艦	一〇八、四〇〇	輕巡洋艦	一〇八、〇〇〇
驅逐艦	九七、五〇〇	潛水艦	五二、七二九
計	三六六、六二九		

トナリ從テ我主張三要點ノ一タル總括的七割ヨリシテ僅カニ七千噸ノ差ニ過キス(米國保有量ヲ五三三、五〇〇噸トシテ)勿論米國案ハ輕巡洋艦中ニ一萬噸ノ艦齡超過艦ヲ含ミ此ノ如キハ我方ノ到底承認シ能ハサル所ナルノミナラス右噸數ノ各艦種振當ハ根本的ニ改訂ヲ必要トスルコト勿論ナルモ總括的七割ヲ認ムルコトカ事實上然程難問題ニアラサルコトハ右數字ニテ明ナルニアラスヤト説明セルニ

總括的七
割主張ニ
對スル
「クレイ
ギー」
態度

「クレイギー」ハ熟考ノ後更ニ七千噸ノ艦齡超過艦ヲ加ヘテ七割トスルコト可能ナルヤモ知レス日本側ノ苦衷モ推察スルニ付其點考究ヲ加フヘシト答ヘタルヲ以テ齋藤部長ハ古艦ハ現ニ専門委員會ニテ討議中ノ特殊艦問題トモ關係アルノミナラス極メテ糊塗的ノ策タルノ感アリ主義上同意スルコトヲ得ス何トカ好意的考量ヲ以テ別ニ總括的七割案ヲ工夫セラレ度シト述ヘ

「クレイギー」ハ其ノ困難ナル問題ナルコトヲ繰返シ七割ハ英國自治領等ニ對シ攻撃的勢力ナリト主張セルヲ以テ齋藤部長ハ其ノ意味ヨリスレハ六割ニテモ攻撃的勢力ト謂フ事ヲ得ヘシ斯クノ如ク領土ノ一部ヲ切離シテ論スルハ不當ナルノミナラス右論法ハ六割ヲ可トシ七割ヲ否トスル理由トハナラス加フルニ均勢ヲ有スル米國ハ脅威トナラス七割ヲ有スル日本ハ脅威ナリト云フハ了解スル能ハサル所ナリト答ヘタリ

米國大型
起工延期
案

尙右會談中「クレイギー」ハ大型ニ付起工延期案ハ條文ノ書方ニテハ如何様ニモ日本側ノ立場ヲ擁護シ得ヘキニ付是非トモ之ヲ認メンコトヲ切望ス加フルニ右案成立スルトキハ自然米國側ヲシテ十七隻目以後ノ起工ヲ思ヒ止ラシムル誘因トモナルノ利益アリト說ケルカ齋藤部長ハ不確定ノ立場ニ承服スルノ困難ナルコトヲ繰返シタリ

(三) 松平「マクドナルド」會議

大型巡洋艦問題（我試案）
妥當性説明（ス）

小型巡洋艦問題

驅逐艦間
題へ我建
造量ノ過
少ヲ説明
ス

潛水艇

七割比率
問題（革
國側我
求テ承
セス）

大型巡洋艦問題

三月十三日會談

二六七

八吋砲艦
問題

及若槻「スティムソン」間ニ行ハレタル會談ノ大體ヲ内報シ、次テ「マクドナルド」トノ間ニ八吋砲艦問題ニ關スル我主張ニ付問答ヲナシタルカ結局「マクドナルド」ハ英國側トシテハ日本カ八吋砲艦一隻ヲ建造スルコトモ十二萬噸代換ノ權利ヲ有スルコトニモ同意スルコトヲ得ス同問題ニ付テハ次回會議ニ對スル留保ノ形式ニテ満足セシコトヲ望ム旨ヲ繰返シ述ヘ當座ノ思付トシテ左記ノ趣旨ノ留保案ヲ讀ミ聞カセタリ

記

英國側提
出日本留
保案

「次會會議迄ニ米國カ八吋砲巡洋艦ノ第十七隻目以後ヲ起工スルトキハ日本ハ比例的ニ其ノ八吋砲艦保有量ヲ増スコトヲ主張シ得ヘシ但シ他ノ締約國カ之ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ妨クルモノニ非ス」

(本案ハ「リード」ノ留保案ト同様(第八節(二)參照)即座ノ思付トシテ起案セラレタルモノナリ)

若槻全權ハ留保案ニ付テハ米國側ヨリモ話アリ我全權部ニ於テ一應考究シ見タルモ我方ニ満足ヲ與フル文案ヲ見出シ得サルコト及「マクドナルド」ニ於テモ此上考究セラレタキコトヲ答ヘタリ

註、三月二十一日幣原大臣ハ在本邦英國大使ト會談ノ際右留保案末段英米側ヨリ異議ヲ申出テ得トノ趣旨ノ但書ハ不必要ナルノミナラス不快ノ印象ヲ與フルモノナル旨ヲ述ヘタリ(本章第十一節(三)參照)

經巡保有
量問題

右ニテ首相用務ノ爲メ中座スルコトトナリタルヲ以テ首相ノ依頼ニ依リ「クレイギー」ト會談ヲ續ク

「クレイギー」ハ十二日米會談ニ於ケル日本ノ六吋砲艦保有量ハ如何ニモ高キニ過キ英國側トシテハ海軍部ヲ説得スルコト困難ナリト述ヘタルヲ以テ若槻全權ハ日本側トシテハ其ノ保有量中ニ艦齡超過艦ヲ加算スルカ如キハ議會國民ニ對シ説明ノ餘地ナク到底承服シ得サル旨ヲ繰返シ述ヘタル處「クレイギー」ハ若槻全權ニ於テ他ノ問題ニ付日本側ノ同意取付ケ方ヲ引受クヘシトノ首席全權トシテノ言質ヲ與フルニ於テハ首相ニ説明ノ上英海軍側ノ説得ヲ試ムヘキモ右ノ保障ナクシテハ却テ有害ナル結果ヲ齎ラスヘシト答ヘ結局本問題ハ此儘ト爲シ置クコトトセリ

潜水艦問
題

次ニ潜水艦ニ付「クレイギー」ハ日英米三國ノ間ニ於テハ五萬二千噸ニテ英國側トシテモ差支ナキモ佛國ノ潜水艦保有量

多キ時ハ更ニ再考ノ必要アルヘク要ハ佛國ノ態度ニヨリ最終的ニ決定セラルヘキモノナリト述ヘタリ

第十節 對英米交涉ニ關スル請訓及若槻全權ノ稟申

若槻全權ハ前記ノ如ク米國最後讓歩案ニ對シテハ之ヲ政府ニ請訓スヘキコトヲ明示セス尙餘地ヲ存シ置キタルモ實際ニ於テ英米ヲシテ之レ以上讓歩セシムルコト不可能ナルヲ觀、全權會議ヲ開キ慎重熟議ヲ重ネタル結果三月十四日之ヲ政府ニ報告シ之ニ關スル外務大臣ノ訓令ヲ求メタルカ若槻全權ハ更ニ三月二十五日外務大臣ノ參考ノ爲詳細ノ事情ヲ具シ其ノ所見ヲ電報セリ

(一) 全權委員請訓

三月十四
日請訓

三月十四日全權委員請訓ノ電文左ノ如シ

「過去二ヶ月餘ニ互リ終始一貫我主張ヲ固持シ遂ニ英米側ヲシテ我方ノ態度ヲ以テ餘リニ融通性ヲ缺キ自國ノ立場ニ膠着シテ國際協調ノ精神ヲ發揮セサルモノナリトノ不滿ヲ漏ラサシムルニ至リタルニ拘ハラス毫モ主張ヲ緩ムルコト無ク英米側カ強テ不合理ナル低率ヲ我ニ押シ付ケントスルニ於テハ敢テ決裂ヲ辭セサルノ決意ヲサヘ仄カシテ隱忍先方ヲシテ我主張ニ接近セシメンコトニ努力シタリ

然ルニ最近松平「リード」會談ニ次キ十二日若槻「スティムソン」會談ニ於テ觀取セララルル通リ米國側ハ事實上既ニ總括的七割ノ原則ヲ認メタルモノニシテ二厘餘ノ開キアルコトハ事實ナルモ之米國側カ全然日本ノ主張ニ屈服シタリトノ非難ヲ避ケ乍ラ日本ノ希望ニ副ハントスル苦心ノ存スル所ナルヘク大型巡洋艦ニ付テハ我主張ニ副ハスト雖モ事實次回會議迄ハ大體我方ハ七割以上ノ勢力ヲ保有スルモノト見ルコトヲ得ヘク潜水艦ニ付テハ我主張ニ比シ少量ナルノ遺憾アルモ先方カ其ノ保有量ヲ低下シテ我ト均勢ヲ申出タルハ一ノ讓歩ナリト認ムルヲ得ヘシ

本委員等ノ見ル所ニヨレハ新タナル事態ノ發生セサル限り彼ヲシテ之以上ノ讓歩ヲナサシムルコトハ六ヶ敷モノト認ム

然ルニ佛國問題カ中心トナリテ五國協定不成立ニ終ル場合ハ兎モ角日本ノ態度ニヨリテ今回會議ノ破綻ヲ見ルカ如キ場合ニ立至ラハ諸般ノ關係上我方ニ重大ナル影響ヲ及ホスコトナルヘキニ付深キ考察ヲナササルヘカラス今後佛伊ノ態度其他事態ノ推移ニ鑑ミ此上トモ我方主張ノ貫徹ニ最善ノ努力ヲ試ムヘキハ勿論ノ義ナルモ此際政府ニ於テ前述交渉ノ成行ニ對シ御考察ヲ加ヘラレ何分ノ御回訓アラムコトヲ希望ス」

(二) 若槻全權稟申

三月二十五日若槻全權稟申ノ電文左ノ如シ

三月二十
五日若槻
全權稟申

「此電報ハ若槻全權委員ヨリ外務大臣閣下ニ呈スルモノナリ

全權委員ヨリ政府ノ訓令ヲ仰キタル第 號電報ハ事情ヲ悉ササルノ憾アルヲ以テ茲ニ聊カ本委員ノ所見ヲ述ヘ御參考ニ供セムトス今回ノ會議ニ於ケル我重要ナル主張ハ小出シニ之ヲ提議セス當初ヨリ總テ之ヲ公言シ以テ正々堂々ト世界ノ輿論ニ訴フルコト一般ノ諒解ヲ得ルニ付適當ノ途ナリト考ヘ會議開始前米國ニ於テ又英國ニ於テ委曲當局ニ交渉シタルノミナラス其大要ハ之ヲ世間ニ公表シタリ故ニ會議開會ノ時ハ英米ノ全權委員ハ皆日本ノ主張ノ如何ナルモノナルヤヲ詳細シタルヲ以テ開會後我ヨリ進テ我數字ノ承認ヲ得ムコトニ焦慮スルトキハ彼等ハ我提議ニハ若干懸値アルヤノ疑ヲ起スノ虞アリト考ヘ彼等ヨリ進テ我ト協議セムトスルノ態度ニ出ツル迄ハ我ハ態ト餘リ急カサルカ如キ風ヲ示シ居タリ勿論其間日本ノ主張ヲ明カニスルヲ要スト認メタル場合ハ遠慮ナク之レカ説明ヲ爲シ時ニハ彼等ヲシテ憤怒ノ色ヲ現ハサシムル迄ニ至リタルコト屢次ノ電報ニテ御承知ノ通りナリ此ノ如クシテ開會後五六週ニ亙リ英米ノ間ヲ除クノ外孰レノ國モ數字ニ付協議ノ進ミタルモノナク輿論ハ漸ク會議ノ前途ヲ悲觀セムトスルニ至リタルヲ以テ屢々首席全權會議ヲ開キ會議ノ進捗ニ付意見ヲ交換シ終ニ英首相ヨリ日ヲ期シテ數字ニ付テノ各國ノ意見ヲ定メムコトヲ提議シ米佛之ニ贊成シ本委員亦其成否ハ豫期スルヲ得サルモ期限ヲ定メテ會議ノ進捗ヲ謀ルコトニハ同意シタリ日本ノ關スル限リ數字ニ付テハ米國ト極メテ密接ナル關係アルヲ以テ日米ノ交渉ニ最モ重キヲ置カサルヘカラス而カモ日米ノ間ニハ既ニ十分ノ

意見交換ヲ爲シ其間頗ル距離アリテ之ヲ繰返ヘシ居レハ何時迄待ツモ雙方ノ一致スル歸着點ニ到達スルコト能ハサルノ狀勢トナレリ故ニ雙方共ニ自由ニ大膽ニ意見ヲ述ヘ而カモ其意見ハ雙方共ニ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得何等拘束ヲ受ケサルコトトシ其間ニ雙方ノ同意ヲ得ヘキ一致點ヲ發見スルニ力ムルヲ可ナリト認メ本委員ト「スティムソン」トノ間ニ其申合ヲ爲シタリシカ本委員自ラ「スティムソン」ト交渉スルトキハ如何ニ拘束ヲ受ケサルノ約束アリトスルモ自然餘リ大膽ナル意見ヲ述ヘ難キ感ヲ有スヘキノミナラス動モスレハ右ナリ左ナリ斷定セサルヘカラサルコトトナリ纏マルヘキモノモ纏マラサルニ至ル虞アリト信シ松平全權ト「リード」トノ間ニ交渉ヲ爲サシムルコトトセリ兩氏間ノ交渉ハ如何ナル意見ヲ述フルモ其人ノ提議ト稱セス兩氏間ニ生シタル試案ト稱スルコトトシ二週間以上ニ亙リ互ニ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ爲シタルモ頗ル距離アリテ一致點ヲ發見スルニ至ラス其間本委員ハ「スティムソン」ニ面會シ本委員ハ倫敦會議ハ是非成功セシメタキ切ナル希望ヲ有シ終始一貫之レカ目的達成ニ努力シツツアリ又今後モ之レカ爲メニ努力セムト欲スルモノナルモ「リード」氏ヲ通シテ示サルルカ如キ米國ノ態度ニテハ遺憾ナカラ日本ハ協定ニ參加スル能ハス余ノ誠意ヲ諒トセラルルナラハ貴下モ亦其誠意ヲ示サレサルヘカラス「リード」氏ニ對シテ然ルヘク指揮セラレタシト申入レ「スティムソン」大ニ感動ノ色ヲ現ハシ其後「リード」ハ幾分我主張ヲ斟酌スルノ態度ニ出テタルモ尙日本ノ三大主張ノ孰レニ付テモ同意セス會議ハ停頓シ互ニ同一ノ意見ヲ繰返ヘスニ過キサルニ至レリ松平「リード」交渉ノ間ニハ松平全權ハ總括的七割ノコト此際一萬噸大巡一隻建造ノコト古鷹級四隻ヲ一萬噸ニ改造スルコト潛水艦六萬噸「バリチー」ノコト等繰返ヘシ繰返ヘシ少シニテモ我條件ヲ有利ニスルコトニ關シテ米國ノ同意ヲ求メタルモ「リード」ハ固ク執テ之ヲ聽カス依テ本委員ハ「スティムソン」ヲ訪問シ過日余ハ誠意ヲ披瀝シテ日米ノ間ニ協定ヲ得ンコトヲ切望シ貴下モ之ニ共鳴セラレタルニ拘ラス「リード」氏ノ主張セラルルル如キコトニテハ日本ハ斷シテ之ニ同意スルコト能ハス第一艦齡超過艦ヲ加ヘテ總括的七割ヲ認ムヘシト言フカ如キハ如何ニモ人ヲ馬鹿ニシタルモノナリ此點ハ絕對ニ矯正セラレ

サルヘカラス米國ニ於テ是非艦齡内ノ艦艇ノミヲ以テ總括的七割ヲ認ムルコトセラレタシト論シ總括的七割丈ケハ大體其同意ヲ得タリ潛水艦ニ付テハ七萬八千噸ノ必要ナルコトハ繰返ヘシテ述ヘタル所ナルモ總括的七割ヲ得ルカ爲メニハ已ムヲ得ス日本モ英米同様六萬噸トスヘシトテ六萬噸「バリチー」ヲ極論シタルモ「スティムソン」及「リード」ハ頑トシテ聽カス終ニ彼ヨリ五萬二千七百噸「バリチー」ヲ提議シ本委員ニ是非之ニ同意スルコトヲ求メ本委員ハ之ニ對シ難色ヲ示シタルモ其儘ニテ大巡問題ニ移リ總括的七割ノ爲メ此際一萬噸大巡一隻建造ノコト六ヶ數モノトモハ古鷹級ヲ一萬噸ニ代換スルコト丈ケハ此際是非決定シ置カサルヘカラストテ數回ニ涉リテ論議シタリシカ米國側ハ大巡ニ付米國カ一萬噸三隻ノ建造ヲ千九百三十三年ヨリ三年間ニ一隻ツツ起工スルコトトシ次ノ會議迄ニハ之ヲ竣工セシメサルコトトシタルハ米國ノ最後ノ讓歩ニシテ此以上ノ讓歩ハ上院ノ承認ヲ得ルコト絕對ニ望ナキカ故ニ我主張ニハ應スル能ハストテ固ク執テ動カス依テ本委員ハ此ノ如キコトニテハ此以上話ヲ進ムル能ハス本日ハ此程度ニ止メ置キタシト兩人カ頗ル不機嫌ノ顔付ヲ爲シ居ル間ニ引上ケタリ今日假妥協案ト稱セラルルモノハ以上ノ經過ニ依テ成レルモノニシテ勿論本委員ハ之ニ同意ヲ與ヘタルモノニアラサルモ此處ニ至ルマテノコトヲ詳悉スル本委員トシテハ此以上讓歩セシムルコトハ全然見込立タサルナリ日米ノ交渉狀態ハ之ヲ英國ニモ知ラシムルコト是迄ノ例ナルヲ以テ本委員ハ右ノ經過ヲ英首相ニ話シタル後「クレイギー」トモ話ヲ續ケタルニ同人ハ日本カ右ノ條件ニ同意セラルルナラハ英國ニテモ海軍當局ニ相談スヘシト述ヘタルニ對シ本委員ハ日本ハ全部ニハ同意シ居ラスト答ヘ「クレイギー」ハ然ラハ英國ニモ海軍側ニハ相談セスト言放テ相別レタリ然ルニ拘ラス翌日米國側ノ勸誘ニ依リ英國海軍側ノ同意ヲ得今日ニテハ所謂妥協案ナルモノカ英米ノ主張トナレルコト御熟知ノ通ナリ以上ノ次第ナルニ依リ所謂妥協案ハ日本當初ノ主張ニ比シ異ル所アルモ條約ノ有效期間ヲ五年トシ次回會議ニ於テハ從來ノ主張ヲ自由ニ爲シ得ルコトヲ考量スルトキハ其間ハ大巡ニ在リテモ大體米國トノ間ニ七割ノ比率ヲ保持スル居リ總括的ニハ勿論七割ノ勢力ヲ有シ唯潛水艦ノ保有量ハ少キモ英米亦共ニ其保

有量ヲ日本ト同シクシ居ル次第ニシテ右狀態ニテ日本カ不同意ヲ唱ヘ會議ヲ決裂セシムルトキハ輿論ハ決シテ日本ニ同情スルモノニアラス會議ヲ決裂セシメタル場合ニ日本ノ蒙ルヘキ不利不幸ハ實ニ言フニ忍ヒサルモノアリト信スルモ此點ハ閣下ノ最モ能ク承知セラルル所ニシテ本委員ノ陳述ヲ要セス目下佛伊ノ態度ニテ倫敦會議ハ當初期待ノ如ク五國協定ヲ得ルコト困難ナリト認メラレ結局三國協定トナルニアラスヤト察セララル此ノ如キ狀態ナルヲ以テ英米兩國當局カ頗ル困惑シツツアルナルヘシト想像シ此際日本ヨリ我條件ヲ有利ニスヘキコトヲ交渉スレハ其目的ヲ達スルコトナキニアラストノ觀察アルカ如キモ英米ノ間ニハ夙ニ共鳴スル所アリ所謂妥協案ヲ固持スル深キ決心ヲ爲シ居ルモノト認メララルヲ以テ本委員ハ右ノ觀察ヲ是認スル能ハス殊ニ英米兩國ニ於テハ場合ニ依リ二國間ノ協定ヲ辭セサル決意ヲ仄メカシタル事曩キニ電報シタル通りナルヲ以テ本委員ハ一層前述ノ感想ヲ深クスルモノナリ從テ日本カ其條件ヲ有利ニスル提議ヲ爲サムトスルニ於テハ彼等カ聽カサルトキハ斷然會議ヨリ脫退スルノ決心ヲ有セサルヘカラス若シ此決心ナクシテ交渉シ彼等カ應諾セサル場合ニ於テ結局妥協案ニ屈服スル如キコトアリトセハ帝國ノ威信ハ全然失墜スヘシ本委員ノ最モ痛心スル所ナリ今ヤ政府ハ全權委員ヨリ請訓シタルニ對シ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレツツアル大切ナル時機ナリト存シ本委員ノ卑見ヲ御參考ニ供スルハ全ク無益ニアラサルヘシト信ス

第十一節 英佛伊ノ交渉

(一) 佛國政變前ノ情勢

英佛伊間ニ於ケル會議開會前ノ豫備交渉ハ何等涉々シキ進展ヲ示サザリキ

開會後ニ於ケル英佛間ノ會談ハ當初制限方式問題ニ關スルモノナルコト一月二十八日午後ノ英佛會談ニ關スル「コンミニク」ニモ明示セラレ又一月二十九日英佛間ノ右交渉ヲ若槻全權ニ通報（米伊ニモ同様通報セリ）ノ際「マクドナルド」

佛伊ノ間ニ於テハ伊國カ佛國トノ均勢ノ問題ト絡シテ阿弗利加北岸ニ關スル兩國間ノ諸懸案ヲ解決セントノ意向ヲ有シ
月未頃迄ニ「ブリアン」ト「グランデー」トノ間ニ開談ノ筈ナリシ趣ナルモ（「マシグリ」ノ談）何等ノ進展ヲ示ササリ

斯ノ如クシテ推移シツアル間ニ二月六日夜突如米國試案ノ發表ニ際會セリ「タルデュー」ハ右發表直後「マクドナルド」ヲ訪問シ萬一英米二國間ニテ協定ヲ遂ケ佛國ヲ既定事實ノ前ニ置カントスルカ如キ實情ナルニ於テハ佛國側トシテハ即刻倫敦ヲ引揚クヘシト申入レ其ノ強硬ナル態度ヲ示シタルカ八日英國ノ聲明發表ニ次テ十三日其ノ態度ヲ聲明セリ（第四節參照）右聲明ハ一九三六年末ニ於ケル佛國海軍勢力ヲ七十二萬四千四百七十九噸ト計上シ且各國ノ絶對の所要ヲ相對の所要ニ變更セシムル相互安全保障ニ對シ好意の考慮ヲ加フル旨ヲ述ヘタルモノナルカ世論ハ一般ニ其ノ噸數ノ尨大ナルニ驚ケリ

十三日帝國聲明書手交ノ爲メ往訪セル永井全權ニ對シ「マシグリ」ハ右佛國聲明書ノ内容ハ當時「タルデュー」ヨリ「マクドナルド」ニ申入レ居ル所ヲ記載セルモノナル旨語レルニ付（「タイムズ」ハ十一日午後「タルデュー」及「ブリアン」ト「マクドナルド」トノ會見行ハレ佛國全權ハ七十二萬四千噸ヲ一九三六年迄ニ建造センコトヲ希望セル旨ヲ報シタリ）英佛間ノ內協議モ多少進捗シツツアリタルモノト觀察セララル處二月十七日「タルデュー」內閣ハ下院ニ於テ財政問題ニ付キ小數ノ差ヲ以テ敗レ內閣倒壞シ佛國全權歸國セルニ依リ一頓挫ヲ來セリ

右政變ニ處セシカ爲メ在倫敦各國全權ハ十九日打合ノ結果二月二十六日迄會議ヲ休會スルコト並專門委員會ハ其審議ヲ續行スヘキコトヲ決定シタルカ（專門委員會ニハ佛國專門委員出席セリ）伊國全權部ハ同日夕聲明書ヲ發シ（第四節參照）伊國從來ノ主張タル徹底的軍縮及歐洲大陸ニ於ケル最強海軍國トノ均勢ヲ主張セリ

(二) 二月二十六日首席全權會議

首席全權會議ハ佛國新全權ノ着英ヲ俟テ二月二十七日開催ノ豫定ナリシ處同國新内閣亦瓦解セルヲ以テ二十六日午後四國
首席全權及在英佛國大使下院首相室ニ會合新事態ニ處スヘキ今後ノ議事手續ニ付協議セリ其ノ經過左ノ如シ

「マクドナルド」ハ會議促進ノ必要ヲ力説シ成ルヘク今後三週間位ノ内ニ何等カノ協定ニ達シ度ク之カ爲メ先ツ「ユーロ・ピアン、グループ」(英佛伊)及ヒ「ハイ、シリーズ、グループ」(英米日)ノ各部ニ於テ内交渉ヲ遂ケ其上ニテ双方ノ結果ヲ一括シ五國ノ協定ニ達スルノ順序ヲ可トスヘシ「ハイ、シリーズ、グループ」内ニ於テハ相互ノ立場最早充分明瞭トナリタル事ナレハ *Close talks* ニテ事ニ當リ各方面ヨリ何程ノ讓歩ヲ爲シ得ルヤヲ審議シ成ルヘク次週中頃迄ニ假協定ニ達スル目算ヲ以テ協議ヲ進メタシト述ヘタルニ對シ「ステイムソン」ハ異議ナク若槻全權ハ我方トシテハ固ヨリ協定ニ達スル爲メ全力ヲ注ク可キモ早急ニ纏リ得ルヤ否ヤハ實際協議ノ上ナラテハ見据ヲ付ケ難カルヘシ但シ期日ヲ切リテ協議ノ促進ヲ圖ラントスル事ハ別ニ異議ナシト述ヘ「マクドナルド」提案ノ趣旨ニテ議事促進ヲ試ムル事トセリ

次ニ「ユーローピアン、グループ」ニ關シ「マクドナルド」ハ佛國ノ政情ヲ考慮スルノ要アルハ勿論ナルモ近々佛國全權モ來會スヘク（「フルーリオ」ハ次週月、火曜頃ナルヘシト云ヘリ）英國ハ何時ニテモ意見交換ノ用意アルモノニシテ此「グループ」内ノ協議ニ付テモ同シタ期日ヲ限リテハ如何ト提議シタルカ「グランディー」ハ伊國ハ何時ニテモ議事促進ノ用意アルモ本件話合ノ直接關係國タル佛國ノ全權來着ヲ待チタル上事ヲ定ムルノ外ナカルヘシト述ヘ結局實際上可能ナル範圍内ニ於テ非公式交渉ヲ繼續促進スル事トセリ

右決定ニ關シ若槻全權ハ「ユーローピアン、グループ」ト「バイ、シリーズ、グループ」トヲ區別シ内交渉ヲ遂ケ差支ナシト
「マクドナルド」ノ發意ノ裏面ニハ「バイ、シリーズ、グループ」ノ協定成リタル時ハ場合ニ依リ「ユーローピアン、グループ」ノ協定成立ノ如何ニ拘ラス直チニ日英米三國ノ軍縮協定ヲ作ル事ヲ得ヘシトノ底意アルニ非スヤ又會議ノ席上「マクドナルド」ト「スティムソン」トノ話振ノ模様ヲ見ルニ英米ノ間ニハ既ニ相當相談ヲ付ケ居ルモノノ如ク共同ニテ我方ノ讓

總會開催
方協議

歩ヲ求メ來ル虞アリトノ印象ヲ得タリ
同會議ノ席上「マクドナルド」ハ先週中新聞ニ現レタル惡印象ヲ一掃スル爲次週中總會ヲ開催シ度種々議題ヲ考慮セルモ
制限外艦船等ノ問題ハ餘リニ小ナルヘク又潜水艦問題ハ尙早ニテ結局名案ナキ處何等思付ナキヤヲ諮リタルモ各全權何レ
モ成案ナク其ノ儘トナレルカ右會議ノ後會議ハ最初ノ豫定通其ノ議事ヲ繼續スヘキ旨ノ「コンミニケ」發表セラレタル
事ハ會議失敗說ヲ抑制スルニ相當ノ效果アリタリ

(三) 佛國政變後「ブリアン」ノ交渉

「タルデュ
」内閣
成立
五月七日
首府全權
會議

佛國ノ政變ハ「ショータン」内閣不信任ノ後ヲ受ケテ「タルデュ」再ヒ組閣シ三月五日三一六票對二六〇票ノ多數ヲ以テ
信任ヲ獲得シ政局安定セルヲ以テ外相「ブリアン」海相「デュメニール」其ノ他ノ全權六日夕倫敦ニ來着セリ
翌七日午前十時半首府全權會議開催セラレ（佛國側ハ「タルデュ」未着ノ爲「ブリアン」、米國側ハ「スティムソン」ノ外
「ギブソン」出席）專門事項ノ審議ヲナシタルカ席上「マクドナルド」ハ各國間内協議促進ノ要ヲ力説シ英佛ノ會談ハ九日
午前英米佛會談ハ十日午前之ヲ行フコトニ話合成立セリ

一、三月九日及十日英米佛會談

三月九日
英佛會談
三月十日
英米佛會
談

九日ノ英佛會談（新聞ハ米國側モ參加セル旨及八日ニモ三國ノ談合アリタル旨ヲ報ス）ニ於テハ安全保障條約ニ關スル談
合行ハレ佛國ハ五國相互援助條約其ノ不可能ナル場合ニハ「ロカール」條約ニ則レル地中海協定ヲ要求シタル趣傳ヘラレ
タルカ「タイムス」及「デーリー」テレグラフ「十日朝」英米佛會合（首府全權其ノ他出席）ニ於テモ同問題ノ討議行ハレ
タルモノノ如ク同日ノ「コンミニケ」ハ威種ノ專門の問題ヲ精査スルノ要アルコト判明シタルニ付英佛海相ニ依頼スルニ
兩國專門委員及米國ノ傍聴者ト共ニ該問題ヲ直チニ考慮シ成ルヘク速ニ報告センコトヲ以テシタリ該調査ヲ引續キ行ハシ
メンカ爲メ日伊全權ノ承諾ヲ得テ同日午後ノ首府全權會議ハ之ヲ十一日迄延期セル旨ヲ發表セルカ右ハ安全保障ニ關スル
政治的談合涉々シカラサルニ鑑ミ一時之ヲ正式會合ニテ討議スルコトヲ打切り右委員等ヲシテ佛國覺書中ノ數字ヲ基礎ト

三月十一
日佛伊會
談
同首府全
權會議

シテ考究ヲ加ヘシメ此ノ方面ヨリ何等カ局面打開ノ端緒ヲ得ヘキヤヲ檢セントシタルモノナリトノ觀察行ハレタリ
佛伊ノ關係ニ付テハ十一日「ブリアン」ト「グランデー」トノ會談行ハレタルモ何等満足ナル結果ヲ齎ラサリシ模様ナ
リシカ同日午後ノ首府全權會議ニ於テ「マクドナルド」ヨリ各國内協議促進ノ要ヲ述ヘ進捗ノ現狀ヲ質問セルニ對シ「グ
ランデー」ハ各國ノ書出スヘキ總噸數又ハ各艦種噸數ノ定義未定ナルニ付第一委員會ヲシテ之ヲ研究セシムルコト先決問
題ナリト主張セルニ對シ「スティムソン」ハ右ハ華府條約第三條ニ依リ明ナリト述ヘ「マクドナルド」ハ此點何等疑義ナキ
ニ付伊國側ヨリ速ニ所要量ヲ書出サレンコトヲ希望スト云ヘル處「グランデー」ハ伊國ハ既ニ屢々聲明セル通歐洲最大海
軍國トノ均勢ヲ要求スルモノニシテ佛國カ七二四、四七九噸ヲ要求スル限リ伊國モ之ヲ要求セサルヲ得スト述ヘタリ「ブ
リアン」ハ之ニ對シ伊國ハ佛國ヲ目標トシテ其均勢ヲ求ムルコト佛國ノ光榮トスル所ナルモ右ハ地中海問題ニシテ他ノ地
中海海軍國ヲモ加ヘテ論議スヘク本會議ノ如キ世界の會議ニハ不適當ナリト論駁セリ

二、三月十二日英米佛會談

協定協定
（太平洋
）四國協
定ノ如キ
不參加
三月十二
日英米佛
會合

專門事項精査ノ委員任命ノ結果所謂政治的談合ハ私的會合ノ形ニ於テ行ハレ「協議協定」ト地中海協定トノ間ニ何等カノ
中間案ヲ發見セントセルモノノ如クナリシカ十一日「スティムソン」ハ大統領ヨリノ訓令ニ基キ安全保障條約カ假令協議協
定の性質ノモノタルモ米國ハ之ニ參加シ得ストノ趣旨ヲ佛國側ニ通告シタリ

十二日午後三時行ハレタル英米佛首府全權及全權部員ノ會合ハ（午前ニモ三國會合行ハレタルモノノ如シ）米國全權及專
門家ノ助力ヲ得テ英佛海軍大臣及專門委員ノ間二十日以來交換セラレタル討議ヲ續行シタリトノ公表ヲナシタルカ諸新聞
ハ英米カ共ニ政治的協定參加不可能ノ意思ヲ明ニセルニ對シ「ブリアン」ハ此ノ種ノ保障ナクシテハ佛國ハ其ノ所要噸數ヲ
低下スルコト能ハストノ主張ヲ繰返シタル趣並同日夕佛國新聞記者ヲ引見セル際「ブリアン」ハ倫敦引揚ノ意嚮ヲ洩シタ
ル趣ヲ報シ「タイムス」ハ（十三日）社説ニ於テ會議カスル難關ニ立到レルハ政治的問題ニ關スル準備ノ不充分即佛國ノ
安全保障要求ト英米ノ超然主義トヲ調和スルニ充分ノ注意ヲ加ヘナリシカ爲メナリト論スルニ至レリ斯クテ會議ノ失敗說

會議ノ前
途ニ關ス
ル新聞報

盛ニ流布セララルヤ、英米佛伊全權間ニ私的會談行ハレ何等カ右情勢ノ緩和方ヲ議シタル模様ナリシカ十三日夕刻「ブリアン」カ倫敦引揚ノ報ヲ否定シ會議ハ何等カノ成果ヲ齎ラスヘク此ノ見解ヲ抱ク限リ倫敦ニ止ルヘキ旨ヲ語レルコト及英國官邊ニ於テ右會談ノ結果良好ナル旨發表セルコトハ會議決裂ノ悲觀說ヲ抑制スルニ效果アリタルモ難關ハ依然トシテ存續シ局面ハ停頓ノ貌ニ在リト觀測セラレタリ

三月十三日
佛國側
聲明

(尙佛國側ヨリ安全保障問題ニ關シ何等カノ聲明アルヘシトノ說行ハレタルカ十三日夜發表ノ同全權部聲明書ハ二月十三日佛國側發表ノ數字ノ不正確ナルコトヲ批議セル新聞論評ニ對シ其ノ正當ナル理由ヲ説明セルモノニ過キサリキ)

(四) 「タルデュー」「マクドナルド」會談

三月十六日
「タルデュー」
會談

三月十五日來英セル「タルデュー」ハ翌十六日「マクドナルド」ヲ其別墅「チエカーズ」ニ訪問セリ右會談ニハ兩國全權部員モ加ハリ午前及午後二回ニ互リ前後四時間ヲ費シタルモノニシテ會議ノ前途ヲ決スルニ最重要ナル關係アリト見做サレタルモノナルカ會談ノ「コンミニケ」ニ單ニ the two Delegations examined the general situation, with particular reference to the present stage of discussions on questions of special concern to both sides; they considered fully the means best adapted to ensure the success of the negotiations. ト記スルニ止マリ其ノ内容ニ言及セサルモ「タイムズ」ニ依レハ右ハ政治條項ニハ觸レス數字ヲ討議シタルモノノ如シ果シテ然ラハ佛國側ノ主張(及英國側ノ態度)ハ十五日新任摺換ノ爲我方ヲ來訪セル佛海相ノ左記内話ト大同小異ト認ムルヲ得ヘシ

三月十五日
佛海相
ノ内話

(イ) 地中海協定ニ付英米側ノ同意取付方不可能ナルコト殆ント明トナレルニ付客月公表セル佛國所要噸數ヲ低下スルコト困難ナリ (ロ) 八吋砲巡洋艦ニ關シテハ伊國ノ六隻ニ對シ一九三六年末ニ於テ十二隻ヲ要スル旨ヲ述ヘタルカ英海相ニ於テ難色アリタリ (ハ) 潛水艦ハ佛國國防ノ一大要素ニシテ且根據地ノ尠少殖民地ノ廣大ナルニモ鑑ミ所要噸數十萬噸トシ其ノ内三隻ハ大型ノモノト致シ度シト述ヘタルニ對シ英海相ハ全クノ思付トシテ六萬六千噸ヲ提示シタルカ同意困難ナリト答ヘタリ (ニ) 佛領「アフリカ」ト本國トノ交通線保護ハ佛國ノ最重要視スル所ニシテ伊太利ノ如キ海外領域ヲ有

セス單ニ地中海ノミヲ考慮セハ足ルモノトノ均勢ハ同意困難トスル所ナリ尤モ佛國所要噸數ト雖モ不動ノモノニ非サルヲ以テ要ハ伊國側カ現ニ提示ヲ追ラレツツアル同國所要噸數如何ニ依リテ定マルモノト云フヘク此點ヨリ見タル伊國ノ本會議ニ對スル責任ハ大ナリ云々

佛首相外
相繼國

交渉停頓

會議ハ前
途ニ關ス
ル新聞報

總會議催
方協議催

「チエカーズ」會談ノ結果ニ付「タルデュー」ハ倫敦歸着後聲明書ヲ發シ吾人ハ急クコトヲ要セス成功ヲ必要トス余ハ實質的且満足ナル結果ニ達スヘキヲ確信スト述ヘタルモ右會談ハ何等ノ進展ヲ示シタル形跡ナク其ノ後モ英佛伊ノ會談續行サレタルカ十七日「タルデュー」ノ歸佛ト二十日「ブリアン」ノ歸佛トハ會議ノ前途ニ暗影ヲ投シタリ、二十一日若槻全權ト會談ノ際「マクドナルド」ハ英佛伊ノ關係ハ全ク停頓ノ狀態ニ在リ佛國側ニ對シ日本側ニ對スルト同様理論ヲ難レテ數字ニ就キ考究ヲ加ヘンコトヲ提議セルニ或程度迄話進ム毎ニ佛國ハ凡テハ伊國ノ態度如何ニ懸ルモノナルコトヲ留保シ因惑ノ至リニ不堪又伊國側ニ對シ全ク佛國トノ關係ヲ離レ所要ノ總噸數ヲ提示センコトヲ切望シタルニ「格蘭デュー」ハ溢々三十五萬噸ナル數字ヲ舉ケタルカ之ニ對シ佛國側ハ少クトモ右數字ヨリ二十五萬噸ノ優勢ヲ維持セサルヲ得スト主張シ今日迄全ク進展ヲ見サル實情ナリト述ヘタルカ翌二十二日ノ諸新聞ハ佛伊問題ノ妥決殆ント不可能ナリトノ觀測ヲ掲クルト共ニ會議ノ前途ニ對シ種々ノ臆說ヲ掲ケタリ

二十四日「マクドナルド」「格蘭デュー」會談ニ於テ「格蘭デュー」カ會議ヲ六ヶ月間休會シ佛伊ハ右六ヶ月間ニ於テ難關解決ノ爲メ商議ヲ繼續スヘク右期間「マクドナルド」ハ會議々長タル職ヲ保チ佛伊間ノ商議ニツキ斡旋スルコトヲ主眼トスル一提案ヲナシタリト云フカ如キ其ノ一例ナリ

茲ニ於テ三月二十五日開催ノ首席全權(佛ハ「デュメニール」及「フルーリオ」出席)會議ニ於テ「マクドナルド」ハ各國新聞記者ノ必スシモ會議ニ友好的ナラサルヲ遺憾トシ右ニ拘ラス五國條約ヲ成立セシメントスル決意ヲ捨テタルコトナシト述ヘ(右ハ彼上伊國提議ノ記事ヲ否定セントスル趣旨ト認メラレタリ尙會議進行ノ現狀トシテ「マクドナルド」ハ英佛間ニハ數字ヲ考究シツツアリ佛伊ノ間ニハ難關解決セスト述ヘタリ)總會ヲ開クノ必要ヲ説キ次週中ニハ是非共開催シ

度々議題トシテハ本會議カ軍備縮減ノ實際的方法ヲ發見セントシテ努力シツアル點ヲ高唱シテハ如何ト提言シ(右ハ佛國側ノ態度ニ對スル當付ケトモ感セラレタリ)二十七日首席全權會議ノ席上ニ於テハ「グランデー」ニ對シ五國協定成立ノ爲メ此上トモ援助セラレタシト述ヘテ婉曲ニ讓歩ヲ求メ「ブリアン」ニ對シテハ英佛ノ關係ハ困難ナルモ事ノ進ミツツアルハ喜フ所ナリト言ヒ更ニ總會開催ノ件ニ言及シ四月四日開催ノコトナレリ

(五) 「ブリアン」「マクドナルド」會談

二十六日ニ到リ諸新聞ハ一齊ニ米國ハ會議救済ノ爲メ「協議協定」ヲ締結ヲ再考シツツアル旨ヲ報シタルカ米國全權部ハ左記要領ノ聲明ヲナシタリ(二十五日夜聲明二十六日新聞掲載)

「米國ハ他國ニ對シ軍事的援助ヲ約シタリト誤解セラルル危險アルカ如キ協議協定其ノ他如何ナル條約ニモ參加スルノ意ナシ而シテ此ノ危險ハ佛國カ海軍縮少ノ條件トシテ軍事上ノ相互保障ヲ要求スル現在ノ狀態ニ伏在シ居ルモノナリ但シ若シ此ノ安全保障ノ要求ニシテ何等カ他ノ方法ヲ以テ満足セラルルニ於テハ協議協定ヲ誤解スルノ危險除去セラルルモノト言フヘク問題ハ全然別個ノ見地ヨリ考究セラルヘシ斯ル場合ニハ米國全權ハ欣ンテ問題ヲ考慮スヘシ」

右米國側ノ聲明ハ佛國ノ安全保障要求ニシテ英國トノ間ニ圓滿解決セラレタル上ニハ「協議協定」ヲ考慮スルコト差支ナシト云フニ在リシモノノ如シ而シテ英佛間ノ交渉ハ二十六日「ブリアン」ノ來倫ニ依リテ可能トナリタリ右交渉ニ關シ「マシグリ」ハ(三十一日)佐藤公使ニ對シ先週「ブリアン」歸英以來保障協定問題ニ關シ英佛間ニ話合行ハレ自分ト英國側法律專門家等トノ間ニ英佛雙方ノ受諾シ得ヘキ「フォーミュラ」作成ヲ試ムルコトナリ最初佛國側ヨリ聯盟規約第十一條ヲ基礎トシテ話ヲ進メ度旨提議セルモ其ノ後英國側ヨリ第十六條ノ解釋問題トシテ討議シ度ト申出タルヲ以テ右ニ基キ種々協議ヲ重ネタルモ妥協案ヲ發見スルニ至ラス遂ニ三十日夕英國側ノ聲明ヲ見ルニ至レル次第ニシテ佛國側トシテハ目下ノ處何ヲ中心トシテ交渉スヘキヤ見當付カサル現狀ナリ元々佛國側ハ保障問題ニ付今次會議ニ於テ關係國間ニ正式ノ條約ヲ締結スルコト困難ナルヘシト考ヘ關係國ノ宣言ノ形式ニテ満足スル意向ナリシカ英國側ノ態度右ノ如クナル以上之亦實

協定
三月二日
五國全權
聲明

英佛交涉
聯盟規約
第十六條
解釋問題

(佛伊交
涉)

會議ノ前
途ニ關ス
ル觀察

三月十五
日佛海相
ノ來訪

三月十七
日在京佛
國代理大
使ノ來訪

現願ル困難ト思ハルト述ヘタリ次テ佐藤公使ヨリ然ラハ佛國ハ條約又ハ宣言ノ何レカノ形ニテ政治的保障ヲ得ル迄ハ數字ノ問題ハ全然處理セサル意向ナリヤト問ヒタルニ對シ「マシグリ」ハ必シモ然ラス現ニ先般英佛間ニテ佛國所要量問題ヲ議シ佛ハ一定量(極メテ少量ナリシモ)ノ減少ヲ申出シタルモ英國側之ニ満足セサリ迄ニテ佛國側トシテハ政治的保障ヲ得レハ其ノ程度ニ伴ヒ更ニ所要量ヲ減少セムトスルモノナリト答ヘ、尙佛伊關係ニ付テハ兩國カ次回會議迄現有勢力ノ鈞合ヲ維持ス(雙方新ニ建造スル場合ニモ)ルノ案ニテ話ヲ進メ得ヘキカト思考スル旨語レリ

尙新聞紙ハ規約第十六條ニ付妥協案成立セスト云フハ佛國ハ同條規定ノ相互援助義務カ侵略國ノ出現ト同時ニ當然發生スルモノナリトノ解釋ヲ施サントスルニ反シ英國側ハ右義務ハ協議ノ結果初メテ生スルモノト解セントシ妥協シ得サリシモノナリト報ス

第十二節 帝國政府 回訓

1. 回訓ニ關スル佛、英、米三國ノ態度

一、佛國ノ態度

三月十五日佛國海相「デュメニール」ハ若槻、財部兩全權ヲ來訪シタルモ右ハ新任挨拶ノ爲メニシテ日佛兩國ノ關係ニ言及セルハ單ニ同全權カ會議開催以來我方ニ於テ常ニ誠意ヲ以テ同國側ニ對シツツアルヲ感謝セルニ對シ若槻全權ヨリ從來同様會議成功ノ爲メ常ニ接觸ヲ保ツハ我方ニ於テ大ニ希望スル所ナル旨ヲ答ヘタル部分ニ過キス

然ルニ三月十七日午後在本邦佛國代理大使ハ幣原外務大臣ヲ來訪シ「佛國外相ヨリ電報アリタル趣ヲ以テ英佛間内交渉ノ

佛國代理
大使ノ申
出

困難ナル實情ヲ内報シタル後私見トシテ日本ハ潛水艦保有量五萬二千噸ニ満足スルモノニアラサルヘシ然カルニ若シ日本ニシテ讓歩シテ英米ノ提案ヲ受諾スルニ至ルコトアリトセハ恐ラク經濟上ノ考慮ニ基クモノナルヘシト思考ス然カレトモ佛國ハ日本ノ東洋ニ於ケル優越セル勢力ヲ認メ之レト親交ヲ厚クセンコトヲ念トスルモノニシテ殊ニ海軍問題ニ關シ國防上ノ必要ヲ基礎トスル日本ノ主張ニ共鳴スルモノナルカ故ニ佛國ノ金融市場ハ何時ニテモ日本ノ爲メニ開放セラルヘキコトヲ信ス元來米國ハ如何ナル場合ニ於テモ英國ノ參加セサル海軍協定ヲ取結フコト能ハス而シテ英國ハ佛國ノ參加ナクシテ如何ナル海軍協定ヲモ成立セシムルコトヲ得ス蓋英米二國若クハ日英米三國間ニ協定成立スル場合ヲ假想スルニ若シ第三國カ海軍擴張ヲ行ヒ協約ニ定ムル英國ノ海軍力ニ脅威ヲ構成スルニ至ルカ如キ事態ヲ見ル場合ニハ再考スヘキ旨ノ但書ヲ必要トスヘキ處潛水艦ニ付テハ佛國ハ協定ノ成否ニ拘ラス九萬八千噸建造案ヲ遂行スヘキカ故ニ英國ニシテ五萬二千噸ノ潛水艦保有量ヲ協定ストセハ佛國ハ直チニ右勢力ヲ超過シテ脅威ヲ構成スルコトナルヘク從ツテ右但書ノ「若シ」ナル字句ハ無意義ナリト云ハサルヘカラサルヲ以テナリ此際日本カ佛國ノ爲メニ與ヘ得ル最大ノ協力ハ潛水艦ニ關シ國防上必要ナル現有勢力保持ノ主張ヲ固持シ佛國ヲ孤立ニ陷レサルニ在リ」ト述ヘタルニ付

幣原大臣
ノ應酬

幣原大臣ハ「潛水艦問題ハ他ノ補助艦全體ノ問題ト不可分ノ關係ヲ有シ補助艦問題ハ主力艦問題ト密接ナル關係ヲ有ス今同英米側ヨリ日本ニ對シ提案ヲ見ルニ至リタル迄ニハ倫敦ニ於ケル彼我全權ノ間ニ所有ル方面ヨリ論議ヲ盡シ檢討攻究ヲ重ネタルモノニシテ今日ニ於テハ之ニ承諾ヲ與フルカ然カラスンハ會議ノ決裂ヲ覺悟スルカノ外ニ途ナキ狀態ニ達シタリトノ印象ヲ有スル次第ナリ從ツテ既ニ潛水艦問題ノミヲ別ニ引キ離シテ考量スルコトヲ得ル時期ニアラスト考フ然カレトモ會議ノ決裂カ將タ英米提案ノ受諾カラ決スルハ重大問題ナルカ故ニ日本政府トシテモ亦自分トシテモ未タ何等ノ結論ニ到達スルコトヲ得ス目下海軍當局ニ於テ専門の見地ヨリ慎重ナル攻究ヲ進メ居リ其ノ結果ヲ待ツテ政府ハ最後ノ態度ヲ決定スル順序トナリ居レリ日本トシテハ佛國カ海軍協定ニ參加センコトヲ切實ニ希望スルモノニシテ英米モ亦同シク佛國ノ參加ヲ希望シ居ルモノト信ス然カレトモ佛國ノ參加ナケレハ英米間ニ協定成立スルコトヲ得ストノ說ニ對シテハ疑ナキ能

ハス英國トシテハ佛國トノ戰爭ヲ可能性アルモノトハ考ヘ居ラサルヘク然カラハ假リニ佛國カ其ノ潛水艦建造案ヲ遂行ストスルモ英國ハ之ニ順着ナク日米兩國ト協定ヲ結フ考トナルヤモ知レス日本トシテハ固ヨリ佛國トノ親善關係ニ全幅ノ信頼ヲ置クカ故ニ佛國ノ潛水艦保有量如何ニ付何等危惧ノ念ヲ抱クモノニ非スト」ト答ヘタリ

2. 米國側ノ態度

一、在本邦米國大使宛「リード」及「スティムソン」ノ電報

三月十四日在本邦米國大使「カッスル」ハ幣原大臣ヲ來訪シ「スティムソン」ヨリ十二日會談ノ内容電報ニ接セル旨ヲ告ケ右ト同時ニ別ニ「リード」ヨリノ私電ヲ内示セルカ同月二十日更ニ「スティムソン」ヨリノ電信寫ヲ手交セリ

右兩電ハ我方ニ對シ米國側提案ノ數字カ其最後案タルコトヲ強調セントスル目的ニ出テタルモノノ如ク内容左ノ如シ

(イ)「リード」私電

「佛國カ今日ノ如ク難問題ヲ提起シテ己マサルニ於テハ米國ハ英國トノ間ニ話合經リタル所ヲ兩國間ノ條約トシテ締結スルコトトスヘク此場合ニハ華府條約ニハ全ク觸レサル考ナリ此際若シ日本トノ間ニモ協定成立スルコトヲ得ハ特ニ良好ナル反響ヲ輿論ニ與フヘク若シ協定カ英米兩國間ニ限ラルコトトモナラハ日本ニ對スル關係ニ於テ洵ニ悲シムヘキ結果ヲ見ンコトヲ恐ル米國ハ輕巡洋艦、潛水艦、老齡艦、制限外艦船速力等ノ種々ノ問題ニ關シ難キヲ忍ヒテ日本ノ主張ヲ容レ來リタルモノナルカ故ニ今回「スティムソン」ヨリ日本全權ニ提案セル所ハ最早之以上讓歩スルコト不可能ナ

(ロ)「スティムソン」電報

Constant use of term 'American proposal', as it appears in all press reports from Japan, disturbs us. Of course it may well originate with papers which hope Conference will fail, such papers being aggressive in all countries, but use of phrase is causing very severe criticism of American delegation in United States. Suggestions, as you very well know, are not ours but are rather result of agreement reached after six weeks of negotiations between Japanese British and

American delegations. They go long way beyond any proposals which were ever made by British delegation or American and they represent very limit of concessions which either British or ourselves can accept. If Japan should not agree we see nothing to do except to make two-power treaty covering only auxiliary vessels with British. If on other hand, Japanese Government should agree to proposals we stand ready to conclude three-power treaty, and naturally five-power treaty if this proves possible. All hope of holiday in battleship construction depends on acceptance of agreement which has been reached by three delegations by Japanese Government. We hope that this situation is clearly understood by Japanese Government.

二、濱口總理宛「スティムソン」ノ「メッセージ」

「スティムソン」ハ今回ノ日英米交渉ハ是非共成立セシメ度キニ付濱口總理ニ於テ右ニ盡力アリタシト「メッセージ」ヲ同總理ニ傳達方「カッセル」大使ニ電訓セルカ同大使ハ日本ノ態度ニ付テハ幣原大臣ノ外交方針ニ信賴シ此ノ際右ノ如キ「メッセージ」ヲ特ニ總理ニ傳達スルコトハ米國側ニ於テ日本當局ニ不當ノ強壓ヲ加フルモノナルヤノ印象ヲ與ヘ國民ノ感情ニ好マシカラサル影響ヲ與フルノ虞アルニ付之ヲ差控ヘ度キ旨「スティムソン」ニ同電シタリ（三月二十三日同大使ノ吉田次官ニ對スル内話）右ニ對シ「スティムソン」ヨリ文句ヲ漠然且概括的トシタルモノヲ傳達方重ネテ電報シ來リタル由ニテ同大使ハ二十四日外務大臣ヲ來訪シ濱口總理ニ對スル左ノ「ブーンナル、メッセージ」ヲ讀上ケタリ

I believe this to be excellent opportunity to consolidate good relations which exist between world's three greatest naval Powers. If at this time we are able to remove any question of competitive naval building we shall be able to move forward in full harmony in peaceful development of welfare of these three great nations, and at same time to increase stability of peace throughout world.

仍テ幣原大臣ハ「マクドナルド」ノ「メッセージ」及「ティリー」大使トノ應酬ノ次第（本節（三）參照）ヲ告ケタル處「カッセル」大使ハ右ノ「メッセージ」ハ同大使自身及幣原大臣ニ於テ賛成ナルニ於テハ總理ニ傳達スヘシトノ趣旨ナルニ付傳達スルト否トハ幣原大臣ニ一任スヘシト述ヘタリ

（尙右「メッセージ」ヲ總理ニ傳達セサリシ経緯ニ付テハ後述（三）ノ三參照）

三、佛國側ノ申入ニ對スル米國側ノ態度

米國側ニ於テハ三月十五日「デュメニール」ノ來訪ヲ以テ米國提案ニ依ル潜水艦保有量ヲ認諾スルカ如キ事ナク飽迄日本ノ要求量ヲ固持センコトヲ勸説シタルモノト推測シ此點ニ關シ特ニ「カッセル」大使ニ電報スル所アリ同大使ハ我方ノ態度ニハ些少ノ疑ヲモ有セサルモ特ニ電報シ來リタル故内報スルモノナリトテ十八日午前外務次官ニ對シ「佛國ハ日本ニ會議決裂ノ責任ヲ負ハシメ自己ノ地位ヲ救ハント欲スルニ非ラサルカト「スティムソン」ハ甚タ危惧ノ念ヲ抱クモノノ如シ」ト告ケ「リード」亦同日松平全權ニ對シ其ノ憂慮シ居ルハ佛國側カ倫敦ニ於テモ亦東京ニ於テモ運動ヲ開始シ日本ヲシテ此際英米トノ協定ニ加入スルコトヲ引止メント試ミツツアルコトナリト述ヘタリ

3. 英國側ノ態度

一、在本邦英國大使宛「マクドナルド」ノ電報

三月十八日午前英國大使ハ幣原外務大臣ヲ來訪シ「マクドナルド」ヨリ左ノ趣旨ノ電報ニ接シタル旨ヲ内報セリ「日米假妥協案ニ付テハ英國政府部内ニ種々異見アリタルモ日本ヲ含ム協定ニ到達センコトヲ希望スル大局上ノ考慮ニ依リ英國側トシテモ之ニ同意スル覺悟ヲ決シタリ然カレトモ英國トシテハ右妥協案以上ニハ到底讓歩ノ餘地ナキコト明瞭ナリ恐ラク米國モ同様ナルヘシ日本ニ於テモ英國ノ此立場ヲ充分了解センコトヲ希望ス」

尙英國大使ハ之ニ附加ヘ八時砲巡洋艦ニ付テハ日本ニ於テ右ノ案ニ不滿ナルカ如ク傳ヘラルルモ該案ニ依レハ日本ノ保有量ハ英國ニ對シ七割ヲ超過スルモノナルカ故ニ英國トシテハ日本ニ之レ以上ノ保有量ヲ認メ得ヘキ立場ニ在ラサルコトヲ切言セリ

仍テ幣原大臣ハ我カ要求ノ三點中一點ノミ貫徹セラレタルニ過キササル旨ヲ述ヘ斯カル情況ノ下ニ於テ右案ニ不滿ヲ抱ク者アルハ免レ難シ政府トシテハ目下極メテ真剣ニ攻究中ニシテ未タ何等結論ニ到達スルニ至ラス然カレトモ英國政府同様日本政府ニ於テモ何トカシテ圓滿ニ協定成立ヲ見ンコトヲ切望スルモノナル旨ヲ答ヘ次ヲ雜談トシテ我民衆ハ英國カ大型巡

三月二十日
東京
幣原大臣
來訪

三月十八日
日本
英國大使
來訪

洋艦ニ關スル我主張ニ反對ナル理由ヲ了解スルヲ得ス濠洲等ノ不安ト云フカ如キハ何等カノ口實ニ過キサル可シト考ヘ居ル現狀ヲ説述セリ

二、濱口總理宛「マクドナルド」ノ「メッセージ」

三月二十一日午前在本邦英國大使ハ幣原大臣ヲ來訪シ左記ノ電報ヲ朗讀シ右ハ「マクドナルド」ヨリ特ニ濱口總理ヘ宛テタル「メッセージ」ナルニ付同總理ヘ轉達アリ度キ旨ヲ依頼セリ

三月二十一日
英國大使
幣原大臣
來訪

In my opinion, nothing should be left undone to prevent such a disaster as the break-down of the compromise.

It is a result of prolonged negotiation between the three Powers, and embodies the furthest concessions to which we or the Americans could go. It appears to our experts to give Japan defensive position which is fully adequate. Japan makes only one concession; namely, to reduce her submarine fleet from 78,000 tons to 52,700, and even this concession is secured by qualifying parity in this category with the U.S. and ourselves. If we fail to reach agreement, all hope of reduction in battle fleet and battleship construction will be lost. We may be able to make arrangement with the U. S. to preclude naval competition in auxiliary craft. But so far as Japan is concerned, naval competition will recommence.

仍ツテ幣原大臣ハ之ヲ受諾スルト共ニ右電文中日本ノ讓歩セル所ハ潛水艦保有量ノ減少ノミナリト趣旨ヲ記載シ居ル處帝國政府ハ未タ妥協案ノ報告ニ接シタルノミニシテ之ニ對シ諾否ノ意見ヲ決定スルニ至ラス從ツテ日本トシテハ斯ル讓歩ヲ認メタル事ナキモノナリ若シ右辭句ノ意義カ妥協案ニヨレハ日本側トシテ斯カル讓歩ヲ行フ事トナルトノ趣旨ナリトセハ同案潛水艦問題以外ニ日本ノ最モ重キヲ置ク大型巡洋艦ノ對米比率ニ付キテモ日本ノ讓歩ヲ求ムルモノナル旨ヲ指摘シタリ次テ餘談トシテ我全權ヨリ八時砲巡洋艦代換ニ關スル留保案トシテ英米側ヨリ異議ヲ唱フル事ヲ妨ケサルモノナル旨ノスルノ權利ヲ留保スル旨ノ案文トナリ居ルモ英國案ハ特ニ之ニ對シテ英米側ヨリ異議ヲ唱フル事ヲ妨ケサルモノナル旨ノ但書ヲ附シ居レリ固ヨリ會議ヲ開催スル以上參加國ハ如何ナル主張モ自由ニナス事ヲ得ヘキモノナルカ故ニ英國案ノ如ク日本ノ主張ニ對シ異議ヲ唱フル事ヲ妨ケサル旨明記スル事ハ如何ナル必要ニ出ツルヤ了解スル事難ク斯ル但書ハ目立チテ

不快ナル印象ヲ與フルノ嫌アリ又潛水艦ノ均勢ハ元來日本ノ要求セル條件ニアラス之ヲ英米側ノ讓歩ナルカ如ク認ムルハ正確ヲ缺クトコアル事ヲ語リ次ニ日本政府ハ目下眞面目ニ全體問題ニツキ考究中ニシテ何等ノ結論ニ到達スルマテハ尙若干ノ日數ヲ要スヘク此ノ際英國政府ニ於テ昨今本邦新聞紙ニ表ハルル記事ニ刺戟セラレ性急ニ日本政府ノ結論ヲ促サルルカ如キ事ナキ様希望スル旨ヲ述ヘ置キタリ英國大使ハ之ニ同感ヲ表シ右「メッセージ」ヲ濱口首相ニ傳フル事モ本大臣ノ裁量ニヨリ差控ヘ差支ナキ旨ヲ答ヘタリ

三、英米ノ「メッセージ」ニ關スル我方非公式聲明

英米「メ
ッセージ」
ノ反響

英米ノ「メッセージ」ハ本邦側ニ相當ノ反響ヲ起シ或ハ政府攻撃ノ一材料タラントスル虞アル一面ニ外國人側ニモ「シヨツク」ヲ與ヘタルモノノ如ク米國大使ハ館員ヲ次官ノ許ニ差越シ右「メッセージ」ハ會議促進ノ希望ヲ述ヘタル以外ニ他意無カリシハ其ノ文面ニ明白ナレハ之ヲ公表スルモ異存ナク又大使ハ之ヲ外相ニ取次クヲ好マサリシモ「スティムソン」ヨリ再電ノ次第モアリ且萬一會議決裂ノ場合當時之ヲ取次カサリシカ故ニ不幸ナル結果ヲ見ルニ至レリトノ非難生スルノ憂モアルニ付一應外相迄傳達シテ其裁量ニ委ネタル次第ナルハ次官承知ノ通りナリ云々ト述ベシメ英國大使ハ自ラ次官ヲ來訪シ新聞記事ハ事實ヲ誣フルモノニシテ甚タ迷惑ヲ感スル意ヲ述ヘタリ

四月二日
新聞記者
ニ對スル
本省ノ説
明

依ツテ外務大臣ハ二日本省係官ヲシテ新聞代表者ニ對シ「マクドナルド」「スティムソン」兩氏ヨリ濱口首相ニ宛テ或ル種ノ「メッセージ」ヲ送ラムトセルハ事實ナルモ右ハ三國間ノ友好關係ト會議ノ成功トヲ念トスルノ外他意ナキコト明カニシテ英米兩大使ヨリ外務大臣ニ右「メッセージ」ヲ讀聞カセタル際兩國政府ニ於テハ帝國政府ニ對シ何等壓力ヲ加ヘントスルノ趣旨ハ毛頭之無カリシ旨ヲ斷ハリ若シ外務大臣ニ於テ此ノ際斯ノ如キ「メッセージ」ヲ首相ニ傳達スルハ面白カラストスルニ於テハ傳達セサルモ苦シカラストノコトナリシニ依リ外務大臣モ終ニ首相ニ傳達ヲ差控ヘタル次第ナル旨ノ談話ヲ爲サシメタリ

四、若槻「マクドナルド」會談

英首相
諾政府
的受
切望
答

三月二十一日會談

三月二十一日若槻全權ハ需ニ應シ首相官邸ニ首相ヲ往訪セル處首相ハ日本政府カ代案ヲ作成シツツアリトノ新聞記事ハ果シテ事實ナリヤヲ問ヘルニ付若槻全權ハ我國情ハ英米ト同シカラス各方面ノ意見ヲ纏メ同訓ヲ發スル迄ニハ相當ノ時日ヲ要スヘキ旨ヲ説キ政府ニ於テ折角苦心申ナルコトハ新聞報ニテ片鱗ヲ覗ヒ得ヘキモ政府意見ノ内容ニ付テハ未タ何等報道ヲ受ケ居ラスト答ヘタル處首相ハ今次ノ會議ハ一九三六年迄ノ一時的協定ヲ遂クルコトヲ目的トシ一九三五年ノ會議ニ於テ列國ハ何レモ今日ト同様ノ立場ニ立ツヘキコトヲ基調トスルモノナルニ付其ノ趣旨ニテ何等杞憂ナク協定案ニ考慮ヲ加ヘラレンコトヲ切望スル旨述ヘタルニ付若槻全權ハ其ノ點ハ日本側ニ於テ充分諒得シ居ルモ意見ヲ纏ムル迄ニハ政府ニ於テ一方ナラサル困難ヲ嘗メ居ル事情ハ之ヲ善解セラレンコトヲ冀ハサルヲ得スト申入レタリ

(ロ) 三月二十七日會談

越テ二十七日首席全權會議前(英首相ハ二十六日ヨリ會見ヲ希望シ居リタリ)會見ノ際ニモ英首相ハ若槻全權ニ對シ出來得ル限り五國協定ヲ成立セシメントシテ努力シツツアルモ「各國全權共多忙ノ身ナレハ會議ハ成ルヘク速ニ切上ケサルヘカラス就テハ決シテ不平構シキコトヲ申スニハ非サルモ出來得レハ東京ヨリノ回答ヲ取急ク様御盡力ヲ願ヒ度シ會議議長トシテ全ク友好的ノ意味ニテ申上ケル義ナルカ回答遲延ヲ「エンカレージ」スルカ如キコト無キ様切望ス」ト述ヘ次テ曩ニ三國假妥協案ヲ東京ニ電示シタルカ右ハ我方ノ請訓後ニシテ當時我方ニ通知スヘキヲ失念シ申譯ナシ但シ我方ヲ出シ拔キ日本政府ニ申入ヲ爲サントスル意向ナカリシコトヲ諒解願度シト申出タルニ付若槻全權ハ同訓ハ我全權ニ於テモ待チ居ル所ニテ實ハ其ノ遲延ヲ氣ニシ居レルモ我國情ニ見テ暇取ルコトハ當初ヨリ覺悟シ居レリ然レトモ最早ヤ不遠ス回答ニ接スヘシト思考スル旨ヲ述ヘ更ニ「自分ハ當初ヨリ五國協約ハ望マシキモ已ムヲ得サレハ三國協定ニテモ差支ナシト考ヘ居レルカ日本側ニテ今日我主張ノ貫徹不十分ナルヘキ形勢ヲ見テ三國協定ニテハ不可ナリト云フカ如キ意向ヲ洩シ居ル者モ有ル模様ナリ又英國大使ヨリ外務大臣ヘノ申入レノ件ニ關シテハ日本全權部ニハ之ヲ壓迫的ノモノト見テ昂奮シタル

「メッ
ー
ッ
ニ
相
關
ス
ル
解
解

我同答促
進方首相
希望

者モアリ余モ餘リ感服ハセサリシモ兎ニ角自分トシテハ只今斯ル手續ノ問題ヨリモモツト大ナル問題ニ注意ヲ集中シ居ル次第ナリ余ハ今出來得ル丈ク詳細ニ當地ノ事情ヲ説明シテ政府ノ判斷ヲ求メ居レリ唯國防主管者中ニハ今回ノ假妥協案中大型巡洋艦及潛水艦ノ點ニ異論ヲ有シ從テ決定遲レ居ルモノノ如シ(先方ノ應答振ヲ見シカ爲ス述ヘタリ)然レトモ最早返事ノ來ル頃ナリト考フ」ト述ヘタルニ首相ハ五國會議ヲ纏ムルニ付困難多キハ事實ナルモ其ノ困難ヲ利用セントスルノ策ハ無益ニ終ルヘキコトヲ確信ス自分ハ今日ト雖モ五國協約ノ成立ニ苦心シ居ルモ場合ニ依リテハ三國ノミニ協定ニ止メサルヘカラサルヤモ知レスト述ヘ尙「英國大使ヲシテ外務大臣ニ申入レシメタルハ全ク貴全權等ノ立場ニ支援ヲ與ヘント欲シタルカ爲メナルコトモ御承知願度シ」ト附言セリ

(二) 帝國政府ノ回訓

帝國政府ノ訓令ハ四月一日接到セリ(同日閣議決定)右ハ三部ヨリ成リ第一部ハ訓令ノ本文第二部ハ三國妥協案ノ内容第三部ハ我了解若ハ希望ヲ達成スルノ方法ヲ掲記ス

訓令本文

一、訓 令 本 文

一、英米兩國全權トノ内交渉ノ結果トシテ過般稟申セラレタル日英米三國間妥協案ハ別電ノ通リト諒解セララルモ爲念一應之ヲ確メラレタル上左記ノ趣旨ヲ英米兩國全權ニ回答セラレタシ

二、帝國政府ハ特ニ國際ノ平和親善ヲ増進スルノ目的ニ重キヲ置キ之カ爲メニ終始及フ限リ倫敦會議ノ成功ニ協力スルノ強固ナル決心ヲ有ス此見地ヨリ今回ノ妥協案ヲ查スルニ本案ノ成立スル場合ニハ數年ノ後帝國海軍ノ相對的實勢力ハ逐次(逐次ハ追次ノ誤)低下スルコトナルヘキヲ以テ自然我國民ハ自國ノ國防ニ關シ不安ノ念ヲ抱クコトナキヲ保シ難ク事茲ニ到ラハ前記ノ主要ナル目的ハ達成セラレシテ却テ國際關係ノ疑惑誤解ハ深キヲ加フルノ虞ナシトセス是レ帝國政府ノ最痛心スル所ナリ然レトモ本案ハ千九百三十六年迄ノ事態ヲ律セムトスルニ止マリ爾後各國ノ保有スヘキ兵力量ニ至リテハ別ニ千九百三十五年ノ會議ニ於テ協議決定セラレヘキ趣旨ト解セラルルカ故ニ帝國政府ハ關係各國全權

カ本案ノ作製ニ當リテ示サレタル交讓協調ノ精神ヲ深ク諒トシ本案ノ骨子ヲ條約案ノ基礎トシテ承認スルコトニ決セリ

三、帝國政府カ此決定ヲ爲スニ到リタル趣旨ハ前述ノ通ナルヲ以テ八吋砲巡洋艦ノ問題ニ付テハ此際日本カ本案ニ同意ヲ表示スルハ豫メ千九百三十五年ノ會議ニ於ケル我國ノ主張又ハ立場ヲ何等拘束スルモノニ非ス(centrally without prejudice)トノ明瞭ナル諒解ヲ得ル事ヲ要ス斯ノ如キハ殆ト自明ノ理ニ過キスト雖之ヲ反覆闡明スルハ幾分我カ民心ノ不安ヲ除クニ效果アリト信スルカ爲ナリ

四、潛水艦問題ニ付キ本案カ我カ製艦技術及ヒ工業力ヲ維持スルニ重大ナル障害アルヘキハ關係各國全權ニ於テモ容易ニ諒解セララル所ナルヘシ

即チ本案ニ依ル時ハ全然潛水艦ノ新造ヲ認メラレサルカ故ニ熟練職工ノ解雇並ニ若干民間工場ノ閉鎖ヲ要シ之ニ伴ヒテ失業問題ヲ一層深刻ナラシムルノ結果ヲ免レス帝國政府ハ之カ爲メ本妥協案ニ對スル具體的修正案ヲ提出シテ會議ノ進行ニ新ナル紛糾ヲ加フル事ヲ欲セスト雖本案ノ必然我國ニ齎スヘキ事實上ノ困難ヲ卒直ニ開示シテ此ノ困難ヲ緩和スルニ足ルヘキ何等カノ方法ヲ講セムカ爲ニ關係各國ニ於テ友好的考量ヲ加ヘラレム事ヲ希望ス是レ亦以テ本件協定ノ圓滿ナル成功(成功ハ施行ノ誤)ヲ期スルノ意ニ外ナラサルナリ將又佛、伊トノ關係上等潛水艦ニ關スル英米ノ保有量増加スル場合ニハ我國ノ保有量モ亦當然増加シテ均勢ヲ保ツヘキモノト諒解ス

三國妥協案ノ内容

二、三國妥協案ノ内容

(一) 日英米三國妥協案ノ内容ハ左ノ通りト了解ス

第一、一九三六年ニ於ケル日英米補助艦保有量左ノ如シ

甲	八吋砲巡洋艦	日本	十二隻十萬八千四百噸(米國カ十五隻十五萬噸ヲ超エテ建造ヲ行フ場合ニハ日本モ亦之ニ相當ス)
---	--------	----	--

ル新艦建造ノ權利ヲ一九三五年ニ開催セララルヘキ會議ニ於テ主張スルノ自由ヲ有ス此ノ趣旨ニヨル留保ノ案文形式ニ付テハ未決定)

英	國	十五隻十四萬六千噸
米	國	十八隻十八萬噸(一九三五年ノ會議以前ニ竣工スルモノハ十五隻十五萬噸ヲ超エス第十六隻ハ一九三三年第十七隻ハ一九三四年第十八隻ハ一九三五年ニ起工スルモノトス)

乙 輕巡洋艦

日	本	十萬四百五十噸
英	國	十八萬八千七百噸
米	國	十四萬三千五百噸

丙 驅逐艦

日	本	十萬五千五百噸
英	米	十五萬噸

丁 潛水艦

日英米均勢	五萬二千七百噸
-------	---------

總計

日	本	三十六萬七千五十噸
英	國	五十三萬七千四百噸
米	國	五十二萬六千二百噸

第二、條約存續期間ヲ一九三六年末迄トシ右期日以後ノ事態ニ就テハ一九三五年ニ締約國間ノ會議ヲ開催シテ協議ス

第三、本假協定ハ佛伊ヲ加ヘタル五國條約ノ一部ヲナスモノトス

(二) 英國ノ巡洋艦保有量不明ナル所ハ八吋砲艦ニ關シテハ日英保有勢力ノ近接ヲ論據トセル英國側ノ言說ニ徴シ十五隻十四萬六千噸ニ満足スルモノニシテ貴電第 號(米國試案)ノ「オブション」ヲ行使ヒサルモノト了解ス從テ輕巡洋艦ニ關シテモ「オブション」ヲ行使セサル保有量ヲ基礎トシ米國保有量減少噸數ト同量ノ削減ヲ行ヒテ算定セリ

(三) 潛水艦ニ付テハ佛伊トノ關係上等英米ノ保有量増加スル場合ニハ我國ノ保有量モ亦當然増加シテ均勢ヲ保ツヘキモノト了解ス

(四) 佛伊ノ參加ヲ見サル場合ニ於テモ日英米三國ハ本假協定ノ趣旨ニ依リ海軍條約ヲ締結スル決意ヲ有スルモノニシテ右條約ハ主力艦代換建造延期ニ關スル三國間ノ協定ヲ包含スヘキモノト了解ス

(五) 前掲ノ諸項ハ何レモ我が國ノ重要視スル所ナルニ付明確ニ英米側ノ言質ヲ取付置カルル様致シ度シ尤モ(四)ノ了解ハ佛伊トノ交渉ノ結果ヲ見ル迄嚴重祕密ニ付シ外部ニ發表セサル事ト致シタシ

我了解
ハ希望達
成ノ方法

三、了解若ハ希望達成ノ方法

(一) 往電第 號(三)ハ八吋砲巡洋艦ニ關スル了解ヲ如何ナル形式ニテ表明スヘキカハ内政上ノ見地ニモ關係アル處貴電第 號ニ依レハ目下貴方ニ於テ御考案中ノ趣旨ニ付右電訓ノ趣旨ニヨリ豫メ案ヲ具シテ電票セラルル様致度シ

(二) 往電第 號(四)ハ潛水艦ニ關スル希望ニ就テハ特ニ我方ヨリ具體案ヲ提示スルコト無ク英米側ニ於テ適當ナル解決案ヲ考慮セムコトヲ求ムルニ止メタル次第ナルカ其ノ解決案トシテハ例ヘハ(イ)驅逐艦保有量ヨリ融通シテ潛水艦保有量ヲ増加スルコト(我方トシテ最モ此方法ヲ希望スルコトハ夙ニ御了知ノ通り)又ハ(ロ)五萬二千七百噸ノ範圍内ニ於テ艦齡未滿ノモノ若干隻ノ代換ヲ繰上ケ新造スルノ餘地ヲ存セシムルコト等ヲモ考ヘ得ラルヘク要スルニ交渉決裂ノ危險ヲ冒カササル範圍内ニ於テ先方ト意見ヲ交換ノ上閣下ノ御裁量ニ依リ適當ニ議ヲ纏メラレ度シ

(三) 八吋砲艦ニ付テモ條約存續期間中新艦ノ建造ニ着手スルヲ得サル困難アルコトハ潛水艦ニ關スルト異ル所無キ次第ナ

ルカ妥協案ノ主眼タル本問題ニ手ヲ觸ルルコトハ協定全部ヲ覆ス結果ヲ見ル可キニ付之ニ言及スルヲ避ケタルモノナリ然レトモ古鷹級ノ如キ小型艦ニ在ツテハ竣工後十六年ヲ以テ代換ノ豫定ニテ計畫建造セルモノナルニ付一萬噸級ト同シク二十年ノ代換艦齡トナスコトハ到底不可能ノ實狀ニテ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルモノナルモ右ハ今回ノ條約存續期間中ニ生スル現實ノ問題ニアラサルカ故ニ此際提起スルコトヲ差控ヘタリ唯同艦型ハ八吋砲艦トシテ小サキニ過キ之カ代換ニ際シテハ稍大型艦ニ變更スルコトヲ要スルモノナルニ付條約存續期間中ニ破壊又ハ亡失スル場合ノ規定ヲ設クルニ當リテハ右ノ趣旨ヲ入ルル様御盡力アリ度シ

(四) 輕巡洋艦及驅逐艦ニ關シテモ艦齡問題討議セラルル機會ニ於テハ工業力維持ノ見地ヨリモ既成艦ニ對シテ一定ノ特例ヲ設ケ度キ意嚮ナリ

(五) 條約ノ效力ニ關スル規定(華府海軍條約第二十三條參照)ヲ起草スルニ當リテハ本電(一)ノ了解ノ趣旨ニ適應スル爲本條約カ其存續期間滿了後ノ兵力量ヲ拘束スルモノニアラサルコトヲ明カニスル様特ニ御留意アリ度シ